

第62回

令和6年度

神奈川県立高等学校

PTA連合会大会



期 日 令和6年12月21日(土)  
会 場 寒川町民センター ホール  
主 催 神奈川県立高等学校PTA連合会  
後 援 神奈川県教育委員会  
公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部  
協 賛 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会



ごあいさつ

神奈川県立高等学校PTA連合会  
会長 内田 裕美

令和6年度第62回神奈川県立高等学校PTA連合会大会が、本日開催できますことを心より感謝申し上げます。

また、日頃より高P連の活動や事業にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本日はご多忙の中、神奈川県教育委員会教育長花田忠雄様、一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会理事長赤松伸一様をはじめ、多数のご来賓の方々にご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度の高P連は、コロナ禍の経験を踏まえ、試行錯誤しながら新たな活動に取り組んでおります。今回の県大会は、7月に開催されました研修大会と同様に、初めての会場での開催にチャレンジいたしました。準備の段階から、私たち高P連は寒川町に足を運び、またお花やお弁当を地元のお店にお願いするなど、地域とのつながりもできて嬉しく思います。

本日の県大会では、昨年度PTAの活動にご尽力されました方々への感謝状の贈呈や、広報紙コンクール、広報紙表紙コンクールの表彰がございます。皆さまの功績に敬意を表します。また、PTA活動事例発表では、県内10地区の地区大会で発表された中から選出されました2校の発表がございます。PTAが抱える問題への考察や、新たな取り組みにチャレンジする様子に気づきを得て自校へ持ち帰り、活動のヒントとなれば幸いです。

さて、本日の講演は、料理研究家のコウケンテツ氏による「家族で楽しむ食育～世界30ヵ国のキッチンで学んだ大切なこと～」です。世界各国を旅し、さまざまな国、地域を巡ってきたご経験から、食育の大切さや楽しみ方についてお話いただきます。皆さまにとって、よい学びになりますことを期待しています。

本日の県大会は、会場を知ることから始まり、役員一同、アイデアを持ち寄り準備に取り組んでまいりました。至らない点もあるかと思いますが、今大会が、各校PTA活動のスムーズな運営やますますの活性化、そして子どもたちの健全育成に繋がることを期待しています。

結びに、大会にご参加の皆さま、配信をご覧になっている皆さま方のご健勝とご発展を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

# 目 次

ごあいさつ

神奈川県立高等学校PTA連合会 会長 内田 裕美

## ◆大会要項・日程等◆

大会要項	1
大会日程	2
大会役員	3
大会来賓・広報紙コンクール審査委員	4
表彰者名簿	5

## ◆広報紙コンクール・広報紙「表紙」コンクール◆

募集要項	6～7
第48回広報紙コンクール・第8回広報紙「表紙」コンクール表彰校	8
歴代最優秀賞受賞校（過去15年間）	9

## ◆講演・PTA発表◆

講演	演題：『家族で楽しむ食育 ～世界30カ国のキッチンで学んだ大切なこと～』 講師：コウケンテツ氏	10
活動事例発表1	県立麻生高等学校PTA	11
活動事例発表2	県立大磯高等学校PTA	12

## ◆地区協議会報告◆

横浜北地区	13～24
横浜中地区	25～28
横浜南地区	29～33
川崎地区	34～40
横須賀三浦地区	41～48
湘南鎌倉地区	49～61
平塚秦野地区	62～66
県西地区	67～70
県央地区	71～74
相模原地区	75～84

## ◆参考資料（高P連・教育委員会）◆

### 高P連

令和6年度組織概要	85
〃 事業概要	86
〃 地区大会一覧表	87
〃 地区交通安全大会一覧表	88
〃 高P連交通安全対策組織図	89

県大会講師一覧	90
---------	----

### 教育委員会

子どもの成長を支援するための主な相談機関一覧	91～92
------------------------	-------

## ◆安全振興会のあらまし

A-1～A-10

# ◆大会要項・日程等◆

## 第 62 回 神奈川県立高等学校 P T A 連合会大会要項

### <趣旨>

健全でたくましい心身を持ち、創造性に富んだ国際感覚豊かな青少年を育成するため、神奈川県立高等学校 P T A 連合会の会員が県内における P T A 活動や生徒を取り巻く環境に関する知識を深めることで、各校 P T A の望ましい姿を探求し、新しい時代の P T A 活動の充実と発展に役立てる。

### <テーマ>

『学び・伝え・活かす』

### I 大会概要

- 1 主 催 神奈川県立高等学校 P T A 連合会
- 2 後 援 神奈川県教育委員会  
公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部
- 3 協 賛 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会
- 4 期 日 令和 6 年 12 月 21 日（土）12：40～16：50
- 5 会 場 寒川町民センター  
(〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山 1 6 5)  
※YouTube 限定配信視聴 併用
- 6 参加者 神奈川県立高等学校・中等教育学校 各校 P T A 会員
- 7 参加費 無料

### II 大会日程

- 1 会場受付・YouTube 配信待機 12：10～
- 2 開会式・表彰 12：40～
- 3 作文コンクール 13：20～
- 4 広報紙コンクール 13：35～
- 5 休 憩 14：05～
- 6 P T A 活動事例発表 14：20～
- 7 保険説明 15：20～
- 8 休 憩 15：25～
- 9 講 演 15：40～  
演題：『家族で楽しむ食育  
～世界 30 カ国のキッチンで学んだ大切なこと～』  
講師：料理研究家 コウケンテツ 氏
- 10 閉 会 16：50（予定）

# 大会日程

## I 大会開会式・表彰式 (12:40~13:15)

(司会: 神奈川県立高等学校PTA連合会 副会長 小林 義和)

- 1 主催者あいさつ 神奈川県立高等学校PTA連合会 会長 内田 裕美  
神奈川県立学校長会議 議長 會田 勉
- 2 来賓あいさつ 神奈川県教育委員会 教育長 花田 忠雄  
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会 理事長 赤松 伸一
- 3 県知事感謝状 贈呈
- 4 高P連会長感謝状(個人)、表彰状(団体) 贈呈
- 5 謝辞 神奈川県立高等学校PTA連合会 前会長 橋本 千春

## II 作文コンクール最優秀作朗読 (13:20~13:30)

- 1 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会 作文コンクール最優秀作朗読
- 2 記念品贈呈

## III 広報紙コンクール・「表紙」コンクール表彰式 (13:35~14:05)

◆◆◆◆◆ 休憩 (14:05~14:20) ◆◆◆◆◆

## IV PTA活動事例発表 (14:20~15:20)

- 1 活動事例発表1 14:20~14:45  
発表校 川崎地区 麻生高等学校PTA  
質疑
- 2 活動事例発表2 14:50~15:15  
発表校 平塚秦野地区 大磯高等学校PTA  
質疑
- 3 講評 15:15~15:20  
講評者 神奈川総合産業高等学校 校長 樋口 一孝

## V 保険説明 (15:20~15:25)

◆◆◆◆◆ 休憩 (15:25~15:40) ◆◆◆◆◆

## VI 講演 (15:40~16:45)

演題:『家族で楽しむ食育 ~世界30カ国のキッチンで学んだ大切なこと~』

講師: コウケンテツ 氏

## 大会役員

会 長	内田 裕美	
副 会 長	村田 広美 角田 徹	植村 哲哉 小林 義和
顧 問 県立学校長会議 議長	會田 勉	
高P連相談役	八田 直昭 布施 和久	松本 靖史
地区協議会会長校 校長	八田 直昭 (横浜北) 坪内 幸子 (横浜南) 會田 勉 (横 三) 河合 俊直 (平 秦) 篠田 聡 (県 央)	中川 治彦 (横浜中) 千葉美希子 (川 崎) 布施 和久 (湘 鎌) 塩浦 健吾 (県 西) 樋口 一孝 (相模原)
委 員	藤下 貴雄 (会 計) 岩澤のえみ (総 務) 石井 宏幸 (総 務) 釣 一博 (監 事) 篠原 香織 (横浜北) 桃井 貴裕 (横浜南) 町田ひとみ (横 三) 小西 恵子 (平 秦) 西森 憲一 (県 央)	橋本 愛 (会 計) 菊地 朋美 (総 務) 関 みどり (監 事) 石川 美和 (横浜中) 明野 朝子 (川 崎) 岡本 房緒 (湘 鎌) 小松崎菊代 (県 西) 鈴木 博之 (相模原)

## 大会来賓

神奈川県教育委員会	教育長	花田 忠雄
	生涯学習課長	伊藤 聡
公益財団法人日本教育公務員弘済会神奈川支部	支部長	井藤 直美
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会	理事長	赤松 伸一
	常務理事	反町 聡之
	常務理事	吉川 亮
	常務理事	中野真衣子
	事務局長	田村 丈晴
相模原市PTA連絡協議会	会長	中村 岳彦

## 広報紙コンクール審査委員

神奈川新聞社統合編集局	編成部長 兼 経営戦略本部	小野たまみ(審査委員長)
神奈川県教育委員会生涯学習課	主事兼社会教育担当	佐野 誠
神奈川県立学校長会議	高P連相談役	松本 靖史
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会	常務理事	吉川 亮
神奈川県立高等学校PTA連合会	副会長	植村 哲哉

## ◇第62回 県大会表彰者名簿◇

① 県知事感謝状 (※役員・理事として3年以上在任され令和5年度で退任された方)

表彰者名	役 職
橋 本 千 春	前 高 P 連 会 長

② 高P連会長感謝状（個人） (※令和5年度で退任された役員・理事)

表彰者名	役 職	表彰者名	役 職
橋 本 千 春	前 高 P 連 会 長	皆 川 万 記 子	前 高 P 連 理 事
大 村 智 香 子	前 高 P 連 総 務	武 田 澄 江	前 高 P 連 理 事
富 澤 昇 吉	前 高 P 連 理 事	大 瀧 美 和	前 高 P 連 理 事
山 形 せ つ こ	前 高 P 連 理 事	川 合 栄 二	前 高 P 連 理 事
大 島 武	前 高 P 連 理 事	田 辺 大 輔	前 高 P 連 理 事

③ 高P連会長表彰（団体） (※令和5年度理事校)

表 彰 団 体 名			
神 奈 川 県 立	霧 が 丘	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	金 井	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	横 浜 明 朋	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	新 城	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	横 須 賀 南	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	平 塚 中 等	教 育 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	小 田 原	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	座 間	高 等 学 校	P T A
神 奈 川 県 立	上 溝	高 等 学 校	P T A

# ◆広報紙コンクール◆

第48回広報紙コンクール

第8回広報紙「表紙」コンクール

## 第48回 神奈川県立高等学校PTA連合会広報紙コンクール募集要項

- 1 趣 旨 神奈川県立高等学校PTA連合会に所属する県立学校および中等教育学校のPTAが発行する広報紙作品を広く募集し、優秀作品を表彰することによりPTA広報活動の活性化を促進し、PTA活動の一助とすることを目的とします。
- 2 主 催 神奈川県立高等学校PTA連合会  
後 援 神奈川県教育委員会  
株式会社神奈川新聞社  
協 賛 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会
- 3 応募要領
  - ① 対象作品：各校PTAで発行される広報紙で、令和5年10月18日から令和6年10月17日までに発行された広報紙一点とします。PTAが発行したもので、手書き・手作りを含み、発行方法、印刷方法や版型については、特に規定しません。
  - ② 応募期間：令和6年9月17日（火）～10月17日（木）必着
  - ③ 送付部数：審査対象の広報紙 12部（Web発行の場合は、印刷したものを提出すること）
  - ④ 送り先：〒231-0023 横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル9F  
神奈川県立高等学校PTA連合会事務局 宛
- 4 審査委員会 審査については、審査委員会を構成して審査に当たります。  
審査委員会は、株式会社神奈川新聞社、神奈川県教育委員会、一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会、神奈川県立高等学校PTA連合会で構成いたします。
- 5 審査項目
  - ① PTA広報紙として必要な情報を伝えると同時に、考察や提案をまじえた紙面づくりができています。
  - ② 企画力を感じる。
  - ③ 写真・レイアウト・見出しにデザイン性やインパクトが感じられる。
  - ④ 広報紙として学校の雰囲気や魅力を十分伝えている。上記の審査項目に基づき、PTA広報紙の持つ目的・役割・記事・編集・レイアウト・見出し・文章などを総合的に審査いたします。
- 6 審査委員会 令和6年11月2日（土）
- 7 表 彰 最優秀賞：1校  
優 秀 賞：4校  
（教育委員会教育長賞1校 神奈川新聞社賞1校 安全振興会賞1校  
神奈川県立高等学校PTA連合会校長賞 1校）  
奨 励 賞：5校  
安全振興会写真賞：1校  
写 真 賞：1校  
企 画 賞：1校  
編 集 賞：1校
- 8 表 彰 式 日 時 令和6年12月21日（土）  
会 場 寒川町民センター

## 第8回 神奈川県立高等学校PTA連合会広報紙「表紙」コンクール募集要項

- 1 趣 旨 神奈川県立高等学校PTA連合会に所属する県立学校および中等教育学校のPTAが発行する広報紙作品を広く募集し、優秀作品を表彰することによりPTA広報活動の活性化を促進し、PTA活動の一助とすることを目的とします。
  
- 2 主 催 神奈川県立高等学校PTA連合会  
後 援 神奈川県教育委員会  
株式会社神奈川新聞社  
協 賛 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会
  
- 3 応募要領
  - ① 対象作品：各校PTAで発行される広報紙で、令和5年10月18日から令和6年10月17日までに発行された広報紙一点とします。PTAが発行したもので、手書き、手作りを含み発行方法、印刷方法や版型については、特に規定しません。
  - ② 応募期間：令和6年9月17日（火）～10月17日（木）必着
  - ③ 送付部数：審査対象の広報紙 1部（Web発行の場合は、表紙をjpeg形式にしてメール添付）  
（対象作品期間内であれば、広報紙コンクールに応募した同じ号でなくてもよい）
  - ④ 送り先：〒231-0023 横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル9F  
神奈川県立高等学校PTA連合会事務局 宛  
※メールの場合：kana.koupren@kanagawa-koupren.org ヘメール添付
  
- 4 審査方法 神奈川県立高等学校PTA連合会理事会（11月2日（土）開催）にて審査  
※審査員：役員12名・各地区協議会理事10名
  
- 5 表 彰 最優秀賞：1校、優秀賞：2校
  
- 6 表彰式 日 時 令和6年12月21日（土）  
会 場 寒川町民センター

令和6年度 第48回広報紙コンクール表彰校

賞	校名
最優秀賞（1校）	
優秀賞（4校）	
神奈川新聞社賞	
神奈川県教育委員会教育長賞	
神奈川県立高等学校PTA連合会校長賞	
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会賞	
奨励賞（5校）	
安全振興会写真賞（1校）	
写真賞（1校）	
企画賞（1校）	
編集賞（1校）	

【受賞校一覧】五十音順

生田東高校	市ヶ尾高校	海老名高校	大磯高校
海洋科学高校	神奈川総合高校	川崎高校	相模原弥栄高校
座間高校	湘南高校	西湘高校	多摩高校
平塚中等教育学校	横須賀高校		

令和6年度 第8回広報紙「表紙」コンクール表彰校

賞	校名
最優秀賞	
優秀賞（2校）	

## 歴代最優秀賞受賞校（過去15年）

回数	年度	受賞校
47	令和5年度	神奈川総合高等学校
46	令和4年度	生田東高等学校
45	令和3年度	七里ガ浜高等学校
44	令和2年度	平塚中等教育学校
43	令和元年度	七里ガ浜高等学校
42	平成30年度	大船高等学校
41	平成29年度	秦野高等学校
40	平成28年度	大船高等学校
39	平成27年度	横須賀高等学校
38	平成26年度	横須賀高等学校
37	平成25年度	川崎高等学校
36	平成24年度	希望ヶ丘高等学校
35	平成23年度	横須賀高等学校
34	平成22年度	多摩高等学校
33	平成21年度	横須賀高等学校

# ◆講演・PTA発表◆

---

講 演

活動事例発表 1

活動事例発表 2

## 【 講 演 紹 介 】

### 演 題：『家族で楽しむ食育』

～世界30カ国のキッチンで学んだ大切なこと～

### 講 師：コウケンテツ 氏

料理研究家

大阪出身。旬の素材を生かした手軽でおいしい家庭料理を提案し、テレビや雑誌、講演会など多方面で活躍中。30カ国以上の国を旅して世界の家庭料理を学ぶ。

3児の父親としての経験をもとに、親子の食育、男性の家事・育児参加や、食の環境改善活動にも力を入れている。

近著は「本当はごはんを作るのが好きなのに、しんどくなった人たちへ」(ぴあほか)。

YouTube「Kohkentetsu kitchen」は登録者数210万人以上の人気チャンネル。

#### 【主なメディア出演】

##### ■TV出演

- <NHK>「ハングル講座」「あさいち」「きょうの料理」
- <NHKBS>「コウケンテツの100年ごはん紀行」
- <テレビ朝日>「徹子の部屋」
- <日テレ>「踊る!さんま御殿」
- <RKB>「たべどころ」など多数

##### ■CM・広告関係

ライオン・アサヒビール・アサヒ飲料・メルセデスベンツ・カゴメ・はくばく・三井製糖・月桂冠・JA・西部ガスなど多数

##### ■レシピ連載(現在連載中)

- ・朝日新聞ボンマルシェ「コウケンテツの名作ごはん劇場」
- ・LEE(集英社)「コウケンテツの韓国ごはんのはなし」
- ・母の友(福音館書店)「やさしくいきましょう」
- ・ゴルフダイジェスト「コウケンテツのおしゃべりキッチン」
- ・アイスム「つくってみよう!休日かそくごはん」

など



※転載禁止

多くのメディア等でご活躍されているコウケンテツ氏の『食育』をテーマにした講演です。『食』を通して、家族の大切さを実感するととても貴重な機会となることと思います。皆さまのご参加をお待ちしております。

## 活動事例発表 1 神奈川県立麻生高等学校 P T A

発表テーマ 「立候補したくなる P T A にするために」

→ 38～40 ページに資料があります。

<メモ>

## 活動事例発表2 神奈川県立大磯高等学校PTA

発表テーマ 「HUB a Good Time

～産官学民をつなぐ青春応援隊！～

→ 65～66 ページに資料があります。

<メモ>

# ◆地区協議会報告◆

---

横浜北地区

横浜中地区

横浜南地区

川崎地区

横須賀三浦地区

湘南鎌倉地区

平塚秦野地区

県西地区

県央地区

相模原地区

(すべての報告書は提出していただいたものをそのまま掲載しています。)

# 横浜北地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会横浜北地区協議会  
後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1日 時 令和6年10月12日(土) 12:45~17:00

2会場 神奈川公会堂 / 神奈川総合高等学校 多目的ホール

3参加者数 200名

4日 程(次第)

## (1) 開会式

### ①開会の言葉

横浜北地区協議会副会長 城郷高等学校 PTA 会長 鶴田 君代

### ②主催者挨拶

横浜北地区協議会会長 神奈川総合高等学校 PTA 会長 篠原 香織

### ③地区学校長会議会長挨拶

神奈川県立学校長会議 横浜北地区会長 神奈川総合高等学校校長 八田 直昭

### ④高P連副会長挨拶

神奈川県立高等学校 PTA 連合会 副会長 小林 義和

### ⑤来賓祝辞

一般財団法人 神奈川県立高等学校安全振興会 常務理事 吉川 亮

## (2) 記念講演

講師 中村 ふじ 氏 ( COACH F 代表 )

演題 「心理的安全性のある組織(チーム)とは…」

## (3) 研究発表

①研究発表Ⅰ 神奈川県立鶴見総合高等学校

「小さな声でも聞いていこう！」

**【鶴見総合高校で PTA のイメージを調査・解析】**

～これからの活動のためにたくさんの意見を聞く。

保護者対象アンケートの実施～

②研究発表Ⅱ 神奈川県立神奈川工業高等学校

「保護者から見た神工の魅力」

④助言者講評 助言者 神奈川県立神奈川総合高等学校 校長 八田 直昭

## (4) 閉会式

## (5) 分科会

副会長、学年、成人、広報、交通安全

タイトル 「小さな声でも聞いて行こう！【鶴見総合高校で PTA のイメージを調査・解析】  
～これからの活動のためにたくさんの意見を聞く。保護者対象アンケートの実施～」

学校名 神奈川県立鶴見総合高等学校 P T A

研究テーマ 「P T A に対する意識について」

## 鶴見総合高校について

本校は、寛政高校と平安高校の2校が再編統合され、鶴見総合高等学校として平成16年(2004年)4月に第1回入学式を挙げてから、昨年度で20周年の節目を迎えました。また本年は、本校の前身である平安高校が、昭和58年(1983年)に現在の校地において開校してから41年目になります。

本施設は、本県が平成12年度から進めている県立高校改革推進計画に基づいて、平安高校と寛政高校との統合により、総合学科の高校として、平成16年度に開校したものです。

増築棟は、総合学科の科目を展開する上で必要となる施設整備を目的に、1階に造形室、美術室及び総合実習室、2階にCG室、表現実習室及び記念室を配置しました。総合実習室は、6畳の和室とダイニングキッチンという日本の一般家庭のような雰囲気の部屋とし、本校に在籍する様々な国籍をもった生徒が、生活習慣等を通じて日本文化を学ぶことができるよう配慮しました。

## 総合学科

特徴的な授業として未来探索があります。

鶴見総合高校では「未来探索」という授業をとおして、一人ひとりの将来像を明確にしていきます。1年次の「産業社会と人間」と2・3年次の「総合的な探究の時間」をあわせて、本校では「未来探索」と呼び、略称の「みらたん」で親しまれています。

「キャリア教育」の考え方にもとづき、3年間の学習をとおして、自分の進路実現にむけた準備をすると同時に、社会人として必要な知識や態度を身につけます。



「挑戦する精神が未来を拓く」

統合再編に向けて、寛政の国際理解教育、平安の職業研究の特色を融合し、総合学科として「未来探索」が始動しました。

開校当初から、保護者、地域の熱意に支えられて学校を育てていただいています。(副校長)



## 外国につながるのある生徒への支援

鶴見総合高校には、毎年全校で 100 名ぐらいの外国につながるのある生徒がいます。そのため、授業をはじめ学校生活全般にわたって色々な支援をおこなっています。鶴見総合高校では、さまざまな文化との出会いを大切にしたいと考えています。



### ◎ 支援内容

日常生活での支援

通訳手配…三者面談、

合格者説明会など

翻訳…基本的なルールや

必要書類の母語訳

ふりがな…学校からのお知らせなど



### ◎ 学習への支援

個別対応授業…日本語のレベルに合わせて少人数で授業をおこなっています。

「日本語」の授業…日本語のレベルに合わせて授業をおこなっています。母語の授業…中国語・ポルトガル語でおこなっています。

キーワード母語訳…教科の学習で重要な語句の母語訳をしています。

学習サポート…日本語学習やその他学習全般を本校教員や外部のサポーターが支援します。

日本語能力試験受験へのサポート…試験は、年 2 回実施されています。

※専門学校進学には N2、短大・大学には N1 取得が目安となります。

### ◎ 受け入れ体制

各年次に支援の中心になっている先生がいます。



### 先生より

総合学科として、100 を超える系列選択科目が開講され、さらに外国にルーツがある生徒が数多く通う本校は、全ての生徒が個性や独創性を育むとともに、学校生活の中で多様性や多文化共生に対する理解を深め、その実践者として社会に貢献できる人づくりを目指しています

### 先生より

本校では、生徒一人ひとりに丁寧に向き合い、生き抜くための力の育成を目指しています。また、生徒が夢を実現できるよう、教職員がサポートしています。生徒たちが鶴見総合で未来を創れるよう、生徒たちの将来に貢献できる教育活動を展開します。

## PTA活動

### ◎ 現在の活動

体育祭…ドリンク提供 七夕…笹飾りの用意

文化祭…おにぎり・豚汁・ペットボトル販売

クリスマス…ツリーの飾りつけ

お正月…門松の飾りつけ

広報誌発行…広報誌に関する素材収集や編集

卒業式 コサージュ作成



### ◎ これからの取り組み

共働きが増えてきた現代では、PTA 非加入世帯の増加、そして役員の選出が大きな課題となっています。そこで、鶴見総合高校 PTA は保護者向けにアンケートを作成しました。

現在 PTA で活動するメンバーが考えたリアルな質問で、現代の保護者の具体的な言葉を集めることが目的です。この内容をもとに、今後の活動について検討・見直しをしてより良い PTA を作っていただけたいと思っています。

PTA の活動を通し、保護者同士の交流や先生との情報交換を行い、多文化共生の環境のなか「何があっても負けない人間力」の育成をサポートしています。

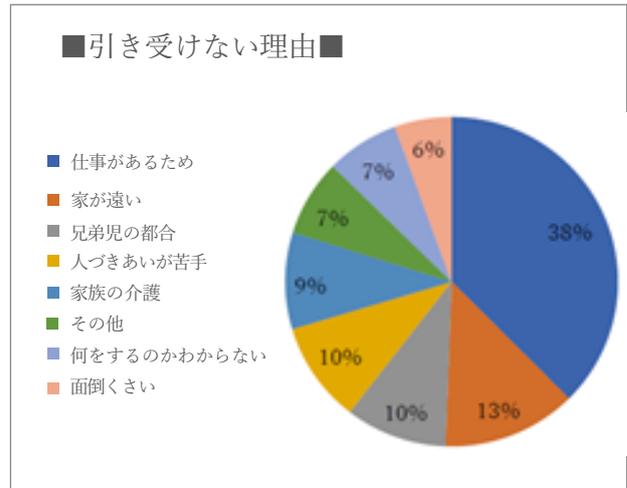
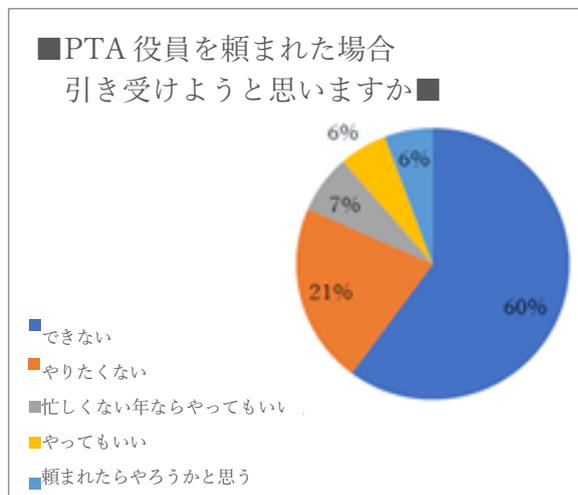
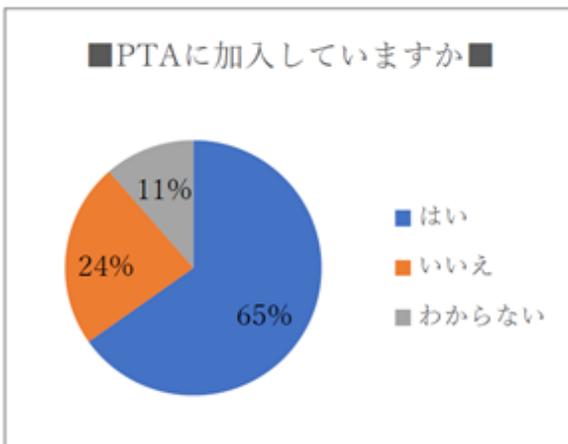
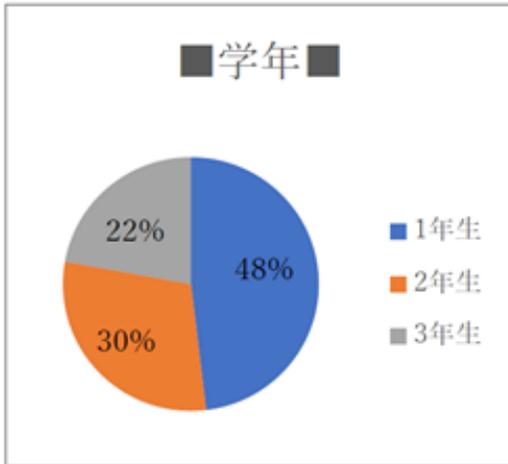
役員の負担を分散し、負担のない活動を目指しながら、新しい役員やサポーターの選出方法を学校と相談して今後も PTA の活動を続けていけるように努力していこうと思っています。



## アンケート結果

回収率	23%
家庭数	700
回答数 web	147
回答数 紙	12

※欠席、web システム未登録などを加味して概算の家庭数で計算しています



### 【その他の意見】

日本語喋れない

病気治療中の為病気の為

PTA の存在意義がわからないから

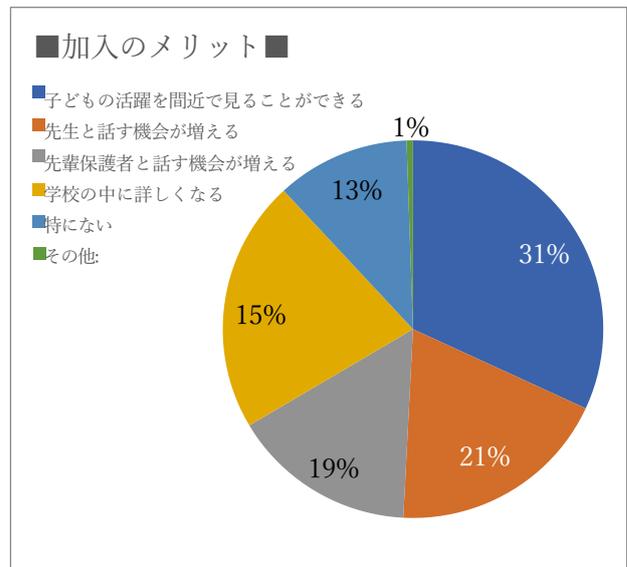
小学校での本部役員を引き受けている為

母子家庭の為仕事を休めない

施設のため

遠方

小学校で PTA 3 年、委員会 4 年やったから時間がありません。



### 【その他の意見】

以前上の子の時に経験済みだから

■PTA を引き受けてもらうためにはどうしたらいいと思いますか■

内容を具体的に提示する（SNS などを利用、内容、頻度、曜日、メリット、デメリット、選出方法）全員に説明する	20
活動の簡略化（来校回数の低減、個人の負担軽減）	12
わからない	6
やりたい人・やれる人でやればいい	5
Zoom（オンライン）で話し合う	4
全員参加式にする（都度ボランティアを募集・1日単位で活動・途中参加OK）	4
役員に賃金を払う	4
メリットの提示	3
難しい	3
特典追加（内申UP、卒業式の席）	2
無理してまでやらなくていい（外部委託）	2
子供がくじを引く	1
いい事ばかり話さない	1
時代錯誤	1
子供にやらせる	1
関わる意義を伝える（勉強会など）	1
車で来校できたらいい	1
知り合いと一緒にやる	1
メリットが大きい	1
ない	1

■その他、ご意見をお聞かせください(まとめ)■

引き受けられない理由として、「仕事」「介護、時間が合わない」「人間関係」「入学式の時の説明が分かりづらく、質問をしてもあいまいな返事しかなかった」「楽、簡単、誰でも出来ると話された時不快に感じた（人それぞれ受け取り方は違うと思います）」といったものがあげられました。

その対応として、入学前にプリント配布や入学式での詳しい説明（内容や交通費、任期）、全員に役割を担ってもらい負担を減らす、都度ボランティアを募集する、先生方からもアピールしてもらう、オンラインツールの利用などをもっとやっ

く、メリットを増やすと良いという案をいただきました。また、外部委託を検討・PTA を無くす（義務教育ではないからなくていいのではないか）という意見も…。

現在役員を引き受けている方からは、大変だと思ったけれど楽しい事の方が多い、PTA 活動を通して学校のことを知ることができるなどの言葉をいただいています。

そして引き受けられないけれど感謝しています、いつもご苦勞様ですと言ったねぎらいの言葉もありました。

■アンケートのまとめ■

回答率から PTA 活動への興味をもっと持ってもらえたらいいなと思いました。

共働きの家庭が増えた事で「できない」が半数を大幅に上回ったこと、また県立の学校は学区が広く来校が難しいという理由もあり、引き受けてもらう事の難しさ、PTA 活動を続けていく大変さを感じました。日本語が得意ではないという意見は、本校ならではだと感じました。そういった部分もうまくフォローし、多文化共生を実現出来たらもっとたくさんの方にかかわっていただけたと考えています。

今回のアンケートから今後の PTA 活動、募集においてヒントになる回答をいただけたのでプリントの配布、SNS やホームページを利用するなど活動に理解をいただけるよう出来る事から少しずつ行っていきたいと思います。

先生より

「生徒の笑顔のために」を形にするために、保護者として、教員としてできることを一緒に活動していけることを期待しております。

新型コロナウイルス感染症の影響が以前よりも軽くなってきている中、さまざまな場面で模索をしながら活動いただいていることがとてもありがたいと思います。

活動だと思いました。

どうしても、教員が力不足で至らない部分がある中、PTA の保護者の方々の力によって対応できることも多々あるかと思います。今年度行われた体育祭では、生徒の水分補給および熱中症防止のために活動をいただき、生徒も最後まで体育祭に取り組むことができました。「生徒の笑顔のために」という言葉が形になった活動だと思いました。

前例踏襲ではなく、生徒のための活動を今後も一緒に継続していきたいです。

タイトル 「 研究発表Ⅱ 」

学校名 神奈川工業高等学校 P T A

研究テーマ 「 保護者から見た神工の魅力 」

## テーマ選定理由

みなさまのお子様が行われている学校には、それぞれ様々な特色があるかと思えます。

私たちの「神工(かなこう)」もたくさんの特色があり、魅力溢れる学校なのです。それをこの提案発表の機会に「我が子がこの学校で学べて良かった!」という気持ちをお伝えしたく、このテーマを選定しました。

## 工業高校とは

ものづくりに関する知識・技術を身に付け、次代の地域産業を支え、発展させる人材の育成を行う高校のことです。本校にある機械、電気、建設、デザインなどをはじめ、たくさんの分野の学科があり「ものづくり」の現場で必要とされる伝統的な技術や最先端の技術を学びます。

工業高校は数が少ないことから情報が少なく、「やんちゃな生徒が多い」「勉強が苦手?」といったイメージで語られることもあるかもしれませんが、現在の神工の様子をお伝えすることで、そのイメージと同じかどうか知っていただく機会になればと思います。

## 1. 学校紹介

1911年の明治期に設置され、今年で113年を迎える神奈川県最初の工業高校。交通アクセスは3路線3駅利用可能で、東横線においては徒歩3分、他の駅を使っても徒歩で10分以内という好立地。神奈川総合高校と同じ敷地内です。

校舎は耐震構造の10階建てで、みなとみらいを一望できる景色のいい環境で学んでいます。司書の方も常駐する図書室には多くの本があり充実しています。

ほかには屋内温水プール、夜間照明付きのグラウンド、全天候型テニスコートもあり部活動も活

発に行われています。食についても充実しており、メニュー豊富な食堂と、近隣でも評判のパン屋さんが販売する購買が常設しています。

制服はアメリカで誕生したトラディショナルブランド J. PRESS のコラボ制服を採用。専門高校ということもあり、定期的に身だしなみについて指導を受けています。

O Bの活動も盛んで同窓会内での活動はもちろん、現役生へも設備の寄贈や部活のサポートなどの支援をして頂いています。



## 2. 各科の魅力

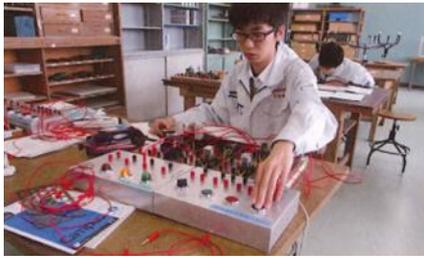
機械科、電気科、建設科、デザイン科の4つの専門科があります。

### ■機械科

機械に関する基礎・基本を学び、新しい産業構造に対応できる創造



性豊かな能力と確かな技術力を身に着ける授業を行っています。特にメカトロニクス技術の実験や、実習を積極的に取り入れ、実践的な技術者の育成を目的としています。



#### ■電気科

電気・電子・情報に関する技術を学んでいます。電気回路やエネルギー、プログラミングをはじめとする通信技術などの分野について学習し、2年次から【電気コース】と【情報コース】を選択することで、より専門分野の学習を深めることができます。

#### ■建設科

将来の建築技術者として、建築設計、建築施工に関する技術を実習・実験を通して学び、本校在学中に2級建築施工管理技術検定試験、卒業後は2級建築士の合格を目標としています。充実した設備も自慢です。



#### ■デザイン科

工業製品や環境構成に関するプロダクトデザイン、および広告や印刷に関するビジュアルデザインの基礎を学んでいます。各種のポスターコンクールやデザインコンペにも挑み、実践的な力も養われています。

#### ■体育祭

科別、クラスごとの縦割チームで、学年の枠を飛び越えた編成です。科別にパネル製作も行い、工業高校ならではのクオリティの高さです。また、特攻服を纏った気合の応援合戦や、神工オリジナルの相撲体操は男子も女子も、生徒全員が四股を踏む姿に迫力を感じます。

#### ■文化祭

10月下旬に「神工祭（じんこうさい）」を開催。校門のアーチは建設科が足場を組んで設置。機械科はイヤーマodelの文鎮を切削機械で作成。デザイン科は力作揃いの制作物を展示。後夜祭では校舎の壁を使ったプロジェクションマッピングを電気科の生徒が作りおおいに文化祭を盛り上げました。

### 3.活発な部活動と表彰実績

本校は「ガクチカ」つまり、「学生時代に力を入れたこと」のひとつとして部活動を推奨しています。運動部は19、文化部は16、同好会は3つあります。

野球やサッカー、水球や陸上の運動部や、ロボティクスや写真といった文化部も、ともに全国大会などで数々の記録を残しています。

神奈川県内の中学・高校を対象とした、教育委員会主催「かながわ部活ドリーム大賞」において令和4年度にグランプリを受賞。部活文化賞にアマチュア無線部、水球部はキャプテン賞と、マネージャー賞を受賞しました。令和5年度はキャプテン賞をサッカー部が受賞しました。

また、神奈川県の子立学校の子童・生徒表彰についても毎年多くの部活などの団体や、個人の活動が表彰されています。これは学校が生徒の活動を認めて、積極的にエントリーして下さった結果です。表彰されることで、生徒の自信に繋がっています。

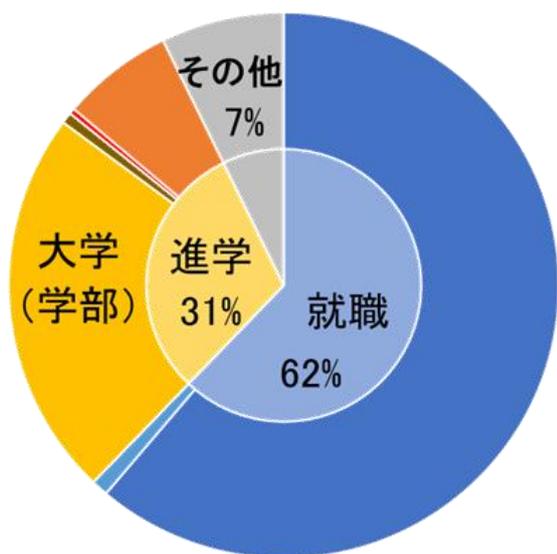
### 4.手厚い進路指導

昨年度の卒業者の進路状況についてです。進学はたくさんの指定校や学校推薦を利用し、理工系や美術系の学校へ進学する生徒が多いです。

就職は3,000社を超える企業からの求人があります。生徒の企業訪問体験、企業説明会とは別に「保護者向け」に人事担当者が来校しての企業説明会も実施してくれます。また、企業に勤務していた先生も多く在籍されており、経験に基づくアドバイスもいただけます。

近年では大手企業と各専門学校との産学連携協定を締結し、コンソーシアム（※）の人財育成計

画が推進されています。(※) コンソーシアム：共通の目的を持つ複数の組織が協力するために結成する共同体



【 機 械 科 】

日産自動車、日産自動車大学校と本校とでのコンソーシアムが締結

【 電 気 科 】

IBMやソフトバンクと連携して未来のIT人材育成を目指す

「かながわP-Tech」に取り組む

【 建 設 科 】

清水建設と連携する「次世代建築リーダー育成コンソーシアム」を締結

【デザイン科】

令和5年度4月開校「県立横浜瀬谷高等学校」校章デザインコンテスト最優秀賞を受賞し、校章として採用。ほかにも多数のコンクールやデザイン公募で優秀な成績を得ている

## 5.PTA 活動

それぞれ目的を持った3つの委員会と本部で構成されています。

◆本部

各委員会との橋渡し役。

また今回のような、学校を代表して発表する際には中心となって活動します。



◆学級委員会

保護者の立場から、学校環境の整備を支えています。学校の顔である校門脇の花壇の整備も対応しています。文化祭での「焼きナポリタン」も大人気です。



◆広報委員会

会員相互の連絡と親睦を目的として、広報紙の作成をしています。

神工の広報誌は読みごたえがある内容で、発行を楽しみにしている保護者も多くいます。



◆成人委員会

会員の教養を高めるため観劇、陶芸教室や進路説明会などを開催し、保護者の横の繋がりの場も作っています。文化祭で販売するハンドメイド品も充実したラインナップです。



## 最後に

様々な神工の魅力をお伝えしてきましたが、皆様はどこを1番の魅力と感じたでしょうか。その中で先生、保護者、OB方の熱い気持ちや指導、フォローがあり、子どもたちが生き生きと学校生活を送ることができていると感じる度に、感謝の気持ちが溢れてきます。

これからも神工の歴史や絆が縦にも横にも繋がるよう、PTAも全力で協力していきたいと思っています。



### 【鶴見総合高等学校PTA】

今回、鶴見総合高校は、「小さな声でも聞いて行こう～これからの活動のためにたくさんの意見を聞く。保護者対象のアンケートの実施～」と題して、PTA に対する意識について研究していただき、イメージを調査・解析していただきました。

アンケート調査を行うにあたって、回答を回収する作業、データ整理作業大変だったと思います。それらまとめていただいて発表していただきありがとうございました。

どこの学校の PTA でも直面している、「非加入問題」「役員選出問題」に対し、みなさんのこれからの意気込みを強く感じられる内容でした。また、私が今まで抱いていたイメージと今の保護者の考え方にギャップがあることを感じ、私自身もこれからの PTA 活動に対する考え方をアップデートしていくことが必要だと思っております。

PTA 活動に興味を持っていただくには、活動を継続していくには、そしてみんなが笑顔になるためにはどうしていくのか。今回の発表の続きをぜひ見てみたいという気持ちが出てきました。

これからも「何があっても負けない人間力」の育成のサポートを PTA の活動を通して頑張ってください。

### 【神奈川工業高等学校PTA】

今回、神奈川工業高校は「保護者から見た「かなこう」の魅力」と題して、学校の特色、魅力を紹介していただきました。

私は、「かなこう」の隣にいるのですが、別に住んでいるわけではないのですが、校門のところで保護者の方が花壇の手入れをしているのを見かけます。

気が付くと、先生の協力によりスプリンクラーがついたり、そして本日は、生徒によるダンスの披露をしていただくなど、保護者や教員そして生徒との協力関係が普段から自然にできている感じがいたしました。そこには、生徒、保護者、教員の「かなこう」への愛が感じられます。

最初は興味だけだったかもしれない、それがいつのまにか「かなこう」への魅力にどっぷりつかって、今この気持ちをわかってほしい、他の人にも知ってほしいという気持ちがひしひしと私には伝わってきました。そんな発表でした。私としては、この愛がこの後どのように熟成されていくのか、「かなこう」への歴史や絆に繋がっていくのか、今後の PTA 活動を見てみたいと思いました。

「わが子がこの学校で学べて良かった」という気持ちがこれからも広がっていくことを期待しております。

令和6年度神奈川県立高等学校PTA連合会横浜中地区協議会地区大会 次第

1 開会式 9:30 ~ 9:40

(1) 開会のことば 上矢部高等学校PTA会長 岩下 亜紀子

(2) 主催者挨拶

神奈川県立高等学校PTA連合会横浜中地区協議会

横浜桜陽高等学校PTA会長 石川 美和

(3) 横浜中地区協議会代表校長挨拶

横浜桜陽高等学校校長 中川 治彦

(4) 来賓挨拶

一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

常務理事 吉川 亮

2 活動事例発表

(1) 発表Ⅰ 9:40 ~ 10:00

発表校：旭高等学校PTA

(2) 発表Ⅱ 10:00 ~ 10:20

発表校：商工高等学校PTA

指導助言：横浜緑園高等学校 橋井 香苗 校長

休憩 10:25 ~ 10:35

3 講演 10:35 ~ 11:35

講演者：神奈川工科大学教授 小池 あゆみ氏

テーマ：「現代における子供とのコミュニケーションの方法や子育てヒント」

【経歴】名古屋工業大学工学部応用化学科卒業。1999年東北大学にて博士（理学）取得。

トヨタ自動車（株）開発企画部、東京工業大学資源化学研究所博士研究員、東京大学大学院新領域創成科学研究科リサーチフェローを経て、2007年より神奈川工科大学工学部応用化学科准教授、2011年より神奈川工科大学応用バイオ科学部応用バイオ科学科教授となり、本年度の改組により神奈川工科大学工学部応用化学生物科学科科長を務める。バイオメディカル研究センター長を兼務。また、2012年より電気化学会理事、2021～2022年は電気化学会男女共同参画推進委員長を務めた。

著書に『タンパク質科学 構造・物性・機能（分担執筆・化学同人）』他。

4 閉会式 11:40

閉会のことば

上矢部高等学校PTA会長 岩下 亜紀子

タイトル 「PTアクション」

学校名 旭高等学校PTA

講演テーマ

「出来る時に出来る範囲で」そして「楽しく」0からのスタート

はじめに

旭高校は、県立高校100校計画のトップバッターとして、昭和48年に開校し、令和5年度には創立50周年を迎えました。学校行事として他校では見られない特殊な行事として水泳大会があります。昨年度は3年生の生徒がパラ世界水泳大会の背泳50mで日本新記録を樹立しました。他にも多くの卒業生が多方面で活躍される文武両道に優れた歴史ある学校です。

### 1 PTアクション

PTAとは、Parent.Teacher.Associationの略ですが、我が校のPTAのAはActionです。保護者と先生が、子どもたちのためのより積極的な活動を行うために平成26年度からPTアクション（PTA）と名称を変更しました。このモットーを胸に、私たち現PTAも子どもたちを第一に日々活動しています。

### 2 0からのスタート

昨年5月よりコロナが「5類感染症」になり、自粛していた学校行事も実施できるようになりました。それに伴いPTAも休止していた活動が再開できるようになりました。再開できるようになったとは言えコロナ以前の経験者はおらず、何をすることも大変でした。ですが「大変だからやらない」ではなく、大変だけど「出来る時に出来る範囲で」そして「楽しく」全ては子どもたちのために縮小してでも再開を目標に活動しました。

そして0を1にすべく快適な学校生活の為に何が出来るか、学校と連携を取り、体育大会の給水サービスや文化祭出店、クリーンアップ（校内清掃）を再開させました。

### 3 委員会活動

・学年委員会

主な活動内容

文化祭出店、卒業式準備など

コロナ前は保護者対象のバス旅行や講習会も開催していました。

委員会より一言

変化の激しい世の中ですが、子どもたちのために何か協力したいという保護者の気持ちは不変です。これからも委員で協力していきます。

・整備委員会

主な活動内容

年3回の花壇作りとハロウィンや、クリスマスの飾り付け。

委員会より一言

たくさんの花と触れ合いながら、協力し合って楽しく活動しています。

・広報委員会

主な活動内容

広報誌「旭」を年2回作成、そのための各行事の写真撮影。文化祭で写真のスライドショー展示。

委員会より一言

自薦、他薦、くじ引きで委員に決まった方、どなたも目一杯楽しみながら生徒のため活動を満喫しています。

最後に

時代の変化に合わせ子どもたちのために出来ることを探し続け無理なく楽しく今後もPTA活動が続くことを心より願っています。

タイトル：未来の子供たちの為に

学校名：神奈川県立 商工高等学校

テーマ：PTA は商工生の応援団

はじめに

「県商工」は大正9年に5年制の「県立商工実習学校」として設立され、創立当初から県で唯一、商業・工業の2つの学科を有し、103年の歴史と伝統のある高校である。現在は総合ビジネス科と総合技術科の2学科編成で、自立した人間性豊かな職業人の育成を目指している。本日は日々頑張っている生徒の為に活動しているPTAの紹介。

### ① PTAの組織と主な活動

商工PTAは本部7名、会計監査6名、広報委員会、学年委員会、成人委員会で構成されている。各委員会の活動に加え、全体での活動もあり、学校・本部委員が常に連携し協力して活動をしている。



※3年生委員は指名委員に属します

### ② Enjoy★体育祭

- ・生徒へ冷たい飲み物を配布。
- ・各チームの入場門やパフォーマンスの審査員を先生方とPTA会長が務めている。
- ・県商工ならではの競技「商工対抗戦」の景品をPTAより贈呈。



### Enjoy★商工祭

- ・コロナ禍で自粛していたPTAも出店が2023年度より復活！

(学年) 肉団子汁 (広報) おにぎり

(成人) 洋菓子 (本部) お休み処



肉団子汁は商工PTAの名物であり、十数年以上、変わらぬ味で大好評の一品。

- ・体育館改装中だったため、生徒が野外ステージを制作。PTAより50万円の資金支援を行った。

使用した資材は学校で保管し、体育祭の入場門制作や七夕飾りの柵で利用したり、もちろんまたステージを組む事もできるようになっている。

- ・照明は、連携協定を結んでいる、「日本工学院コンサートイベント科」のみなさんにサポートしてもらっている。



③ 我らハマロードサポーター！

地域の身近な道路を対象に、地域のボランティア団体と行政が協働して、道路の美化や清掃を行っている。（横浜市の制度）  
学校周辺や通学路を年 2 回集中的に清掃している。



商店街協力のもと、イベントにて若者+おばちゃんパワーで約 80 本を販売した。



校内自動販売機でも販売中！



④ 美声なんです♪校歌祭出場♪

「神奈川県校歌祭振興会」が主催してるこの校歌祭に、PTA も商工同窓会「雄飛会」と生徒と共に出場し美声を披露！（総勢 43 名で参加）



⑤ 専門高校ならではの活動

ビジネス科の授業の一環である「商品開発」で、企業（武居商店）と共同開発した商品、オリジナルドレッシング「柚香」オリジナルソース「肉の相棒」

昨年の 4 月から流通系の 2 年生が自分たちで商品を考え、たくさんの試作をし、ラベルデザインやポスターも作り商品化されたこの 2 アイテム。生徒たちがいろいろなイベントで販売活動をしている。

商品化当初に作られた 1000 本を早々に売り切り、追加で 1000 本を作り販売を続けている。

そんな頑張っている生徒たちを PTA が応援！！

そして本年度も新たに動き始めていた商品開発プロジェクト、本年度文化祭より新商品が発売される。

「青春の甘酸っぱいドレッシング・うめきゅん」

「ポン酢に具材入れ過ぎちゃいました・具 Good ポン酢」

本年度の流通系 2 年生が開発！皆様ぜひお買い求めください♡



最後に

私たち商工 PTA は、これからも生徒たちの「応援団」として、様々な活動の支援をしていきたいと思っている。  
未来のこどもたちのために・・・

## 横浜南地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会横浜南地区協議会

後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和6年10月12日(土) 13:30~16:00

2 会 場 神奈川県立地球市民かながわプラザ  
(あーすぷらざ) プラザホール

3 参加者数 73名

4 日 程 (次第)

(1) 開 会 式

①開会のことば 横浜立野高等学校PTA会長 新倉 理香

②主催者あいさつ

神奈川県立高等学校PTA連合会横浜南地区協議会会長

桃井 貴裕

横浜水取沢高等学校校長

坪内 幸子

③来賓あいさつ

一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会常務理事

反町 聡之

(2) 研究発表

①研究発表

(ア) テーマ 「40年のきせき(軌跡から奇跡へ)」

(イ) 発表者 永谷高等学校PTA

②助言者講評 横浜栄高等学校校長 相川 修一

(3) 休 憩

(4) 講 演

①講 師 山崎 洋実 氏

②演 題 「戦わないコミュニケーション

～思春期の子育てで大切な3つのポイント～」

(5) 閉 会 式

①閉会のことば 横浜栄高等学校PTA会長 一法師 沙織

## 研究発表

学校名 神奈川県立永谷高等学校 PTA

研究テーマ「40年のきせき（軌跡から奇跡へ）」

### 1. はじめに

本校は、1986年（昭和61年）に開校し、今年創立39年を迎えます。県立高校改革により令和9年度に横浜桜陽高校と統合し、完校することになります。

これに伴い生徒たちが残した功績、数々の思い出を形に残したいという想いで、今回の発表とさせていただきます。

### 2. 学校紹介

永谷高校は、緑豊かで閑静な住宅に囲まれた小高い丘の上にあります。校舎から見える景色は、とても綺麗で晴れた日には秩父連山から丹沢、大山、箱根、伊豆まで見渡せ、富士山が雄大な姿を見せる大変学習環境のよい場所です。



敷地内には、およそ2000年前から人々が生活していたといわれる弥生時代の遺跡もあります。



### 3. 40年の歩み

#### ①校舎竣工

神奈川県の高校新設百校計画の一環として設立された本校は、当時の多くの新設校と同様に県立商工高校の跡地で開校して1年を過ごした後、現在の地（横浜市港南区下永谷）に新校舎が完成し移転してきました。

校舎の外観はアイボリーに茶のアクセントのきいた色彩で、全体に丸みを帯びた柔らかいデザインになっています。



#### ②校歌制定

昭和63年、校歌制定準備委員会が設けられ、当時の校長等準備委員が作詩家関根榮一氏の自宅を訪ねて作詩を依頼するとともに、作曲家湯山昭氏を紹介していただき、湯山氏に作曲を依頼しました。

それを受けて昭和63年5月に制定されたのが現在の校歌です。歌詞には、富士、楠、かもめ、弥生などのフレーズが散りばめられています。

#### ③部活動の隆盛

開校当初から部活動は盛んで、サッカー部34人

を筆頭に、野球、ハンドボール、陸上競技、テニス、アーチェリーその他多数の運動部と文化部が合わせて24部ありました。

部員数が多い部活動は、実績も残しており、アーチェリー部の国体優勝をはじめとした活躍が見られました。

近年は、部活離れが進み部活動への参加者が少なくなっていますが、レスリング部の関東大会出場、ヨット部のインターハイ出場等個人戦で活躍している生徒もいます。



#### ④PTA 活動

開校と同時に作られたPTAは、設立時すでに本部のほか、環境整備、学年、広報、成人の各委員会が設置されており、その後交通安全委員会が加わりました。

学校の歴史とともに、近隣の清掃や、お祭り、警察との街頭キャンペーン、ひばりが丘学園のボランティアなど、地域とのつながりを大切にし、活動を広げてきました。



各委員会の活動内容は、

- ・環境整備委員会は、花壇の花植えや校内のペンキ塗り、校内外の清掃。
- ・学年委員会は、進路説明会や、大学・短大見学バスツアーの開催。

- ・広報委員会は、年2～3回の広報誌発行。
- ・成人委員会は、保護者を対象とした鎌倉見学や講演・講習等のバス社会見学などの企画、運営。



- ・交通安全委員会は、自転車安全教室の開催、セーフティカードの配布。



#### ⑤学校行事

文化祭、体育祭、修学旅行等の学校行事は、創立1年目から行われており、第一回の修学旅行は、スキー教室でした。その後、修学旅行の内容は時代とともに見直され、近年は沖縄、北海道、大阪等へ。内容も全員一斉のものから生徒自身の計画によるものへ。体育祭は現在生徒主体の「N スポ」と形を変えて運営されています。



#### ⑥少子化と生徒数の減少

生徒数の推移をグラフにしました。



少子化や学区撤廃等の影響により、生徒数が減少しました。それでも様々な逆境を乗り越えて生徒たちは今日も前進を続けています。

また、自分たちの学校が地域の一員として貢献し、地域に愛される学校となるよう地域の清掃活動などを行っています。

生徒たちの残した数々の功績、逆境を乗り越えながら前を向く姿を私たちは誇りに思い、皆さんにお伝えします。

#### 4. これからのPTA活動

##### ①活動のスリム化

PTA活動のスリム化は、小中高のどの学校でも行っています。特にコロナ禍をきっかけに加速していったことと思われます。加えて本校は、完校が重なり、更なる保護者数の減少ということで、役員負担を減らし、最後の担い手へと繋げていきます。

##### ②ペーパーレス化

スリム化を進める上で、役員、委員の負担を減らすために、そしてSDGsも視野に入れて、PTA総会資料と広報誌のメール便での送付をやめ、電子化を進めています。PTAからの発信は、マチコミを使い、PDFやGoogleフォームなどを利用して保護者へ展開していきます。また、電子化を進めるにあたり、学校の協力がなくては実現が難しいため、学校との更なる連携を図っています。

##### ③ミスプリント紙の活用

今年度SDGsの一環として印刷資料作成時に発生したミスプリント紙を原料に紙漉きを行い、しおりを作成する取組みを行いました。秋に行われる文化祭では、しおり作り体験を発表する予定です。



#### 5. まとめ

横浜南地区協議会大会での発表という貴重な機会をいただき、ありがとうございます。永谷高校の40年の軌跡を振り返ってみて、先生方や生徒、保護者の想いに多く触れることができました。

1学年から3学年まで3つの学年が揃うのは令和6年度のこの1年間だけとなってしまいました。希望から始まった永谷高校も、様々な事情により、幕を閉じようとしています。いつの時代もその子にとっての思い出は大切なものです。良い思い出も、悪い思い出も全てがその子にとっての思い出なのです。その思い出を誰とどう作り上げていくか、今一度同じ場所で出会えた奇跡を大切に、この学校の全ての軌跡を胸に、三年間自分たちの軌跡を胸に、永谷高校を立派に卒業して、たくさんの奇跡を起こせる人に成長して行って欲しいと願っています。

#### 6. 助言者の講評

ご紹介いただきました、横浜栄高校校長の相川と申します。まずは永谷高等学校PTAの皆様、事前の準備から今日の発表までお疲れ様でした。今日のタイトル「40年のきせき(軌跡から奇跡へ)」私にも十分刺さってきました。

一昨年ぐらいに完校が決まった永谷高校さんにこのPTAの大会での発表をお願いするところではすこし躊躇感がありましたが、結果的に今日、発表していただいて、本当に良かったし、本当にありがたかったなと思います。

私も、今から5年ぐらい前に1つの学校を完校してきました。大楠高校というところで、40年目で完校し、横須賀南高校に引き継いできましたけど、その時40年間の学校の思いをどうやってまとめようかな？と最後の年になって考え取り組まなければならず、最後の校長として2年間、本当に忙しく、なかなか余裕がなかったことを記憶しています。

今までの40年間の卒業生たちの思い、そして今育てている在校生の生徒さんの思い、それをどのように表現しようかと考え、資料を紐解き、まとめ、そしてそのタイトルが「40年間のきせき（軌跡から奇跡へ）」。いろいろな意味合いで今までの永谷高校のPTAの皆さんの活動がよくわかり、素晴らしい発表だったと思います。中でもSDGsに取り組もうとして、素晴らしい活動をしていただいている。そこまでの目線での取り組みをすることはなかなか難しいと思いながらも、我々の今後の参考にさせていただきました。

そして、ぜひこのまとめた40年の思いを、2年後完校になる時、何かしらの記念をおつくりになる際に、この発表を次の方たちにそのまま引き継いで、何かに入れていくと良いのではないかと思います。それだけのクオリティだったと思います。

また、たまたまご縁があり、9年前か10年前にこの南地区協議会大会のPTA研究発表で、永谷高校さんの発表を見た記憶があります。この会場だったか覚えていませんが、その時の発表で、校長先生とPTAの皆さんが地域に出かけ、ごみを拾ったり、生徒の皆さんを励ましたりする活動に取り組み、永谷高校を盛り立てていこうとする気持ちをすごく感じた発表でした。それを思い出しながら、9年10年経った今でも、その気持ちが、現在の皆さんの活動や今回の発表に繋がっていると感じました。

この後、残り2年ではありますが、あくまでも完校であって、統合でもあります。次の新しい学校で、永谷高校の卒業生の方たちが繋がっていくわけで、今回の発表の内容がさらにそこに生かされていけばいいかと思いました。

あらためて「40年のきせき（軌跡から奇跡へ）」私はその軌跡という言葉の中で永谷高等学校の輝跡、輝いた跡、それをすごく感じる発表をしていただいたと思います。ご準備から発表まで本当に色々ご苦労が多かったことと思います。本当にお願いで良かったと思う研究発表でした。

ありがとうございました。

# 川 崎 地 区 大 会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会川崎地区協議会  
後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

- 1 日 時 令和6年10月24日(木) 13:30~16:00
- 2 会 場 川崎市総合福祉センター(エポックなかほら) ホール
- 3 参加者数 162名
- 4 日 程(次第)
  - (1) 開 会
    - ① 開会の言葉
    - ② 主催者挨拶
    - ③ 地区学校長会議会長挨拶
    - ④ 来賓挨拶
  - (2) 研究発表
    - ① 研究発表Ⅰ  
質疑応答
    - ② 研究発表Ⅱ  
質疑応答
  - (3) 休 憩
  - (4) 記念講演  
講師 弁護士 田中栄樹氏  
演題 「少年たちを陥れるインターネットの罟」～わが子を救うにはどうすればよいのか～  
質疑応答
  - (5) 閉 会
    - ① 閉会の言葉

タイトル 「研究発表 I」

講演者 大槻 実紀、椎名由美子、市川 礼子、植木 剛克、大沼 美春  
岸田 保子

学校名 県立川崎工科高等学校 P T A

講演テーマまたは研究テーマ 「PTA 活動の取組と課題について」

### 1 はじめに

川崎工科高等学校は JR 南武線平間駅から徒歩 8 分にある工業高校である。機械・電気・環境化学に係る 6 つの専門コースが設置されている。工業の勉強以外に部活動・資格取得に力を入れている。

### 2 P T A 活動について

川崎工科高等学校 P T A は毎年 5 月に定期総会を開催し新規体制としてスタートする。運営委員会は毎月 1 回程度で開催しており、会長・副会長・書記・会計の本部役員と 4 つの各専門委員会の委員長と副委員長で構成されている。4 つの各専門委員会では各種校内外イベントへの対応をしているほか、P T A 委員でその他行事のサポートなども行っている。

### 3 各専門委員会と行事のサポートについて

#### (1) 学年・交通安全推進委員会

##### ① 学年委員会

文化祭出店や卒業記念品の贈呈を取り纏めている。昨年度は印鑑を贈呈した。

##### ② 交通安全委員会



川崎地区交通安全大会のテーマに沿った、交通安全川柳大会を実施している。全生徒から交通安全川柳を募集、昨年度は 140 以上の作品の応募があった。その中から最優秀賞、校長賞、P T A 会長賞など合計 11 の賞を設け表彰をしている。この交通安全川柳を通して、生徒の交通安全に対する意識の向上に役立っている。

### (2) 成人教育委員会



#### ① 施設見学会

保護者対象で石鹼製造、電気工事、機械加工など、普段見る機会が無い設備や実習の様子を見学でき、参加者からは大変喜ばれている。

#### ② バスツアー

保護者対象で社会見学バスツアーを企画している。昨年は応募者が少なく断念した。今年はまだ計画段階である。

#### ③ 文化祭でのうどん調理・販売

文化祭で毎年うどんの販売を行っている。レシピや人員配置や仕入れ先なども詳細に受け継がれているためか、生徒からの評判も非常に高く、真っ先に完売する。

### (3) 広報委員会



本校では年2回、7月と3月に PTA 広報誌「ひらま」を発行している。内容は、校長先生をはじめ先生方の紹介、体育祭や文化祭などの学校行事、校外学習や校外イベント参加情報、部活動などを紹介している。高校は小中と違い、学校の様子を知る機会がかなり減るかと思われる。そんな学校での様子を保護者の方にお届けすることを心掛けて撮影、編集、発行をしている。ただ広報誌に立ちふさがる問題があり、1. 持って帰るけど部屋に放置し保護者に渡さない、2. 学校から持って帰るカバンに入れっぱなしで毎日一緒に通学、3. いまも学校の机に入れっぱなしでどれも保護者の手に渡りません。時代は変わっても子供の生態は変わらず、もっと魅力ある広報誌制作に努めている。

#### (4) 厚生委員会

##### ① 除草作業



毎年6月に除草作業をし、プランター内の土をふるいにかけて、草や根も取り除き、きれいになったプランターには、9月に新しい花を植える。この作業は6月と9月だけでなく、11月と1月にも同じように除草作業と花植えを行っている。特に来校者が多い文化祭や卒業式にたくさんのきれいな花が咲くように活動をしている。

##### ② 文化祭でのバザー

各家庭から新品の不用品を提供してもらい、集まった献品を販売している。これらを通して生徒たちだけではなく地域の方々との交流も深めるように活動している。

##### (5) 行事のサポート

行事でのサポートはPTA委員に募集を図り各行事のサポートをしている。

##### ① 体育祭(5月)

体育祭でドリンクサービスをPTA委員が行っている。当日各学年のエリアに設置されたテントをお借りしてドリンクを渡している。はじめは生徒も遠慮がちだが、一人ドリンクサービスを受けると次々にドリンクサービスを利用している。

##### ② 学校説明会(9・11月)

保護者の声として学校の様子や生徒が入学したきっかけなどを紹介している。

他に説明会の受付や学校説明が終わると本校は工業高校であるため、実習室の見学を多くの中学生と保護者が参加する。

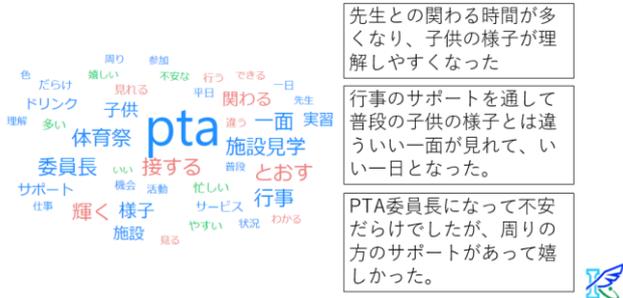
中学生や保護者が迷わないよう誘導も行う。なお、いつも事前打ち合わせの時に職員が実習装置の操作を行う様子を見せてくれる。

##### ③ 平間銀座サマーフェスタ(中止)

8月の毎週土曜日に開催される行事で本校も最終週に出展している。商店街から警備はPTAの方に毎年お願いしているようで、これまで近隣の小中学校が行った。今年度より本校にも平間駅周辺3か所の警備と出展ブース付近の警備・誘導依頼があったが、台風10号の影響で中止になった。

#### 4 PTA 委員として参加したメリット

### 6. PTA委員として参加したメリット



先生との関わる時間が多くなり、子供の様子が理解しやすくなった

行事のサポートを通して普段の子供の様子とは違ういい一面が見れて、いい一日となった。

PTA委員長になって不安だらけでしたが、周りの方のサポートがあって嬉しかった。

- ① PTA 活動を通して、先生との関わる時間が多くなり、子供の様子が理解しやすくなった。体育祭でのドリンクサービスをとおして子供の目の色が輝いていることがわかり普段の子供の様子とは違ういい一面が見れて、いい一日となった。
- ② PTA 施設見学会では実習施設の状況を見ることができた。
- ③ PTA で行事のサポートとして参加することで、子供と接する機会も多くなった。
- ④ PTA 委員長になって不安だらけだが、周りの方のサポートがあって嬉しかった。など、PTA の業務は土曜日に活動するなど大変だが、子供の様子が見れるなどやりがいも感じている。

#### 5 PTA 活動における課題

### 7. PTA活動における課題



活動するメンバーが不足している。

提案に対して静観する人が多い

運営委員会と専門委員会兼務で忙しい

仕事等で参加しづらい

#### (1) 人員不足

- ① 仕事の都合で、活動日が限られているため、広報委員会では、すべての行事で撮影をしていたが、参加できない日は先生に撮影をお願いしている。厚生委員会では、LINE でアイデアを提案するが、静観する人が多い状況である。その理由としては手を挙げると自分自身に仕事がまわってくるのではないかと不安感があるのではと考えられる。
- ② 以前は運営委員会は全員参加していたため、参加に前向きな委員さんは多かったが、現在は会長など役員が参加するのみで希薄化している。
- ③ 会計業務の方は広報委員と兼務することになり、業務も多忙になっている。
- ④ その他、小学校や中学校は自宅から近いところにあるため、PTA 活動に参加しやすいが高校は遠いところでは藤沢から来られる方もいるが、なかなか活動に参加しにくい方もおられる。

#### (2) 解決方法

- ① 新入生保護者への声かけについて、負担を少なくすることも踏まえて委員への参加の声掛けをすることが大切である。
- ② 委員がそれでも少ない場合は各委員会縮小・見直しを図ることが必要だと考えられる。
- ③ 特定の人に業務の偏りが無いよう業務の現状把握や声を掛け合うことである。

課題は山積みだが、子供たちのために先生方と協力しながら、活動を継続している。

## 「研究発表Ⅱ」

講演者 P T A会長：森山弘子、副会長：濱中弘子・山本雅子、  
書記：金成由紀子・内藤聖子、会計：竹下友子、巻野和美

学校名 神奈川県立麻生高等学校

研究テーマ 「立候補したくなる P T Aにするために」

### 1 はじめに

#### (1) 学校概要

本校は 1984 年に創立し、昨年記念すべき 40 周年を迎えました。川崎市北部の閑静な住宅街に位置し、落ち着いた環境の中で教育を行っています。隣接する小学校・中学校や町内会との交流も盛んです。小学校ではチア・リーディング部がパフォーマンスを披露し、メディア研究部がスマートフォンの正しい使い方講座を開催しています。中学校ではバスケットボール部、バレーボール部、陸上部、剣道部等が合同練習を行い、縦の関係づくりが進められています。町内会では、野球部がどんど焼きを手伝い、町内会祭りでは音楽部がステージ出演し、料理部がお菓子の販売を行うなど、地域の方々から温かく見守られています。また、芸術教育にも力を入れており、音楽の授業ではバイオリンとギターを 1 人 1 台使用し、美術の授業では陶芸の時間があります。陶芸窯が 2 基設置されているのは県立高校では珍しいことです。

#### (2) 部活動紹介

メディア研究部では全国大会となる NHK 放送コンテストに出場し、創作ラジオドラマ部門にて奨励賞を受賞しました。文芸部とチア・リーディング部においては全国大会に出場するという好成績を収めています。11 月に開催する 40 周年記念式典では、吹奏楽部と音楽部が昭和音楽大学オーケストラと共演するという貴重な体験をします。



### 2 P T A活動

本校 P T A は本部役員と学年委員会、安全委員会、広報委員会で構成されています。

#### 本部役員

会長 1 名、副会長、書記、会計がそれぞれ 2 名、合計 7 名の役員がいます。体育祭では、生徒にペットボトル飲料の配付と、防犯対策として保護者へリストバンドの配付・着用を行いました。冷えた飲み物は生徒たちに大変好評でした。文化祭では校章入りどら焼きとおせんべいを販売し、P T A 活動を紹介するなど保護者の方との交流ができました。また伝統的な活動として年 3 回、登校時間のあいさつ運動があり、生徒の様子を知る良い機会となっています。



### 学年委員会

味噌づくり講習会と演劇鑑賞会を開催しました。味噌づくりは地域の麴販売店の方に講師を依頼し、手作りの楽しさを体験できました。参加申込の多い人気企画で、毎年恒例となっています。

### 安全委員会

自転車点検や通学時間中のパトロールを年数回行うことで生徒の安全を守る活動をしています。文化祭では景品付きの交通安全クイズを企画し、生徒や保護者への交通安全意識を高めています。

### 広報委員会

広報紙を年3回発行しています。楽しみにしてくれている生徒たちのために、締切に追われながらも日々製作活動に励んでいます。



## 3 研究テーマ「立候補したくなるPTAにするために」

### (1)テーマに至る経緯

今年度の委員選出では、立候補者が少なかったため入学式後のPTA入会式にてくじ引きを行い、欠席者のうち選出された方には手紙で意思確認を行いました。すると欠席者全員から委員引き受けをお断りされるという残念な結果となりました。くじ引きは役員にも先生にも心の負担が大きく、委員を引き受けた方からは「くじ引きに参加していたから断れなかった」という声も聞かれました。そこでくじ引きをしないで済むよう立候補者を増やしていこうと役員間で話し合いました。まず引き受けたくない理由を考えてみると、「仕事がある」「活動がわからない、見えない」などが思い浮かびました。そして引き受けた理由を現役員で出し合うと、「知り合いをつくりたい」「学びをサポートできる最後のチャンス」「学校の様子を知りたい」「役員を経験していたから」ということが挙がりました。そこから気づいたことは「PTA活動が嫌いではない人、立候補するほどではないが誘われたら受けようと思っている人」は少な

らずいるはずだということでした。そういう方が立候補してくれるような取り組みを考えようと話し合いを重ね、思いついたことから実践していきました。

### (2)取り組みの紹介

今年度始めた4つの取り組みをご紹介します。

#### 【①保護者向けのバイオリン授業体験】

かねてからバイオリンを弾いてみたかった役員からの提案で企画されました。音楽の先生に普段の授業と同じ内容で行っていただき、ほとんどの参加者が初心者でしたが「キラキラ星」が弾けるほど上達しました。参加アンケートの一部をご紹介しますと、「バイオリンに触れる機会は一生ないと思っていました」「音楽の先生の授業は面白いと子どもから聞いていましたがその通りでした」「来年もまた開催してほしいです！PTAの皆さんに感謝です」と大好評でした。生徒を惹きつける先生のお人柄を知ることができ、役員自身も心から楽しめたイベントとなりました。

#### 【②制服リサイクル】

以前より保護者と学校から要望があり、今年度から始めました。思っていたよりも多くの制服が集まり、来年度入学予定者を対象に安くお譲りする予定です。

#### 【③PTA室の片づけと活動資料の整理】

引き継ぎをしやすくするため過去資料の整理やファイリングを工夫し、誰が見ても理解しやすい資料を意識して作りました。また探し物をしないために必要のない資料や物品を廃棄し、取り出しやすいようボックスに入れるなど収納を整えました。片付けや整理整頓は当たり前の事とはいえ後回しになりがちでしたが、頭の中も気持ちもすっきりし、心地よく活動ができるようになりました。

#### 【④「PTAかわら版」の作成・配付】

これらの初の試みを保護者に伝えたいと思い作成しました。バイオリン授業体験がとても喜ばれたこと、私たちが楽しく活動できていることなど、広報紙では伝えきれない内容を盛り込みました。活動が見えるとイメージが湧き、親近感が出てPTAに入ってみようかなとハードルが下がる

かもしれません。近々第一号を配付し、その後PTA活動紹介号を発行する予定です。来年度入学予定者への配付資料にも加えていただくことになっています。



### ③取り組みから見えてきたこと

4つの取り組みを実践することで「立候補したくなるPTA」の形が見えてきました。

#### 【①保護者向けのバイオリン授業体験】

顔の見える関係づくりができ、PTAに親しみをもってもらえます。またPTAは活動を通して想いを実現できる場だと知ってもらい、PTA活動に魅力を感じてもらいたいと思っています。

#### 【②制服リサイクル】

こちらは学校と保護者の要望から実現した企画でした。保護者からの意見を聞き実現に向けて検討していく体制を整えていきたいと思っています。こうすることでPTAに関心をもち必要性を感じてもらえるのではないのでしょうか。

#### 【③PTA室の片づけと活動資料の整理】

環境を整えることで心地よく効率よく活動できます。感覚的なことは実は大切で「続けてもらえるPTA」につながっていくと思います。

#### 【④「PTAかわら版」の作成・配付】

活動の報告はもちろんのこと、私たちがどんな想い、どんな目的をもって活動しているかを心を込めて伝え、「PTAは活動を楽しめる場」というイメージをもってもらえるような紙面づくりをしていきます。

### ④今後の活動

これからは活動の見直しに着手していきたいと思っています。

- ・委員の人数が減ってもできる形に変えること
- ・その活動は必要か改めて考えること
- ・役員や委員自身がしたいことを提案し、実現に向けて行動すること

このようなことを進めるために役員と委員のコミュニケーションを密にし、一体となって取り組んで行こうと考えています。

### ⑤まとめ

発案をして実行し、発信すること。そして現活動を見直すこと。これを軸として【立候補したくなるPTAにするために】行動していきます。

## 4 最後に

活動を通して感じたことは、PTA活動は自分自身を成長させてくれる体験だということ。自分が得意なことや役立てる喜びを感じたり、仲間の才能を知ったり、先生や仲間への感謝を感じたり、自分の幅を広げてくれます。また保護者が楽しんでいる姿は学校の温かい雰囲気をつくることにもつながり、それが生徒へも伝わっていくのではないのでしょうか。

そして先生方のご協力の大きさに私たち役員は改めて気づきました。バイオリン体験の相談にも乗ってくださり、体育祭のリストバンド発注やどら焼きの手配、PTA室の予約もしていただき…お忙しい中すぐに対応してくださいました。先生方がPTAを大切にしてくださっていること、私たちだけではここまで来られなかったということ今、しみじみと感じています。

先生方に心から伝えます。

「いつもありがとうございます！！」



# 横須賀三浦地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会横須賀三浦地区協議会  
後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1日 時 令和6年10月17日(木) 13:30~16:40

2会場 横須賀市文化会館 中ホール

3参加者数 106名

4日 程(次第)

## (1) 開会式

- ①開会の言葉 地区協議会副会長 追浜高等学校PTA会長 西垣健太郎
- ②地区協議会会長挨拶 逗子葉山高等学校PTA会長 町田 ひとみ(欠席)
- ③地区協議会当番校校長挨拶 逗子葉山高等学校校長 會田 勉
- ④主催者挨拶 神奈川県立高等学校PTA連合会会長 内田 裕美
- ⑤来賓紹介および挨拶 (一財)県立高等学校安全振興会常務理事 中野真衣子  
地区校長会議会長 横須賀高等学校校長 鑪 英治  
司会: 逗子葉山高等学校PTA副会長 水村 直子
- ⑥日程説明等

## (2) 研究発表

- ①研究発表Ⅰ 海を知り、海を守り、海を拓く  
発表校 海洋科学高等学校PTA
- ②研究発表Ⅱ 「大人も、愉しむ。大津サイコー！」 ~創立120周年に向けて~  
発表校 横須賀大津高等学校PTA
- ③質疑応答
- ④助言者講評 横須賀高等学校校長 鑪 英治  
三浦初声高等学校校長 片岡 浩介

## (3) 休憩

## (4) 講演

ハモる地域や組織とは?~ハモニケーション®から学ぶチームビルディング~  
講師 杉田 篤史(アカペラグループINSPiリーダー/  
愛媛大学社会共創学部客員研究員)

## (5) 情報交換

- ①地区交通安全大会について 追浜高等学校PTA会長 西垣健太郎
- ②その他

## (6) 閉会式

閉会の言葉 逗子葉山高等学校PTA副会長 奥村 洋美

タイトル 「HAVE FUN 海洋科学高等学校PTA」

講演者 海洋科学高等学校PTA運営委員

学校名 海洋科学高等学校PTA

テーマ「PTAがHub(ハブ)になって、保護者と学校を繋ぎFun(楽しさ)を共有していける活動」

## 1 はじめに

PTA＝負担と思っている方が多いかもしれませんが、実はやってみると思っていた以上に楽しく、自分の世界も広がるし、仲間も増えて先生とも仲良くなれて学校のことも詳しく知ることが出来ます。

子どもとの距離が近くなり、会話も増えてメリットだらけです。多くの保護者に人にわかってもらいたいPTA＝楽しいと言うことを伝えたい。

「迷ったらやる！やったら楽しかった！やってよかった！」そんな声がききたい。

## 2 PTAの役員、委員が学校や先生方と関わる機会を持ち、情報を共有し協力しあう

・各科の校外活動やイベントに広報委員会が取材をすることで、先生方とお話しの中からPTAでやったらいいかも！のアイデアがうまれます。

- ①各学科のぼり旗作成
- ②記念撮影子ども用制服の作成
- ③生物環境の生徒が育てた真珠でアクセサリー作成
- ④PTAと生徒と共有して使えるビブスと法被(PTAとは入れず)を作成
- ⑤卒業生のコサージュ作成
- ⑥卒業記念品
- ⑦リサイクル制服販売

・地域との関わり

PTA役員がつなげた「アマチュア無線体験会」  
「地域の吹奏楽団とジョイントコンサート」



コサージュ作成中



アマチュア無線体験会

### 3 コロナ禍になって新たに始めたこと。

#### ・PTAオープンチャットの利用

運営委員会から文化祭で扱うバザー品や、リサイクル制服販売のための寄付の協力を各家庭にお願いするときに学校のマチコミを活用していましたが、PTAからの連絡をもっとスムーズにできないかと考え、他の高校で活用している公式ラインの活用を考えましたが、利用直前に有料になってしまったため無料のオープンチャットを使用することになりました。

広報委員会で子どもたちの様子を撮影した写真を広報誌に載せきれないためオープンチャットを使用して保護者の方にみせることができました。

### 4 今後のPTA活動の課題

委員以外のボランティア参加者やOB会の人数をふやし各委員会活動、花壇の手入れ、アクセサリ作成、リサイクル制服販売などを手伝ってもらえるようにしたいです。(それにより卒業後の進路や就職の情報交換をできるメリットもあるため)

### 5 各委員会からの活動報告

#### ○広報委員会

「読んでいてワクワクする広報誌をつくる」をテーマに活動しています。

・すべての瞬間を撮影しより詳しく取材する各学科が全く異なることを学んでいます。それぞれの学科の授業や実習などではほとんど交流がないので実習内容などを広報誌で紹介することで、ほかの学課の実習内容の面白さを生徒たちや保護者の皆さんにお伝えできるのではないお伝えできるようにしています。

・写真にコメントを付ける この写真が何をしているところか？その時の生徒の反応はどうだったか？

この動画の名前は何をするためのものなのか？などなど保護者の方が家で読んだ時、広報誌の内容について話題にしていただければ家族会話の広がり役に立っていただきたいと思います作成しています

先生方の熱意・生徒たちの日々の努力・広報委員たちの海洋科学高校愛が詰まった広報誌「海神(わだつみ)」をこれからも力を合わせて作っていきたいと思います



### 2年連続広報誌コンクールで「優秀賞」を受賞

#### ○環境支援委員会

学校の玄関正面にある大きな花壇を中心に環境整備維持活動を行っています。

- ・季節の花を植えかえし一年間の移り変わりを花壇で表現する(花壇のようすをSNSで発信する)
- ・土作り、お花の手入れ、などの講習会を行う。
- ・入学式、海洋祭、卒業式には、学校の入口として、きれいな花壇でおむかえできるようにしています



### 正面玄関前花壇の様子

### ○交通安全委員会

変化する環境やルールの中で子ども達が安全にそして健全に学校生活が送れるように私達がいます。

- ・横須賀警察署と相談し、学校で交通安全指導をしていただきました。
- ・文化祭（海洋祭）ではゆとり号に来校していただきました。



交通安全教室の様子

### ○成人教育委員会

子ども達が学校で体験していることを保護者の皆さんにも「やってみよう!」「やってみたい!」という気持ちで楽しんでもらえるイベントを企画・運営しています。

大切にしていることは「私達もEnjoy」ということ。活動を通じて、学校ってこんなに楽しいということをたくさんの人に知っていただけたらと思っています。



サバ釣り体験会

生徒が授業で体験していることを保護者も同じ体験ができる、「サバ釣り体験会」、「ドローン操縦体験会」を先生方や学校に協力していただき開催できました。

その他、ハーバリウム制作体験や貝殻リース製作なども文化祭で行いました。

### 6 おわりに

P T A活動としてはできることがすくないかもしれませんが、保護者と子ども達が学校のことでコミュニケーションが取れたり、授業や学校のこと、進路のことを共有できたりする場をこれからも提供できるようにしたいと思います。

私たち、海洋科学高校P T Aは海洋科学高校を応援します!



地区大会での発表を終えて

タイトル 「研究発表Ⅱ」  
講演者 PTA 会長、副会長、各常置委員、校長

学校名 横須賀大津高等学校 P T A  
研究テーマ 「大人も、愉しむ。大津サイコー！  
～創立 120 周年に向けて～」

### 1 はじめに

本校は、今年度創立 118 周年を迎えました。近年私たちの環境は大きく様変わりし、個人の考え方も多様化しています。PTA も「伝統と変化のイトコどり」をして、子どもたちと一緒に、大人も愉しみながら活動をしていきたいと思っています。

### 2 学校紹介

1906（明治 39）年に横須賀高等女子高として誕生したのち、移転や改称を経て 1981（昭和 56）年に共学化され、現在の体制となりました。

校歌は、「明治」・「大正」・「昭和」・「共学を機に制定された現在のもの」の 4 つがあり、歌詞にはそれぞれの時代背景が感じられます。校門近くには創立 100 周年記念に、4 つの校歌の石碑が建てられました。



校章は、1928（昭和 3）年に制定され「八咫鏡（やたのかがみ）」の中に、軍港横須賀の象徴である桜と、しきりに打ち寄せる波を配置し、美と青春の躍動を表しています。その校章をモチーフにした本校のマスコットキャラクター「おーくん」と「つーちゃん」が 2010（平成 22）年に生徒のデザインで誕生し、イベントなどで大活躍しています。



### 3 主な学校行事（橘華祭）

本校では 6 月の体育祭と 8～9 月ごろ行われる文化祭を併せて「橘華祭（きっかさい）」と呼んでいます。2008（平成 20）年に、生徒会が行事名称として全校投票で決定しました。

#### ●体育祭

体育祭は、カラーチーム対抗で行われます。今年度は 6 月の平日開催となりましたが、多くの保護者や卒業生のみなさんが、応援に駆けつけてくださいました。

衣装・応援合戦・デコレーションも加点対象となり、PTA 会長・同窓会と卒業生の代表が審査を行います。

PTA は熱中症対策として、ペットボトル飲料を事前配布しています。当日は自動販売機周りにゴミが溢れないよう、環境整備に協力しました。

#### ●文化祭

文化祭は、夏休み明けに 2 日間行われます。各クラス・部活や有志などが工夫して発表を行い、学校全体が熱気にあふれています。

文化祭の PTA 企画は、各委員会に分かれて物販・展示などを行い、利益は生徒会に寄付しています。

### 4 PTA 紹介

#### ●歴史

最初は 1922（大正 11）年に“家庭会”として発足し、1948（昭和 23）年に“PTA”と名称変更されました。そののち委員会の名称変更や統合、新委員会の発足を経て、現在の形となりました。

#### ●運営組織

PTA は主に、役員会と 4 つの常置委員会（学年・広報・ステップアップ大津・交通安全）で運営されています。

### 《PTA役員》

昨年度、PTA サイト（会員限定閲覧）を開設いたしました。PTA だより・委員会からのお知らせ・広報誌などが掲載されています。こちらを利用することにより、ペーパーレスによる経費削減・作業の軽減・PTA 配布文書の内容確認ができます。

更新は、ほぼ毎月行われ、学校から classroom で周知をしていただくこともあります。

また、総会資料も PTA サイトで見ることができ、委任状はフォームで提出できるようになったため、年度初めの多忙な時期にも、総会準備がスムーズに行えるようになりました。

担当の先生方や委員同士の連絡は、Google チャット・Google ドライブ、Line などを利用し、情報やデータの共有を行っています。運営委員会の資料も、事前に確認しておくことで、当日の進行や審議をスピーディーに行えるようになりました。

学校行事に合わせた活動としては、体育祭と持久走大会でペットボトル飲料の事前配布を行っています。

以前はジャグで「スポーツドリンク」、大鍋で「豚汁」を提供していましたが、いずれもコロナ禍を経て今の形となりました。

文化祭では物販コーナーを企画し、地元の名物パンやおにぎり、ドリンクなどの販売をしています。中でも「校章の焼印が入った紅白まんじゅう」はとても人気です。今年も大盛況で終わりましたが、楽しむのが上手な生徒たちと一緒に、大人の私たちも笑顔の多い時間を過ごすことができました。

卒業式では、昨年度からバルーンアートを作成しフォトスポットを設置しました。卒業生の最後の思い出になるように、今年度も心を込めて作成したいと思います。



### 《学年委員会》

主な活動内容として、文化祭・体育祭など学校行事のお手伝いのほかに、校外研修や外部講師を

お招きしてセミナーまたは講習会の企画・実施を年2回行っております。

今年度は、7月に校外研修として都内バスツアーを企画し、湯島天満宮参拝と豊洲市場の見学に参加者50名で行ってまいりました。

また11月は講師をお招きしてセミナーを開催します。思春期の子どもたちの心とからだの成長を通して、「生きる力」「選択する力」「性と生」について学び、自分らしく生きることの大切さを再確認できる内容となっております。

PTAの方々との交流を深めるため、これまでバスボムやアクセサリ講習会、観劇鑑賞会等様々な企画を実施してきました。

学年委員会の定例会は年間10回程度ですが、仕事や介護等で調整が難しいところ、可能な範囲でPTA活動に協力いただいております。負担を感じることがないように、助け合いながら楽しく活動しています。

### 《広報委員会》

主な活動は、年2～3回PTA会報誌「鏡」の発行・学校・PTA行事の写真撮影・文化祭・体育祭・持久走大会・球技大会などのお手伝いです。

毎月1回の定例会と、会報誌発行前の1ヶ月半くらいには、担当ページごとに集まって編集作業を行っています。

ラインなどを活用し、委員お一人お一人の負担がなるべく軽くなるように活動しています。

会報誌の作成は、こちらでレイアウトを行った後は印刷業者にお任せすることもできるので、PC作業ができなくても大丈夫。できるときにできることを、皆さんで分担しながら行っています。

文化祭では、会報誌には載せきれない体育祭の名場面シーンのスライドショーを上映しました。

前日準備では、生徒の皆さんと同じように、私たちも飾りつけやスライドショーの準備を下校時間ギリギリ、暗くなるまで行い、生徒の皆さんと一緒に大急ぎで下校するという、青春のドキドキを味わいました。当日はたくさんの方にご覧いただき大成功でした。

日々の勉強や部活、行事に一生懸命取り組む、キラキラした大津高生！生徒の皆さんの真剣な姿、たくさんの笑顔と感動を保護者の皆様にお伝えするために、アイデアを出し合って取材を重ね、私たち広報委員も第二の青春を楽しみながら活動しています。そしていつしか、私たち委員同士もかけがえのない仲間として交流できることを嬉しく思っています。横須賀大津高校での出会いは、子どもたちにとってだけでなく、私たち自身にとっても人生の宝物となることでしょう。

#### 《ステップアップ大津委員会》

2000年の高P連横三地区大会の提案校をきっかけに誕生した本校独自の委員会です。生徒・保護者・教職員の望む教育環境整備の実現に向け、PTA活動の具体的内容の提案を目的としています。

主な活動内容として、年度始めに“プリント届けていますか”キャンペーンポスターを各教室と昇降口に掲示しています。年に2回参考書と問題集のリサイクル活動を行っており、昨年度実績として1年間で112冊が在校生に譲渡されました。

また、不定期ですが、PTAフォーラムを開催しており、昨年度はFP(ファイナンシャルプランナー)をお招きしての「お金の話」を実施しました。

文化祭では特に食販クラスに向けて手が洗えているか、手洗いチェッカーで生徒たちに手洗いの重要性を周知しています。また、今年令和8年度の創立120周年に向け、生徒の学校に対する興味を育てるために大津高校クイズを実施しました。

環境整備のお手伝いとして昨年度は校門周りのプランターへの花植えを実施しました。

最後に卒業式と入学式用に「おめでとうボード」を作成し掲示しています。



#### 《交通安全委員会》

定例会は年7～8回で、現在集まりやすい水曜日に行っています。

主な活動は、年2回のあいさつ活動と自転車点検と文化祭参加です。あいさつ活動では、生徒達の登校風景が見られます。

自転車点検は、自転車通学の生徒向けにプロの方をお呼びして自転車の安全点検をして頂いています。

文化祭では、交通安全に関するクイズをしました。毎年ニーズに合わせて新しい問題を加えていますが、準備のほとんどは例年使用している物を工夫して利用しています。

皆さん学生時代に戻ったように楽しくわいわいと準備していました。今年は横須賀南警察署の方が2名来てくれて、私達の展示のサポートをしてくれました。

#### 5 たちばな会(同窓会)紹介

たちばな会は、開校時からの卒業生、約3万人余りから成る同窓会です。毎年「卒業証書ホルダー」を寄贈してくださるほか、文化祭での出店や「青春かながわ校歌祭」への参加など、世代を超えた幅広い交流活動をされています。

本校を長きにわたり支えてくださる、心強い存在です。

#### 6 おわりに

横須賀大津高校では、学校行事や部活動の大会など、さまざまな場面で「大津サイコー！」という言葉を目にします。充実感や高揚感が、ダイレクトに伝わってくるフレーズです。

PTAもその感動を共有し、縁あって繋がった私たち大人も一緒に愉しみたい！との思いから、「大人も、愉しむ。大津サイコー！」というテーマで、この2年間活動してまいりました。

歴史ある大津高PTA。大切にしたい部分は継承し、これからの時代に合った活動とは何か？と「再考」を重ねていきます。そしていつの日か、「最高！」な形に整えていけたら幸いです。

タイトル 「講演 ハモる地域や組織とは？～ハモニケーション®から学ぶ

チームビルディング～」

講演者 杉田 篤史 氏 (アカペラグループ INSPi リーダー/

愛媛大学社会共創学部客員研究員)

### 1 はじめに

ハモニケーション®とは  
→ハーモニー+コミュニケーション



### 2 大学との共同研究では

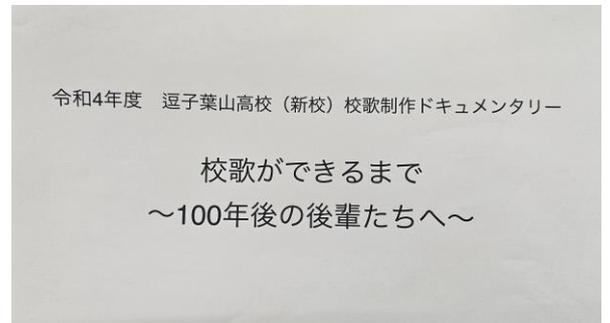
- ・パート別歌唱 (合唱形態)
- ・混合歌唱 (アカペラ形態)

の2つの歌唱を取り上げ、混合歌唱の方がパート別歌唱よりも自律性と協調性に基づく協働の場が醸成される傾向がより高いという仮説の検証を行ったとの話がありました



### 3 学校・地域での実践①

- ・令和4年度在籍の有志生徒と一緒に  
逗子葉山高校校歌を作成  
新しい校歌ができるまでの一部を  
ドキュメンタリー動画として鑑賞しました



### 4 学校・地域での実践②

- ・愛媛県西予市野村町での活動  
平成30年の西日本豪雨で被災した子どもたちとともに町の歌を作るワークショップを開催

最後に生徒たちと一緒に作った逗子葉山高校の校歌を歌ってもらい、終了しました。

# 令和6年度 県高P連湘南鎌倉地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会湘南鎌倉地区協議会

後援 神奈川県教育委員会

一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1 日 時 令和6年10月16日(水) 13:00～16:00

2 会 場 茅ヶ崎市民文化会館 小ホール

3 参加者数 135名

3 日 程 (次第)

## (1) 開会式

①開会の言葉 (地区協議会副会長 藤沢工科高校PTA会長 宮城 武広 様)

②主催者挨拶 (地区協議会会長 茅ヶ崎北陵高校PTA代表 岡本 房緒)

③県立学校長会議地区会長挨拶 (大船高校校長 幸田 隆 様)

④来賓紹介及び挨拶 (安全振興会常務理事 中野 真衣子 様)

## (2) 講演

講師 横浜国立大学教育学部

准教授 神山 努 氏

講演 「発達障害の理解と行動支援」

## (3) 休憩

## (4) 研究発表

①研究発表Ⅰ 深沢高校PTA:

「 深々気鋭～完校に向けた取組と深沢history! 」

②研究発表Ⅱ 湘南高校PTA:

「 時を愉しむPTA～学ぶ・つなぐ・響きあう～ 」

③助言者講評 (鶴嶺高校副校長 亀岡 睦美 様)

## (5) 閉会式

閉会の言葉 (地区協議会監事 深沢高校PTA会長 畑谷 智子 様)

タイトル 「発達障害の理解と行動支援」

講演者 横浜国立大学教育学部  
准教授 神山 努 氏

発達障害がある子ども達に対する教育支援が注目され始めて20年以上が経過しますが、学校や社会の状況変化に伴い、発達障害教育の検討は引き続き求められています。本日は、発達障害の特性について事例をふまえて解説させていただくとともに、発達障害がある子どもたちが示す行動上の問題についての理解と支援について特に取り上げていこうと思っております。学校において発達障害がある子どもたちが示す行動上の問題の背景理解の方法と、それをふまえた教育方法について解説していきます。

まず、なぜ「障害」の概念があるのかということについて考えていきたいと思います。病気などは治療などを経て回復し、一時的なものです。一般に、障害は、永続的な社会困難な状況を指します。また、サポートを考える際の指標となるものです。それゆえ、障害は、どのような状態・実態なのかまで、本人・周囲は理解する必要があり、本人への訓練等だけでなく、社会へのアプローチが必須となってきます。そのため、「障害」という概念があるのです。

それでは、一般的な「発達障害」の特徴についてみていきましょう。まず本人の「特性」や「困難」が周囲から理解されないという特徴が挙げられます。なぜかという、1つには、外見上の特徴がない。次に、能力領域によっては困難がないことです。つまり、見てすぐにわからない。また、ある領域には、他の人と同様、むしろそれ以上の能力を示す人もいて、その障害が、他のことはできるのだからできないのは本人の努力不足と勘違いされることもあります。問題の原因が本人の努力不足等にあるとされて、そのことが

たとえ善意であったとしても、本人を追い詰めることにつながります。二次的な障害へとつながる危険性もはらんでいます。二次的な障害とは、失敗経験から周囲の指摘や評価から委縮などしてまた失敗経験をし、周囲の指摘・評価がさらに厳しくなりというように負のスパイラルのような社会的悪循環に陥ることです。その結果、自尊心の低下や二次的な障害、外向性としては、攻撃、非行といった反抗挑発症、内向性としては、抑うつ、不登校といった気分障害や適応障害などを発症することもあります。個人情報保護のために部分改変してこのような例をお示しします。ひらがなは読めていたが、気分が悪くなるくらい大変な生徒に、おそらく良かれと思ってもっと頑張ればきっと読めるようになると励ます先生がいました。このように「障害」はときに本人だけでなく社会からつくられることもあるのです。

発達障害の可能性のある生徒の資料をご覧ください。文部科学省の全国調査の結果です。ただし、本調査はあくまで各学校の回答であることは留意しておかなくてはなりません。推定値ですが、クラスにおおよそ少なくとも1人は何らかの発達障害をもった生徒がいらっしゃるということになります。

発達障害には、スライドにあるようにASD、LD、ADHD、知的障害があります。発達障害者支援法の施工以前は、このような発達障害者は「支援のはざま」にあるとされていました。自閉スペクトラム症の特徴は、社会的コミュニケーション、対人相互作用の持続的困難、行動、興味、活動の限定された反復的な様式をとることが挙げられます。感覚過敏あるいは鈍麻の特徴

は、五感いずれかの過敏あるいは鈍麻で、外的にも分かりにくく、本人もときに自覚がなく、心理状態の影響を受けます。自閉スペクトラム症の女性は、意図の有無にかかわらず、自閉スペクトラム症の症状を隠す行動をとることがあり、本人の心理負担が高いと考えられ、社会的要因があるかもしれないと言われています。注意欠如・多動症（ADHD）は、不注意、多動・衝動性のいずれか、または両方を特徴としています。限局性学習症（LD）は読み、書き、算数のいずれかまたは複数の特定の困難を特徴としています。

青年期・成人期の困難な例としては、人間関係のトラブルや一人であることへの葛藤、状況理解、判断のミス、ケアレスミスの反復、昼夜逆転、預金管理などの生活の困難、大きな判断を急にするなど挙げられます。

次に、発達障害者への支援について、話していきたいと思います。本人への支援としては個別や小集団でのソーシャルスキル指導などがあり、周囲への支援としては、環境調整や合理的配慮などがあります。ただし、土台はあくまで本人の意思決定となります。行動分析学からの行動支援としては、本人が気になる行動を起こす理由を知り、環境を整えることが大切です。

では、本人支援と周囲支援のどちらが大切か。言うまでもなく、その両方です。もちろん、その比重、内容や個別事例で変わります。あるいは、時代によっても変わります。ただし、意識しないと本人支援ばかりになってしまうので注意が必要です。

次にインクルーシブ教育について、お話いたします。インクルーシブ教育とは「多様な子どもたちがいることを前提とし、排除されやすい子どもたちも含めて多様な子どもたちの教育を受ける権利を地域の学校で保証するために、教育そのものを改革していくプロセス」です。当然、その在り方も時代によって変わります。その際、本人の意思決定が一番大切です。支援をどう利用するか、本人が決めて動いていくこととなります。それでは周囲から見て、本人の選択に疑問

がある時はどうすればいいでしょうか。それには、まず、本人とよく話し合い、お互いの意見を尊重し、やはり、最終的には本人の意思を尊重するということとなります。また「意思決定」は本人のみの問題でしょうか。この問いには、本人のみではないということになると思います。当然、本人の意思決定は周囲も影響を受けるからです。ですが、やはり、一番影響を受けるのは本人ですので、難しいですが、丁寧な話し合いの上、両者が納得できる決定が望ましいと思います。

最後にまとめとなりますが、発達障害のある子どもの教育で大切なことは、自分でできることを増やすこと、自分一人ではできないことがあることを知ること、できないことがあった時の対処法を知ること、できないことに直面した際の捉えを知ることです。

## 研究発表 I

学校名 神奈川県立深沢高等学校 P T A

研究テーマ <sup>しんしんきえい</sup>「深々気鋭～完校に向けた取組と深沢 history！」

### 1 はじめに

深沢高等学校は、高校百校計画により新進気鋭の最後の設置校として昭和 61(1986)年 4 月に開校された全日制普通科、17 学級規模の学校である。

古都鎌倉の西の方に位置し、最寄り駅は湘南モノレールの湘南深沢駅だが、生徒の通学利用では J R 藤沢駅が最も多い。校地の一部は藤沢市に含まれる。

学校創立から 37 年めの令和 4 (2022)年 9 月に発表された高校再編計画第Ⅲ期中で、藤沢清流高等学校との再編・統合が発表された。在校生とその保護者、先生方は大きな衝撃を受けたものの、日々の学校活動は落ち着いて進められ、二度の入学選抜を無事に終えて第 38 期生、第 39 期生を迎えることができた。

今回は、完校に向けた取組とこれまでの深沢高校の歴史を振り返って発表させていただく。

### 2 学校紹介

最後の入学生となった第 39 期生募集用に本校生徒会が作成した V T R で学校紹介をさせていただく。

- 施設 独立した茶室があり茶道体験教室等の文化活動に利用されている。
- 行事 学校行事は多く、保護者も積極的に参加し、P T A として協力し貢献している。
  - 6 月：体育祭 ←P T A が麦茶を提供
  - 7 月：新川清掃 (ボランティア活動)
  - 8 月：インターンシップ (1 年生)
  - 9 月：深校祭 (文化祭) ←P T A も参加
  - 12 月：球技大会 ←P T A が豚汁を提供
  - 3 月：合唱コンクール ←保護者参観

### 3 P T A 委員会紹介

深沢高校の P T A は本部と 4 つの委員会から成り立っている。本年度の活動を中心に紹介したい。

#### ○ P T A 本部

体育祭では麦茶を提供し、球技大会では豚汁を提供している。いずれも生徒たちから好評である。



麦茶提供のテント



学年ホールでの豚汁提供

#### ○ 環境整備委員会

40 人ほどのメンバーで学校内の花壇の手入れを行っている。ハロウィンやクリスマスの時期には昇降口前にある「希望の塔」に飾り付けをしている。また、卒業式会場にも鉢植えの花で花道を作り、卒業生を祝っている。いずれも好評である。

今年の文化祭ではワッフルや唐揚げを販売した。



「希望の塔」と花壇

○ 交通安全委員会

年2回の下校指導を行っている。自転車通学の生徒も多く、保護者目線での声かけを心掛けている。

今年の文化祭では交通安全関連の展示と、景品を用意した交通安全クイズを行った。

○ 広報委員会

年2回の広報誌発行を行っている。学校行事の取材に飛び回るほか、編集会議をまめに開いており、学校ホームページとともに深沢高校からの情報発信を担っている。

今年の文化祭では「希望の塔」を刺繍したオリジナルトートバッグを作成、販売した。

○ 企画委員会

会員の生涯学習と相互親睦を目指して活動している。今年度は校内でのボクササイズ教室、秋の日帰りバスツアーを企画し、会員の皆様に楽しんでもらった。

また、文化祭ではバスボム（入浴剤）づくりとコロッケ販売を行った。

4 完校への準備

ご存じのとおり、深沢高校は令和9（2027）年3月末で完校する。生徒が減り、校舎施設も空にしていく。その取組の概要を紹介する。

下図は完校までの工程表である。

【深沢高校の現状と課題】

今年度は3年生6クラス、2年生6クラス、1年生5クラスの全校で17学級、全校生徒数660人ほどの規模である。

この学校規模は今年が最後で、来年度は生徒や職員数が2/3になり、再来年度は1/3になる。

学校では昨年度から備品や消耗品の整理のためのリスト作成や、生徒会規約の改定を行ってきた。

【深沢高校PTAの課題】

生徒数減に伴ってPTA会員数や会費収入が減少していくことになる。そこでPTAとしての課題を検討し、次のように整理した。

○ 備品・消耗品の整理

4年にわたるコロナ禍をはさみ、うまく引き継がれていない物品もある。

○ 来年度以降の予算の検討

会費収入が減少する中で、上手く予算編成をして、しかも最後の年には残金をゼロにして3月末に締めなくてはならない。

○ PTA規約の改定の検討

新規の会員が入らないことで、役員や委員の任期、役員数、会費のこと等を検討しなくてはならない。場合によっては、現在は役員と委員のみが加入している高P連団体傷害保険を、最終年度は全会員に切り替える必要性も考えている。

深沢高校 PTA運営委員会資料		令和5年3月7日 副校長																																												
深沢高校のPTA活動について、今後の見通しをつける上での資料を作成しました。ご確認の上、課題の検討をお願いします。																																														
非活用校にかかる行程表																																														
年度	令和4 2022	令和5 2023	令和6 2024	令和7 2025	令和8 2026																																									
月	10	11	1	3	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	3	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	3	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	3	2					
生徒募集	37期生(6)		38期生(6)		39期生(5?)		3学年が揃う最後の年		2, 3年生のみ在籍		3年生のみ在籍																																			
PTA活動			課題の検討 ・校内：各委員会の活動 ・対外：高P連活動		課題の検討 ・校内：各委員会の活動 ・対外：高P連活動		備品・消耗品のリスト作成		備品・消耗品の整理		備品等整理・廃棄の完了(年度末)																																			
学徴金 運営協 議会	5月：令和4年度第2回 11月：令和5年度第1回		5月：令和5年度第2回 11月：令和6年度第1回		5月：令和6年度第2回 11月：令和7年度第1回		5月：令和7年度第2回 11月：令和8年度第1回 3月：令和8年度第2回		5月：令和8年度第2回																																					
参考 (校務)			備品・消耗品のリスト作成		備品・消耗品のリスト更新 (繰上り清償への移管を優先する)		備品・消耗品の放出開始 ・各私費口座の整理 職員数2/3		備品・消耗品の放出完了 職員数1/3																																					
記念事業 (案)	準備委員会	実行委員会設置 完校記念誌の編集 記念式典計画	完校記念誌発行 校歌の作成(合唱の優勝メロディ) 芸術鑑賞会(演劇)兼記念式典	記念誌・DVD完成 お-A&Sシアター 記念室設置準備	卒業式・完校式典 お-A&Sシアター 記念室設置																																									

### 【PTA各委員会の課題調査】

PTA各委員会の課題を知るため、各委員長にアンケート調査を行った。

- Q1. 会員数や予算が減る問題点
- Q2. 役員・委員の再募集が必要か
- Q3. 生徒が少なくなることによって、新たにやってみたいこと
- Q4. 本部や他の委員会にお願いしたいこと

#### ○ PTA本部

予算面は、予算の範囲内でできることをするので問題なし。

役員の再募集は、会計監査が1年任期のため必要になる。

体育祭の麦茶提供や球技大会での豚汁作りは、他の委員さんに今まで以上のお手伝いをお願いすることになると思う。

#### ○ 環境整備委員会

生徒数、委員数が減っても手入れをする花壇のスペースは変わらない。

予算が少なくなるのは必然だが、毎年咲く花を植えるにあたり、比較的安価な花を手に入れて植えていき、活動内容が今ほど充実できなくても「綺麗」を維持していきたい。

委員の再募集は賛成だが、増員は難しいのでは？保護者お手伝い枠、学校技能員さん、生徒さんたちに美化委員を立ち上げていただいて、水やりのお手伝いをしてもらえると助かる。新たなコミュニティの繋がりにもなるように思う。水やりスケジュール管理が課題。

#### ○ 交通安全委員会

委員数・予算とも問題なし。

文化祭の時だけ、お手伝いをしてくれる方がいると助かる。

必要なイベントだけサポーターを募集してはどうか。

#### ○ 広報委員会

学年・生徒数の変化で広報誌の撮影日数・ページ数が変化するので、委員の人数や予算は現状で問題ない。

#### ○ 企画委員会

現状の委員数でできることをやればよいと思うので、再募集の必要はない。

他の委員会へのお願いとしては、講習会やバスツアー等に積極的に参加してほしい。

### 【PTAとしての課題のまとめ】

会計監査と役員・委員の募集をどのように行うか、お手伝いサポーター等を募集するならば、どのような募集方法で、どのように管理していくのか等を、これから考えていくことになる。

また、来年度以降、人数が少なくなることによって、コロナ禍前に行っていた生徒会とのPS会議（保護者代表と生徒会代表との情報交換会）や合唱コンクールへの参加等、小規模だからこそできる企画も考えていけるのではないかな。

### 5 深沢 history !

深沢高校が開校し、今年で39年め。完校まで残り2年半で、この学校は幕を閉じる。皆様に少しでも深沢高校のことを知っていただきたい、これまでの歴史を簡単に紹介していきたい。

#### ① 学校創立

深沢高校は昭和61(1986)年4月に第1期生180名が入学。しかし校舎の建設が間に合わず、鎌倉市山崎に建設されたプレハブ校舎での開校となった。



プレハブ校舎の前で（創立十周年記念誌から転載）

#### ② 校舎落成と移転

開校から1年半後、ようやく仮校舎から新校舎へ移転することができた。現在のPTA本部役員にも、この時の引っ越しの経験者があり、あの時のピッカピカの新校舎の感動を忘れずにいる。



## ⑥ 完校に寄せる卒業生の思い

開校から37年を経た令和4(2022)年9月29日、本校と藤沢清流高校との再編・統合が、校内放送によって校長先生から生徒に発表された。このニュースは在校生はもちろん、卒業生の間でも衝撃をもたらした。

そこで、先月9月に行われた文化祭に多くの卒業生が来校されたので、何名かの方に「深高がなくなってしまうと聞かされた時の気持ち」をインタビューさせていただいたので紹介する。

◎(当時の2年生は)修学旅行中だったので、旅先で昼食時に知った。ジンギスカン料理を食べながら泣いている子もいた。

◎3時間目、校内放送で知った。今トイレをリニューアルしているのに…ありえないと思った。

◎文化祭などで学校に来ていたので、高校時代を思い出す機会となっていた。それができなくなることは寂しい…。

◎もともと、数年後には老人ホームになるという噂だったので、ここまでよく頑張った。

◎アニメ化されたことで盛り上がったことを覚えている。先生方が良かった。人との関りが良かった。帰ってくる場所がなくなってしまうのは寂しい…。

◎最後の生徒達が卒業するまで盛り上げたい。などなど、深沢高校を思う卒業生も多く、PTAでは先生方と協力して、今後、在校生と卒業生の橋渡しをしていけたらと考えている。

## 6 おわりに

正直なところ、2年前に藤沢清流高校との再編・統合による完校のニュースを聞いた時、生徒数も役員数も減っていくなか、PTA活動が今まで通り活動できるかとても心配だった。

だが、統廃合発表後の昨年度も、最後の入学生受入れとなった今年度も、ともに募集定員を超える入学希望者が集まり、入学手続きでのPTA役員勧誘の際も、各委員会に意欲あるメンバーが数多く入ってくれた。

完校まで残り2年半。最後の年まで先生方と協

力して、子どもたちの充実した学校生活を支えていけることと思っている。



第37回深高祭ポスター テーマ「深々気鋭」

例年、深高祭のテーマには「深」の文字を組み入れて設定している。

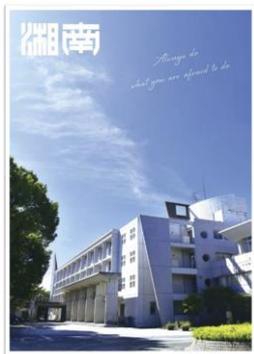
## 「研究発表Ⅱ」

学校名 湘南高等学校 PTA

研究テーマ 「時を愉しむ PTA～学ぶ・つなぐ・響きあう～」

### 1. はじめに

湘南高校は 1921 年設立、今年で 103 周年を迎えます。



小田急江ノ島線 藤沢本町駅から徒歩 8 分ほどに位置し、創立当時から高いレベルでの文武両道を理念としてきました。

生徒たちは自主・自立を重んじる自由で伸びやかな校風の下「最も困難な道に挑戦せよ」を合言葉として、勉強のみならず行事や部活動にも全力で取り組んでいます。部活動加入率は兼部する生徒も多く 10 割を超えており、非常に活動が盛んな学校です。

### 2. 体育祭を題材として “学ぶ”



湘南高校の校風を象徴しているのが体育祭です。生徒たちにとって高校生活最大のイベントと言っても過言ではありません。

なかでも、3 学年縦割りの 9 チームで挑む、仮装演技は体育祭の目玉であり日本一の体育祭を謳っています。テーマに沿った

10 分間の演技を生徒自身が構成から、衣装、大道具、小道具、全てを手作りし、一年間をかけて作り上げます。

この体育祭は 2 年生を中心に体育祭実行委員会が組織され、準備のためのルール作りから観客の誘導、警備まですべて生徒の手で行います。先生方は表に出ず、生徒たちに任せて背後からサポートするというスタンスです。大人の手を借りず、このように自主的に活動をする生徒たちに対しては PTA も直接生徒への支援をすることはありません。



### 3. 一番のイベントを形に残して “つなぐ”

そんな大事な体育祭も、2020 年のコロナには大きな影響を受けました。思い描いてきた様子とは全く違い、観客は 3 年生の保護者のみでの実施となり、チーム毎に校庭に順番で登場する交代での仮装演技のみで、仲間の応援もありませんでした。

体育祭にかける思いは、それを 1 年間見守ってきた保護者にとっても同じです。晴れの舞台を実際に観ることができない保護者の無念も計りしれません。

そんな中、保護者の声を受けて、この年

に始めたのが、PTA による体育祭記念 DVD・ブルーレイの作成と販売です。

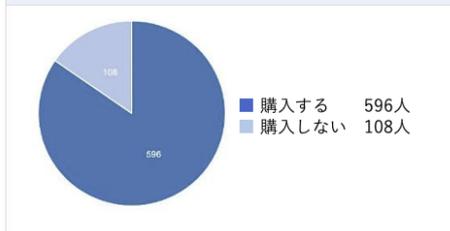


企画を PTA が行い、収録から編集、販売までを専門の映像制作業者さんをお願いをしました。

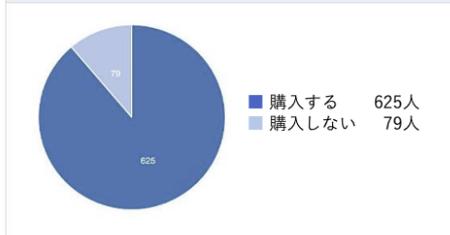
作成にあたっては、最初に保護者へ購入意向のアンケート調査を PTA マ

チコミを通じて行い、販売収支が成立するかどうかの判断を行います。販売 2 年目以降は、保護者の体育祭観覧が可能になるかが不明でしたので、アンケートでは「体育祭の観覧が可能な場合 DVD を購入しますか?」「観覧できない場合、購入しますか?」の 2 点のみを伺い、できるだけ多くの方に回答をいただけるようにしました。

①観覧が可能な場合、購入を希望するかどうか教えてください



②観覧できない場合、購入を希望するかどうか教えてください



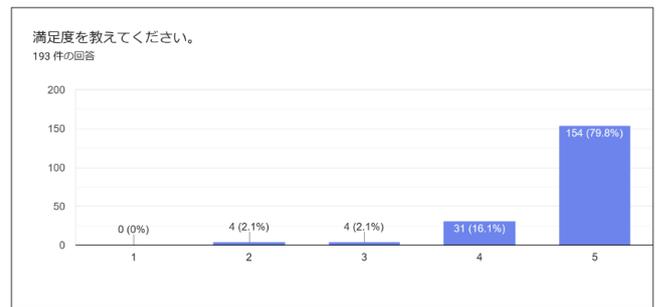
く購入したいという保護者の意向が読み取れます。コロナ禍で始まった DVD 作成と販売ですが、その後も保護者の体育祭 DVD への期待が非常に大きいことを実感しています。

PTA として DVD の作成においては 2 つのポリシーを設けています。

第一にできる限り多くの生徒たちにスポットを当てること。仮装も演舞のない裏方のスナップを入れるなどの工夫をしています。

第二には、この DVD を観て、悲しい思いをする生徒を作らないということ。生徒から映りたくないなど申し出があれば先生が丁寧に面談をして意向を伺い、他にもチアリーダーのダンスの選別を行うなど、業者さんとも念入りな打ち合わせを行っています。PTA も編集段階で本部役員が慎重に内容確認を実施しています。

体育祭DVD/Blu-ray満足度アンケート



その成果を測る指標として昨年度実施した、満足度アンケートの結果では、非常に満足と満足を合わせると 95.8%になりました。

さらに今回の研究発表に向けて業者さんにもインタビューを行い考察しました。

学校行事の制作は何が難しいのか。他にもこういった制作需要は



あるのか。何か気をつけていることはあるか。といった質問

項目を中心にお聞きしました。

残念なことに発注は、子ども人口の減少や学校の統廃合などで引き合い自体が減ってしまっており、さらにコロナ禍でイベントそのものが減ってしまったことも拍車をかけているそうです。

また、最大のライバルはスマホで、最近観覧者がお子さんの出番だけをスマホで

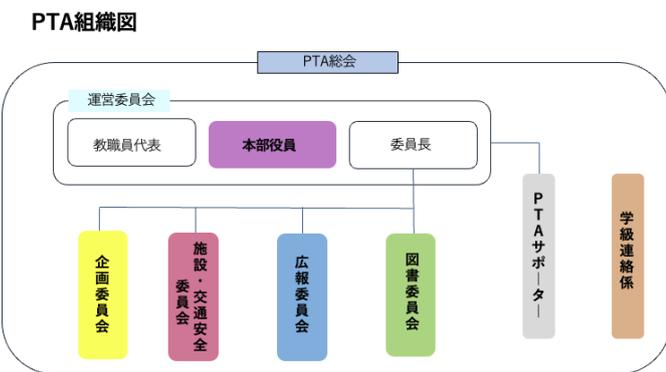
高画質の動画を撮影し、それで事足りてしまうため、制作にはそれなりの価値が見出せないとお金を出してまでの購買行動にならないとのことでした。

これまでの調査やデータを参照しながら、魅力のある価値のあるコンテンツとは何かをあらためて考えてみます。

我々の行なっているこの活動は、生徒たちの活動の成果や思い出を形に残すことです。開会式から仮装・競技・閉会式まで体育祭全てをカバーする完全版とし、画像や音声の充実はもちろんのこと、複数のアングルからの撮影、プロの手による無駄のない編集、発注者の意向や配慮の反映など、これら全てを達成することで、各ご家庭に納得・満足をいただける価値につながっていると考察いたしました。

#### 4. 各委員会活動で ”響きあう”

本校 PTA は、企画委員会、施設・交通安全委員会、広報委員会、図書委員会の4つの委員会と本部で構成されています。



先ほどの体育祭の運営でも紹介した様に、生徒たちが学校行事等を自主的に運営するので、PTA の主な活動目標としては「保護者と学校」あるいは「保護者同士」のコミュニケーションを向上させること、さらに保護者自身の自己啓発をあげています。

本部は、学校側との連携と、各委員会活動の統括・調整・連絡などを担当しています。文化祭では「PTA の部屋」を企画し、各委員会の活動紹介、先ほど紹介しました体育祭 DVD の上映、に加えて募金販売を行っています。

募金販売のキーホルダーは保護者や生徒、卒業生、先生方さらには受験生にも毎年好評で、集められた募金は「神奈川県まなびや基金」を通じて、湘南高校の教育環境整備に充当させていただいています。



また、文化祭では保護者から PTA サポーターを募集し、会場の装飾や当日の募金販売受付のお手伝いをお願いしています。

さらにクリアファイルも PTA で作成しており、例年、卒業式の前に生徒全員、教職員、3年生保護者に配付されます。新入生用の書類セットにも入っています。

企画委員会は、保護者向けの講演会、委員向けの歓送迎会の企画を行います。



歓送迎会では卒業委員さんからの一言や、新入委員の紹介があります。

講演会は今年度は 100 回生という区切りの代でしたので、教育に関わる著名な方をお呼びしての講演会を意識して企画し、尾木直樹先生をお招きし大盛況に終わりました。



施設・交通安全委員会は、生徒への交通安全の啓発、保護者向けの校内施設見学会を行っています。

「施設・交通安全ニュース」の発行の他、

新入生へのセーフティカードを作成し配付しています。

また校内施設見学会はタイトルのとおり、校内の様々なスポットを先生方のご案内で巡っていく企画です。毎年参加抽選になる



ほど人気で、先生方のご案内も素晴らしいと大好評です。普段は入ることができない屋上へも特別に行くことができます。

広報委員会は、広報紙を年に4回発行しています。年間4回は多いと感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、保護者の知りたい情報をタイムリーに発信してくれています。



5月に年度最初の教職員紹介号、続いて文化祭特集号、体育祭特集号、卒業記念号という内容となっています。写真も多く特集記事なども充実しています。

広報委員会では撮影だけではなく、紙面作成・編集もあり、どうしても作業の回数が多くなってしまいます。他の委員会と比べると作業時間や日数が多くなっているのが現在の課題となっています。

図書委員会は、保護者向けの歴史文学散策、「PTA 図書委員会だより」の発行などを行っています。

歴史文学散策は、近隣の様々な場所に保護者同士で出掛け親睦を図ると共に学びを深める時間となっています。今年は100名の保護者の方と劇団四季の観劇に行きました。毎年抽選になるほど好評の歴史文学散策ですが、委員が1年以上前から検討を重ね、作業が多岐にわたっています。今後はより多くの保護者に参加していただけるよう安定した企画の提供と作業効率の向上を見直す検討も課題となっています。

年一回発行する「PTA 図書委員会だより」では、テーマに沿って先生方やPTA会長から募った推薦図書を紹介し、学校図書館に展示期間を設け貸し出しをしています。保護者だけではなく生徒からも良い反響を得ています。



最後に委員会ではありませんが、学級連絡係という係もあり、こちらは各クラスから数名手を挙げてくださった方をお願いし、主に学級親睦会の企画をしていただいています。



連絡係同士またクラスの保護者同士のコミュニケーション向上に大きな役割を果たしています。

## 5. 活発なPTAを”愉しみながら”継続する

コロナ禍を経て全体的にPTA活動は縮小されていく傾向もある中で、湘南高校PTAは、コロナ後でもこのように活発に活動を続けています。

もちろん委員の負担もゼロではないのが正直なところではありますが、委員の皆さんの声をお聞きすると、

- ・同学年だけでなく他学年との保護者のつながりができる。先輩保護者からの情報が貴重でありがたい
- ・学校や先生方、生徒たちなどにまつわる興味深い話が聞けて、学校の様子が分かる。子どもとの会話のネタが増える
- ・学校の教育方針や生徒に接するスタンスがよく理解できる

このような「やってよかった」という声だけでなく、PTA のイベント参加などを通じて「やればよかった」という声も多数いただいています。

幸いにも湘南 PTA は総勢 55 名の保護者委員に参画いただけている恵まれた環境です。

その一方、働く保護者が増え、各自日程の調整等が難しい中、委員の作業負担軽減を意識し、その中でいかに生徒や先生方、保護者により良い活動を伝えることができるかを模索しています。

変化を受け入れ、時代に沿った活動ができるよう、委員会や学年を超えて意見を出し合っって協力し、学校とも連携しながら柔軟に活動を継続していけたらと考えております。



(湘南高校 PTA キャッチフレーズ)

**時を愉しむ PTA ～学ぶ・つなぐ・響きあう～**

(PTA 活動指針)

1. 生徒の健やかな成長および学校の教育支援
2. 学校と会員相互の緊密な連携
3. 地域交流および自己研鑽の推進

# 平塚秦野地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会平塚秦野地区協議会  
後援 神奈川県教育委員会  
(一財) 神奈川県立高等学校安全振興会  
平塚秦野地区学校長会議

1日 時 令和6年10月1日(火) 13:30~17:00

2会場 ひらしん平塚文化芸術ホール 大ホール

3参加者数 316名

4日程(次第)

(1) 開会式

- ①開会の言葉 山本 友美(県立秦野総合高等学校PTA会長)
- ②平塚秦野地区会長挨拶 小西 恵子(県立平塚農商高等学校PTA会長)
- ③当番校校長挨拶 河合 俊直(県立平塚農商高等学校長)
- ④県高P連本部挨拶 (県立高等学校PTA連合会会長)
- ⑤来賓挨拶 (県立高等学校安全振興会常務理事)

(2) 研究発表 13:55~14:40

- ①研究発表Ⅰ 県立平塚工科高等学校PTA  
テーマ『それぞれができる範囲で、できる形で~スリム化で持続可能なPTA活動』
- ②研究発表Ⅱ 県立大磯高等学校PTA  
テーマ『Hub a good time ~産官学民をつなぐ青春応援歌!~』

③助言者講評 14:40~14:50

- 助言者 林 信仁(県立秦野総合高等学校長)
- 助言者 広瀬 邦彦(県立伊志田高等学校長)

(3) 保護者研修会(講演) 15:00~16:30

- 演題 「やる気を引き出す言葉かけ ~ペップトーク~」
- 講師 日本ペップトーク普及協会 松島 斉(まつしま ひとし)氏

(4) 閉会式 16:30~16:40

- ①閉会の言葉 山本 友美(県立秦野総合高等学校PTA会長)

タイトル 「研究発表」

学校名 神奈川県立平塚工科高等学校 PTA

研究テーマ「それぞれができる範囲で、できる形で ～スリム化で持続可能な PTA 活動～」

## 学校紹介



平塚工科高等学校は平塚海岸から 800M 北へ進んだところに位置し、約 8 割の生徒が自転車通学をしています。また平塚駅からも徒歩 15 分程で神奈川県内唯一自動車の事を学べる本校は平塚市外からの生徒も通学しやすい場所にあります。

平成 14 年 11 月 1 日、平塚西工業技術高等学校と平塚工業高等学校が再編成され、平塚工科高等学校が設置されました。

今年度は 166 名が入学し、全校 490 名の生徒が在籍、各学年 7 クラス、展開しています。本校の時間割は午前・午後が 3 時間ずつです。工業実習は 3 時間連続で行われます。

学習内容は、1 学年で全員が共通履修し、2 学年では 5 つの系（自動車系・機械系・電気系・環境化学系・総合技術系）で専門的な学習をし、3 学年では 6 つのコース（自動車コース・機械技術コース・電気技術コース・情報通信コース・環境化学コース・理数コース）でより深く学んでいきます。

また様々な資格も取得でき、就職活動に役立っています。

## PTA 活動

### ●本部役員会

各委員会・ボランティアの取りまとめ、会計監査、学校徴収金運営委員会への参加です。

1 年間で 10 回の実行委員会では発言のまとめを行い、役員同士、LINE での情報交換も行っています。

活動のメインは平工の文化祭「平工祭」の企画・運営です。

昨年度 11/3・11/4 に開催されたテーマは『みんなで学ぼう 防災』。

1 日目は平塚女性防災クラブ「平塚パワーズ」さんの講演会。段ボールで作る簡易トイレ、バンドナでできるケガの応急処置、ゴミ袋で作る雨かっぱなどを教えていただきました。2 日目は平塚市役所に依頼している地震体験車です。3D で体験することにより、心と体に記憶され防災の大切さがより実感できたかと思います。

また卒業式で、壇上と生徒が通る道に鉢植えのサクラソウをそえました。3 学年の担任団には 7 つ、PTA 役員とボランティアからお花のアレンジを贈呈しました。

3 年生の昇降口では卒業式後に箱を用意して不要になった体育館履きを提供してもらえようように準備しました。この譲ってもらった体育館履きは洗浄してから、地震・津波・洪水・高潮・火災の避難場所に指定されている本校に備蓄し、避難されている方に使用してもらいたいという、初めての試みです。こうして少しずつ平工で出来る SDG s を模索して実現できたら良いと考えています。

今年度は PTA で初めて 5 月 24 日に平塚レモンガススタジアムで行われた陸上記録会において全生徒の人数分スポーツドリンクを用意し配布しました。

### ●学年委員会

マナーアップキャンペーンと自転車点検を担当しています。

マナーアップキャンペーンでは平塚市役所、平塚警察署の職員、教職員、生徒会、PTAで登校時の挨拶運動とともに市内の駐輪場マップを配布しました。

自転車点検は今年度から平塚市の自転車協会のご協力いただき12月に実施します。

そして今年度は生徒が登下校時に事故にあってしまった時、慌てず対応できるように「セーフティカード」を配布しました。

事故の記録として、日時・場所・相手の連絡先・車のナンバーを記入できます。家族や警察、学校に連絡するとともに、けがの状況によっては救急車を呼ぶことや通院することも記載しています。

昨年度、平塚秦野地区交通安全大会の運営校だった本校は11月22日の本番を迎えるにあたって、担当者会議への参加、地区会議の開催、テーマの作成、当日の役割分担を決めました。大会当日は本校だけではなく、平塚秦野地区の高校の生徒・教職員・PTAの皆さんに協力をいただき、無事に終了しました。

### ●成人委員会

保護者同士の交流を深めることを目的に活動しています。

コロナ前は大型バスを貸し切った社会見学と、各系の先生方を講師に迎えての講習会、文化祭への出店などを積極的に行っていました。

コロナ禍では成人委員会の目的である「交流」が一番に制限されたため、学校行事や本部のお手伝いなど、その時にできる事にシフトしていきました。

一昨年は生徒のみの参加の文化祭において企画運営に携わり、工業高校らしいものとして「DIYチャレンジ」というゲームを考案。45秒以内に軍手をはめた手で、有孔ボードに

小さいネジを何個はめる事が出来るかを競い、大いに盛り上がりました。また食品の販売に制限があったため、個包装されたおにぎりや、からあげなどを仕入れて販売しました。

昨年度は本来の成人委員会の活動である講習会を4年ぶりに電気系の先生に講師を依頼し「ラーメンタイマーをつくろう」を開催しました。基礎の図面を見ながらハンダゴテを使い、見たこともない細かな電子部品を溶接する本格的な作業でしたが、電気系の生徒たちのお手伝いもあり終始、和やかな雰囲気でご覧を終える事ができました。

### ●広報委員会

年二回、広報誌「SHIOKAZE」を発行しています。春号は学校行事・校舎内地図・施設・授業風景・先生紹介・PTA活動紹介、陸上記録会、冬号は担任の先生から卒業生へのメッセージ・修学旅行などを掲載しています。

各イベントを取材し、写真選考後、印刷業者さんにレイアウト・色・デザインすべてお願いしています。

また来年は創刊100号になりますので記念になるような企画を考えています。

PTAは任意団体であり、入退会が自由であるという認識が広がる中で、本校のPTAは加入率が非常に高い状態を保ち続けています。

その大きな理由として会員に対してくじ引きによる役員への強制をしないため嫌悪感を抱きにくく、事情があっても役員を引き受けることができない方も入会しやすいことが考えられます。

ただ、それによる勧誘の難しさ、役員不足という課題は常に抱えており、少人数でもできる内容に活動をしばったり、行事ごとにボランティアを募るなどをして「平工らしい活動」を模索しています。

今後も子供たちの成長を見守り、応援していきます！

学 校 名 大磯高等学校PTA

研究テーマ 『HUB a Good Time～産官学民をつなぐ青春応援隊！～』

### ～Introduce～

#### 【大磯町とは】

大磯高校がある大磯町は人口約3万人という小規模市町村ながら、温暖な避暑地として栄えた場所でもあります。歴史を見ると、「湘南」発祥の碑が残る風光明媚な地であり、東海道五十三次8番目の宿場町として栄えました。初代総理大臣伊藤博文をはじめとした歴代総理大臣や歴史上重要な役割を果たした偉人の住居が多く残ります。代表的な観光資源である大磯ロングビーチは、毎年近隣地域はもとより遠方からも多くの観光客を迎えます。そこからいかに過去も現在も大磯町が過ごしやすい地域であるかが伺えます。

行政の動きとしても機に敏であり、災害時における企業宿泊施設利活用やドローンを使った物資運搬、生存者確認の協定を結ぶなど住民第一の前衛的な取り組みを行っています

#### 【大磯高等学校とは】

昭和2年4月10日大磯町立大磯実科高等女学校として開校をした本校は、昭和26年4月より現神奈川県立大磯高等学校として今に至ります。南には相模湾を一望し、東には丹沢山系を水源とする花水川、北には有名なデートスポットである湘南平を含む高麗山を臨む自然に恵まれた場所にあります。令和6年度には、来るべき100周年に向け学校制服をモデルチェンジいたしました。グローバル教育推進校として留学生と共に学ぶ機会や、地域企業や行政の取り組みを知る有識者の講演、オーストラリア研修旅行等を行っています。「自主自律」を校風とする開かれた環境に加え、魅力的な新しい取り組みの結果、近年では入学希望者が増加し「行ける学校」から「行きたい学校」への変化が見られます。

### ～PTA Works～

私たちは「子どもたちの青春応援隊！」

#### ・学年委員会

駿台予備校等の学習機関と連携し、最新の受験情報や傾向、学校の指導状況についての共有を目的として保護者向けに年2～3回の進路説明会や教員との懇親会を開催しています。保護者世代との受験システムの違いや難易度の違いを理解いただき生徒の進学環境面でのサポートを行います。

#### ・環境整備委員会

校内に点在する花壇一つひとつを我が子のように育てております。保護者に向け卒業式でも使用できるコサージュ製作教室の開催や、地域生花店と協力し、多肉ポットや苗・花束の販売を行いました。学校生活に「華」を添え、生徒、保護者の心を整える活動を行っています。

#### ・成人教育委員会

大人のための活動を。学び舎として3年間もの時間を過ごす大磯という地域を知っていただく企画を創っています。恒例の「大磯さんぽ」では、ガイドと共に大磯の歴史ある史跡を巡ることで親子に郷土愛を醸成する機会を提供しています。また体験会やランチ会の企画等保護者皆様の視野を拡げ、つながりを増やす企画も行っています。

#### ・広報委員会

一般非公開の体育祭・文化祭、球技会や講演会など生徒の姿を一番近くで見守ることができる委員会です。学校の生活や情報を広報誌や映像で伝えています。近年では、県P大会で学んだ広報誌の書き方を全広報委員に広め、書き手目線から読み手目線の広報誌へと進化をしています。海鳴祭体育祭では地域企業と連携の上ドローンを用いて撮影をし、より臨場感のある映像を記録として残し、文化祭にて来場者へ上映をいたしました。

#### ・交通安全委員会

大磯高校では通学において約7割の生徒が自転車を使用しているため、先生や地域自治体と協力をして交通指導や見守りを定期的に行っております。危険箇所の集約を行い生徒に伝えることで交通安全への意識を高めます。

また生徒や保護者、地域自治体を対象にしたステアードストレートを実施し、事故の恐怖や交通用具を扱う責任を体感いたしました。この結果として、地域の方々からも「横並び運転が減った」「ながら運転が減った」という声はすぐに上がって来るという結果になりました。

#### ・本部

近年PCやWi-Fiを導入し、各委員会活動の効率化を図りました。

体育祭や文化祭PTA模擬店の運営統括に加え、伝統行事として毎年海の日に行っている「海岸清掃」を行っています。学校から海までの距離が県内二番目に近い大磯高校では、第二のグラウンドと称する大磯海岸という資源を守るために教師、

保護者、生徒の皆様、地域自治会の皆様とともに活動を行っております。

また、文化祭の初日に生徒実行委員会主催で開催をする中夜祭では、PTA からサプライズとしてお笑い芸人をゲストに招きました。令和5年度はキングオブコントのファイナリストである「クロコップ」、令和6年度はNHK でもおなじみの「いっつもここから」によるステージを設えました。

### ～Initiative～

#### ① 【PTA 活動の透明化】

任意団体だからこそ、学校や行政だけではできないことができるという PR に加え、PTA 会費で行えた活動紹介、各委員会の活動日や頻度、活動内容をまとめた冊子を入学者説明会に向けて作成しました。紹介動画も作成し、二次元コードで閲覧できるようにすることで PTA 活動の雰囲気を知り、「やらされる」ではなく「やりたい」PTA となるよう取り組んでおります。また、PTA 意識アンケートを活用し、自主的に参画を決めてもらう取り組みをおこなっています。さらに、学校への問い合わせの際、教員の皆様からも活動の多様さや加入メリットをお伝えいただくなど、学校とも協働の活動を実施しております。結果、本校の PTA 加入率はほぼ 100%となっています。

#### ② 【生徒会とのつながり】

活動を行うために、重要となるのは我々 PTA の判断や満足ではなく、生徒が感じている問題や望みを知り具現化していくことだと考え、生徒会との意見交換を行いました。PTA がかなえられること、学校がかなえられること、地域がかなえられること、県がかなえられることに仕分けをし、まなびや基金の活用や、町長への直談判などそれぞれへの連携や進言を PTA がハブとなって進めています。



#### ③ 【産官学民とのつながり】

3-1 県立高等学校の管轄は県、という縦割りの考え方からどうしても所在する市町村役所との関係はうやむやになりがちです。行政に活動方針の共有と、事業計画へのご理解をいただくことで活動規模と可能性を今まで以上に広げることが

目的に、大磯町長へ表敬訪問を行いました。成果物として、町長の学校での講演や、宿泊研修、さらに大磯警察署より交通安全教室の開催依頼をいただいております。

3-2 大磯町に隣接する平塚市は、大磯高校の通う半数以上の生徒が居とする地域です。東海大学はその平塚市に本校を構える唯一の大学です。進学意欲の向上と、スポーツの振興を目指し、東海大学バスケットボール部に男女バスケットボール部へのクリニックを行っていただきました。今後は他の部活動や学習面でも関わりを続けさせていただけることを共有いたしました。地域の教育機関と連携を深めることにより、学習面、運動面での学びをより高い位置で享受できる環境を整え、生徒たち自らの経験を以って未来を選べる機会を創っていきます。

3-3 大磯高校と相模湾は隣り合わせの存在です。また大磯高校は敷地内を用水路が横切っているなど、水害と密接な関係であると言っても過言ではありません。

小中学校と異なり、遠方から通う生徒が多い中、帰宅困難者への対応のために大磯高校と大磯町でノジマ電器の研修施設であるノジマ大磯スクウェアの使用協定を結びました。これにより、帰宅困難者が危険の可能性が残る中無理に帰宅をする、街灯のなくなった夜道を帰るなどの二次災害の可能性を取り除くことができます。有事に先駆けて、PTA と生徒有志にて大磯町災害対策課との協働事業としてノジマ大磯スクウェアでの防災宿泊研修を行い、大磯町での災害についての講演や避難所の設営、さらにまちを歩いての学習を行いました。消火訓練や自ら火を起こしての備蓄食料の実食を行い災害時の体験いたしました。地域を知り、地域と共に生き抜くための原体験を重ね災害に対して強靱な体制を創ってまいります。

### ～Towards The Future～

#### 【創立100周年に向けて】

大磯高校は、令和8年度に創立100周年を迎え、翌令和9年度には式典・記念事業控えております。PTA では本年より大磯高校スポーツタオルを作成販売し100周年に向けた積立金として計上、また地域の歴史ある和菓子屋新杵様と協力し、記念干菓子の作成に向かっています。

生徒はもとより、保護者の皆様、地域の皆様が一様に約17000人の卒業生が築いてくれたこの大磯高校を誇りに思っただけ、そんな活動を展開してまいります。

我々PTA は、産官学民全てをつなぐハブとして、生徒たちにより良い3年間という時間を過ごしていただくよう取り組んでいきます！

HUB a Good Time !

# 県西地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会県西地区協議会  
後援 神奈川県教育委員会  
一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

1日 時 令和6年10月5日(土) 12:30~15:30

2会場 南足柄市文化会館 大ホール

3参加者数 168名

4日 程(次第)

アトラクション 小田原東高等学校邦楽部・ダンス部による発表

(1) 開会式

- ①開会の言葉 小田原城北工業高等学校PTA会長 堀 正一
- ②主催者挨拶 神奈川県立高等学校PTA連合会県西地区協議会  
会長(小田原東高等学校PTA会長) 小松崎 菊代
- ③県西地区協議会代表校長挨拶 小田原東高等学校長 塩浦 健吾
- ④神奈川県立高等学校PTA連合会代表挨拶 副会長 小林 義和
- ⑤来賓挨拶 一般財団法人神奈川県安全振興会 常務理事 反町 聡之

(2) 研究発表

- ①研究発表  
テーマ「城北PTAの活動と新たな取組について」  
発表者 小田原城北工業高等学校PTA
- ②助言者講評 大井高等学校長 込山 宣子

(3) 休憩

- (4) 講演  
講師 登山家・フォトグラファー  
小松 由佳  
演題 『共に生きる』

(5) 閉会式

- ①閉会の言葉 神奈川県立高等学校PTA連合会県西地区協議会  
副会長(西湘高等学校PTA会長) 伊藤 夏紀

タイトル 城北 PTA の活動報告と新たな取組について

講演者 堀 正一

学校名 小田原城北工業高等学校 P T A

講演テーマまたは研究テーマ 「役員選出の方法の変更とアンケートからの改善」

## 1 はじめに

本校の PTA の取組を知っていただき、各校の PTA 活動の今後の活動の参考にしていただければ幸いです。

## 2 学校紹介

本校は、創立から 60 年以上の歴史と伝統を有する城北工業高校の校舎の窓からは、霊峰富士、足柄平野、箱根丹沢の山塊、穏やかな酒匂川が望めます。この雄大な自然環境のもと教育活動が展開されています。①スペシャリストの育成、②地域社会との連携・協働、③生徒の成長を支援 の城北工高の 3 つのミッション遂行ためには先生方のご指導はもちろんのこと、PTA や地域の方々からの協力も必要不可欠となっております。城北工高は、全日制は、機械、建設、電気、デザインの 4 科、定時制は、機械、電気の 2 科の設置形態のもと教育活動を展開しており、それぞれの科は専門性の高いカリキュラムで生徒たちの能力・技術力の向上に力を入れています。令和 8 年度に小田原城北工業高校と大井高校は、再編・統合をします。

## 3 城北 PTA の活動

本校 PTA は本部の他に次の委員会で組織し、活動をしています。

広報委員会、環境整備委員会、生活指導委員会、成人教育委員会、学年委員会、

## 4 PTA 役員募集の新たな取組

PTA 役員の選出は、従来合格者資料に PTA の案内及び役員希望調査を配付し、入学者手続きの日に調査票を回収していました。ところが、役員希望に○を付ける人が少ないことや、委員会ごとに偏りがあることが課題でした。次に調査票を元に委員希望者に電話をかけますが、校内の電話が

少ないことや、電話をかけても不在が多いなど非効率かつ負担が大きいことが課題でした。また、電話での依頼では充足しないので、再度の勧誘をし、最終的には入学式で長い時間をかけて再募集せざるを得なく、入学式の雰囲気壊れてしまう懸念の声が多くありました。

そうした課題の改善として、依頼方法を郵送にしました。調査票の文面には、「希望を元に選出しますが、必要な人数に満たない場合は、調査票の情報をもとに選出し、郵送にて依頼状を送付します。」と記載し、依頼状の文面には「引き受けることが難しい場合は、お電話にて PTA 担当までご連絡いただけますようお願い申し上げます。」と記載ことにしました。

この結果、役員の電話確認の負担がなくなりました。また、41 名に調査票を元に依頼状を送ったところ、5 名からはお断りの電話をもらったものの 36 名の方に引き受けていただくことができました。アンケートでも、郵送と電話どちらがよいか問うと、郵送が 73%、個別電話が 17%、わからないと」の回答が 10%と、郵送が好評でした。

その他、役員の多忙感などのアンケートを実施したことで、PTA 活動について多様な意見があることがわかり、役員募集以外にも、今後の活動の方向性の参考になるような貴重な意見がありました。今後アンケートの結果を活用し、会員が満足する PTA 活動を模索していきたいと思えます。

## 5 謝辞

今回、発表を通じて PTA 活動を見直すことができました。発表の機会をくださった関係の皆様、発表のご支援を頂いた小田原城北工業高校の先生方に感謝申し上げます。

## 助言者講評

神奈川県立大井高等学校校長 込山 宣子

小田原城北工業高等学校 PTA の皆様、活動報告と取組のご発表をありがとうございました。

皆様もご存知のとおり、小田原城北工業高校と大井高校は令和 8 年 4 月より再編統合され、新しい道を歩んでいきます。新しい高校は、小田原城北工業高校の流れをくむ工業科（機械・電気・建設・デザイン）と、大井高校の流れをくむ普通科（クリエイティブスクール）の併置校となります。二つの流れが一つの大きな流れになるといったイメージでとらえていただきたいと思います。今まで両校で取り組んできた教育活動の良いところを発展させるとともに、工業科と普通科の教育が融合してよりよい教育ができるようにと、現在、知恵を絞って開校に向けて進んでいるところです。そのような中で、今回の発表を拝聴できましたこと、また講評をさせていただけることを誠に光栄に思っております。

学校紹介におかれましては、専門学科高校の特色を生かした教育と、地域との協働を大切に育てられた教育、そしてそれらに支えられた生徒の活動が生き生きと伝わってきました。頭と体を動かして高校生活を送る生徒の様子がよくわかりました。また PTA として生徒の成長を支援するという活動もよく行われていると感じました。再編統合の打合せもあり、最近では 1 か月に 1～2 度は小田原城北工業高校にお邪魔しているのですが、生徒は元気に挨拶をしてくれます。また、先日は塗装されたパッカー車を見ることもできました。あのような大きな車体にデザインをし、色を付けるのは大変なことだったろうと思います。また、「夢をかなえる」という素敵なフレーズがデザインされたジョウホ君（小田原城北工業高校のキャラクター）T シャツなどもよく考えられてい

ました。

また、PTA の活動におかれましては、各委員会が伝統を引き継ぎながら一つひとつの活動を大切に行っていられっやることが印象的でした。

広報委員会では年 4 回の広報誌の発行ということで、学校へ足を運ぶことの楽しさが伝わってきました。環境整備委員会では、入学式のお花で花壇を作るなど、SDG s に配慮した活動をされていました。生活指導委員会では下校調査をすることで保護者の視点からの交通安全を提言できることが素晴らしいと思いました。成人教育委員会ではコロナ禍以降は年 1 回の行事となってしまうそうですが、PTA 会員同士の親睦が深まる大切な行事だと何うことができました。学年委員会ではコミュニケーションを図ることを大切に学年通信の発行や、各種説明会などの運営・受付も行うなど、積極的な活動が報告されました。

さらに、全国的な課題となっている PTA 役員募集の手法について、よく検討されていると思いました。郵送で呼びかけ、返信をいただくというスタイルでしたが、87.8%の方々が役員を引き受けてくださっているということです。更に素晴らしかったのは、課題解決に向けた動きが早く、郵送は公平ではないのではという意見があったので、公平性を配慮して、Google フォームのアンケートにしようとして話し合いを進めているということでした。

最後に再編・統合に向け、規約や私費等につきまして検討を進めていきます。また学校行事や部活動等についても生徒同士は交流を始めています。PTA 同士の交流もこれから始まると思います。これからのよりよい関係づくりになりますように手をつないでがんばっていきましょう。どうぞよろしく願いいたします。

タイトル「令和6年度(第62回)神奈川県立高等学校PTA連合会 県西地区大会」

講演者 小松 由佳

フォトグラファー・元登山家

学校名 神奈川県立小田原東高等学校PTA

講演テーマ「共に生きる」

### 1 はじめに

フォトグラファーの小松由佳です。私は、日本人女性初のK2登頂に成功し、その後風土に根ざした人間の暮らしに惹かれてフォトグラファーになりました。今日のテーマ「共に生きる」として、前半はK2登頂、後半は風土に根ざした人間の暮らし、シリア難民についてお話をいたします。

### 2 K2登頂

私の大学進学のための目的は、登山をすることでした。高校生の時から登山に目覚め、東海大学で山岳部に入部しました。後日知ったことですが、同部は当時女子の入部が禁じられていましたが、結果として、山岳部で登山中心の学生生活を楽しむことができました。さて、K2との出会いですが、東海大学山岳部創部50年記念事業として、2006年に登頂の機会を得ることができました。登頂に成功するまでには、沢山の困難と犠牲が伴いました。登頂するにはまず麓まで行き、そこからは一步一步自力で山頂を目指して歩いて行きます。

ヒマラヤのK2は標高8,611mあり、富士山の標高3,776mの2倍強あります。空気は薄く、酸素ボンベを携行しなければなりません。体を低酸素に慣らすために、相当の日数を掛けて登頂します。下山までに必要な食糧だけでもかなりの重量になりますが、酸素ボンベなど登頂に必要な資材も人力で運ばなければなりません。登山隊では、一頭のヤギを連れて行きました。私はそのヤギに「ユキ」とちゃんと名付け、可愛がりましたが、ユキちゃんを連れていく目的は、運搬手段ではなくユキちゃんの命が必要だったのです。冷蔵設備などない登山隊に、新鮮な食糧を運搬するには限りがあります。登山隊が生きて下山するには、その命が必要でした。登山隊一人一人の命だけでなく、多くの困難や犠牲の上に成功することが出来まし

た。

### 3 シリア難民

2011年以降、シリアでは内戦が続いています。空爆等による死者50万人、国内外の避難民1,220万人となり、当時の国民の半数以上に被害が及んでいます。私の夫ラドワンは、2012年に徴兵され、シリア政府軍の一兵士となりました。民主化運動に加担した罪で指名手配になった義兄サーメルは逮捕され、以来12年間行方不明で生死も分かりません。同じく指名手配となった義兄ジャマールはシリアを脱出しました。夫は、義母の懇願で脱走兵となり国外に脱出します。義母は、「①政府軍にいればシリア国内の民主化運動を弾圧しなければならない、②国外に逃亡すれば生きられる。生きていれば、いつかきっと会える。」と夫を説得しました。その後難民となった夫と再会し、2児を授かりました。

夫の故郷であるパルミラも、激しい空爆を受けて大部分が破壊され、家族のほとんどがトルコに逃れて難民となりました。難民となった人々は、いつか故郷に帰ることができる日を夢見て、異郷での生活再建を試みています。当たり前のように存在していたシリアでの日常が、いかに短期間に失われていったかを経験した夫は、平和な状態を維持する努力なくして、平和は維持できないと話しています。国や民族という垣根を超えた取組・価値観の共有が求められています。シリアの人々がかつて手にしていた満たされた日常に、やがて彼らが戻っていくことを願って、私は彼らの姿を写真家として伝えていきます。

# 県央地区大会

主催 神奈川県立高等学校 PTA 連合会県央地区協議会  
後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会  
神奈川県立高等学校県央地区校長会

1 日 時 令和6年10月9日(土) 13:00~16:00

2 会 場 やまと芸術文化ホール サブホール

3 参加者人数 180名

4 日 程(次第)

## (1) 開会式

開会のことば	綾瀬高校PTA会長	清野 剛
地区会長挨拶	大和西高校PTA会長	西森 憲一
高P連県央地区理事校校長挨拶	大和西高校校長	篠田 聡
高P連挨拶	高P連会長	内田 裕美
来賓挨拶	安全振興会常務理事	反町 聡之

## (2) 研究発表

### ①研究発表Ⅰ 大和東高校PTA

発表者	大和東高校PTA	
助言者	有馬高校副校長	河野 清隆
質疑応答(5分) 助言(5分)		

### ②研究発表Ⅱ 有馬高校PTA

発表者	有馬高校PTA	
助言者	大和東高校副校長	三橋 良明
質疑応答(5分) 助言(5分)		

(3) 休 憩 10分

## (4) 講 演

演 題 『癒しの音色ソウルサウンドライアーとおはなし』

講 師 栗原 康子 氏

講師紹介 大和西高校副会長 横野 文子・中村 和美

質疑応答(5分)

謝辞・花束贈呈 大和西高校PTA会長 西森 憲一

## (5) 閉会式

①閉会のことば	綾瀬高校PTA会長	清野 剛
---------	-----------	------

発表者 神奈川県立大和東高等学校 P T A

『持続可能な活動に向けた P T A 活動の見直し ～豚汁提供を通して～』

豚汁について

豚汁提供は大和東高校で 10 年以上前から続いている P T A 活動の 1 つです。12 月のスポーツ大会の日に豚汁を提供すること



で、寒い時期に手料理を振る舞い、直接生徒と触れ合うことで P T A 活動への理解を深める取り組みです。令和 2 年度～令和 4 年度までの 3 年間はコロナの影響により中断を余儀なくされましたが、昨年度から再開することができました。丸 3 年中断し、豚汁提供を経験した P T A の方もおらず、現 P T A 役員からすると新たな取り組みが始まったように感じ、負担感を減らすために実施方法を見直すことにしました。次に見直し内容をまとめます。

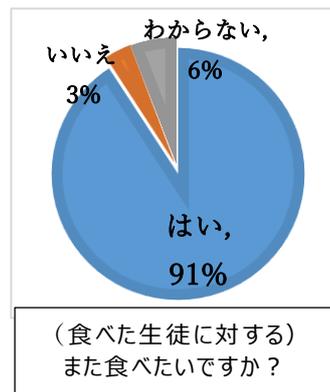
この活動の目的は「生徒と直接触れ合い、理解を深める」ことであるため、見直しをする上で、それ以外の部分での負担軽減について考えました。一番の負担は大量の食材の下準備にあると考え、その手間を省く方法としてカット野菜を利用することにしました。このことで、前日や当日の朝に行っていた下準備が不要になりました

コロナ前		コロナ後	
豚小間肉	25kg	事前炒め廃止	味噌汁の具で代用 ※大根、ごぼう、人参、 こんにゃく入
大根	35 本		
ごぼう	42 袋	それぞれカット 野菜にて代用	
人参	70 本		
こんにゃく	56 枚		
里芋	3 袋(500g)		
油揚げ	63 袋		
絹豆腐	28 個		
長ネギ	21 本		

※大鍋 8 個分

た。また、生ごみ等が出なくなったことで、その処理もなくなり、さらなる負担軽減につながりました。3 年ぶりの実施であったため、生徒も豚汁

の存在を知らず、生徒に実施したアンケートでは「豚汁提供を知らなかった」という生徒が 3 割程度いました。「食べた」と回答した生徒の 9 割が「また食べたい」と回答しており、参加した生徒は満足した様子でした。実施した我々も直接生徒と触れ合い、喜ぶ姿を見ることができました。負担を削減しつつも、生徒も P T A としても満足度が高い結果を得ることができました。



まとめ

生徒の活動を支えるために P T A 役員による活動は必要不可欠ですが、負担が多く、担い手が少ない状況では継続は難しいと思います。今回はコロナの影響により活動内容を見直すきっかけになりましたが、P T A 役員の任期は短く、多くの活動が踏襲して行われる傾向があるため、自主的に見直ししていく必要があると感じました。P T A 活動が持続可能なものになるよう、活動と負担の均衡を意識して活動していくことが重要であると感じました。

発表者 神奈川県立有馬高等学校 PTA

## 『マナーアップ活動参加を通して見えてきた安全な通学の実現に向けて必要なこと』

### 交通安全の活動について

本大会の発表に向けた活動は、5月のPTA総会後に各委員会から数名ずつ選出し、12名のメンバー集うワーキンググループ（以下、WG）を立ち上げたところからスタートしました。はじめに、6月上旬と下旬に打ち合わせを2回実施し、発表までの4か月間どのような活動に取り組むのか意見交換を行いました。登校マナーに対する地域の方々からの声、先生方からのご意見と、WGメンバーがそれぞれ把握している子ども達の通学状況、持ち合わせている交通ルールに関する知識を照らし合わせて、試行錯誤した結果、3つの活動を展開していくことが決まりました。

- ・ 最寄駅から高校の通学路に教員や風紀委員が立ち、通学する生徒に声掛けをするマナーアップ活動への参加
- ・ Web アンケート実施による交通安全に関する知識の再確認と習得
- ・ ヘルメット着用コンテストへの応募の呼びかけ



3つの活動がすべて終了しているわけではないため進捗状況の報告を含みますが、活動から見えてきた課題や改善に向けた提案についてお伝えします。

### 改善に向けた提言（まとめ）

#### 内的な要因について

- ・ 交通ルールを知る
- ・ 交通ルールを理解する
- ・ 交通ルールを守る

#### 活動1 マナーアップ活動への参加

マナーアップ活動時の気づきを保護者と教員に共有し、生徒だけでなく3者の意識改善に繋げる。

#### 活動2 WEBアンケートの実施

マナーアップ活動で把握した課題の改善に向けた質問も加えて今年度中に実施する。

#### 活動3 ヘルメット着用コンテスト応募

美術部に加えて写真部にも応募を呼び掛ける。

#### 外的な要因について

- ・ 歩行者信号の長さ
- ・ ミラーの改善
- ・ ポールの色の変更
- ・ 停止線の塗装
- ・ 自動車の安全運転
- ・ 安全運転を促す掲示物の設置

生徒が渡り切れる信号の時間やミラーの改善、自動車のマナーなど、外的要因も大きいので、様々な地域のパートナーとどのように連携し、改善できるか検討していきたい。

生徒の交通安全は生徒に行動改善を呼び掛けるだけでは実現し得ないため、今後は、保護者・学校・地域と情報共有や連携活動も並行して進めていきたいと考えております。

## 講演

講演者 栗原 康子氏（ソウルサウンドライアー奏者 声優・ナレーター）

### 『癒しの音色ソウルサウンドライアーとおはなし』

#### 講師プロフィール

栗原康子

ソウルサウンドライアー奏者

声優・ナレーター

東京アナウンス学院、劇団薔薇座 等を経て、舞台女優から 声優・ナレーターへ。

合唱、ミュージカル、ゴスペルを経て、2017年 ドイツの ソウルサウンドライアーと出会い、制作およびライブ活動始める。ライアーの不思議な力に魅了される。ライアーの即興演奏、朗読をしながらライアーを奏でたり、口琴、メディスンドラムなど倍音楽器演奏。ライアーの波動でのヒーリングをする。

#### 現在の活動

- ☆ CM 等で声優・ナレーターとして
- ☆ 小学校・児童館・学童等で子供や親子向けの読み聞かせ、講師、ライアー演奏
- ☆ 都内、神奈川県などで毎月数カ所ライブ活動
- ☆ ライアーによるヒーリング、音浴会

#### 本日の講演について

ライアーは心と体と魂を癒す楽器として、1926年ドイツで誕生しました。その原型である豎琴の起源は古代ギリシャに遡り、精神世界・芸術・医療・教育において非常に重要な役割を担っていたと言われています。ドイツで『静けさを聴く楽器』として発展した現代のライアーは、音の振動による効果が注目され、教育現場、医療施設などで取り入れられています。今回奏でるライアーは、432Hz。テーマは、「本当の自分と繋がる」。これからの人生に於いて、自分が何をやっていきたいのか 何が本当に好きなのか そんな気づきのきっかけになったら幸いです。



# 相模原地区大会

主催 神奈川県立高等学校PTA联合会相模原地区協議会  
後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

- 1 日 時 令和6年10月19日(土) 13:00~16:15
- 2 会 場 相模原南市民ホール
- 3 参加者数 172名
- 4 日 程 (次第)
  - (1) 開 会 式
    - ①開会の言葉
    - ②主催者挨拶
    - ③地区学校長会議会長挨拶
    - ④来賓紹介及び挨拶
  - (2) 表 彰  
PTA活動部門、広報誌部門、生徒活動部門、特別部門
  - (3) 休 憩
  - (4) 研究発表
    - ①研究発表Ⅰ  
テーマ「新校とともに新たな活動を育もう ~新時代への挑戦~」  
発 表 相模原城山高等学校
    - ②研究発表Ⅱ  
テーマ「つなげる、つながる、つないでいくPTA」  
発 表 橋本高等学校
    - ③質疑応答
    - ④助言者講評
  - (5) 休 憩
  - (6) 講 演  
講 師 NPO法人 地球のステージ代表理事  
桑山 紀彦 氏  
演 題 「地球のステージ ~今、私たちにできること」  
質疑応答
  - (7) 閉 会 式
    - ①閉会の言葉

タイトル 「研究発表 I」

講演者 岩村・須賀・鈴木・青木・林・若山・山室・作地



学校名 相模原城山高等学校

講演テーマまたは研究テーマ 「新校とともに新たな活動を育もう～新時代への挑戦～」

## 1 はじめに

私たち相模原城山高等学校PTAは再編統合前の大切な活動を引き続き継承しつつ、新たな取組みにも挑戦することをテーマに発表いたします。

## 2 学校紹介

県立高校改革実施計画（Ⅱ期）に基づき、県立城山高等学校と県立相模原総合高等学校を再編統合し、新たに単位制普通科の「県立相模原城山高等学校」として、令和5（2023）年4月に開校しました。



県立高校指定校事業（令和4年度指定）において、「ICT利活用授業研究推進校」「プログラミング教育研究推進校」の指定を受けており、充実したICT環境に加えて、情報教育に関する専門的な選択科目を活用しながら、情報活用能力の伸長を図っています。また令和6年1月に文部科学省よりDXハイスクールに本校が採択されました。デジタル分野における人材育成の充実を図るべく、様々な取組みを推進しています。



次に新校開校に伴いリニューアルしたものについてご紹介いたします。

### ○校章

相模原城山の頭文字SSを二重に用い、隣接する緑濃き城山と津久井湖を図案化したものです。豊かな自然環境に囲まれながら友愛と地域の絆をつなぎ、右上に広がる空間に向けて大いなる飛躍の可能性を表現しています。

### ○制服

従来の伝統を大切にしながら、より現代的で機能性に優れたデザインになっており、女子の制服はスカートの他に、スラックス・キュロットスカートを選ぶこともできます。



冬服



夏服

### ○校歌

校歌制作にあたり、生徒・保護者・同窓会にアンケートを実施しました。作曲・作詞を元城山高等学校の教諭に依頼し、入学式において有志の生徒・教員の歌唱で完成披露しました。

○校舎をオレンジに

新校開校に合わせて、校舎に明るいオレンジ色を付けてイメージを一新しました。



### 3 PTA紹介

本校のPTAは5つの委員会（安心・安全委員会、環境ふれあい委員会、広報委員会、成人委員会、年次委員会）と本部役員で構成されています。

委員の選出方法は、立候補で募りますが、定員に満たない場合は抽選方式を採用して、各委員会定員7名（各年次ごと）を選出しています。

○ 各委員会の紹介

**安心・安全委員会**

もっと安心できる生活環境づくり

交通安全指導  
事故の危険性を  
高め！

社会環境健全化  
事件の可能性を  
減せ！

・自転車点検

年2回春と秋にステッカーが貼られているかどうかを中心に点検を行っています。

・交通安全対策会議に出席した際、良い事例を持ち帰り、学校側と話し合い実現しています。



自転車ステッカー  
令和6年度よりQR  
コード付きに変更  
→→→→



携帯用にSAFETY CARDの配付

・文化祭では自転車シミュレーターを実施するとともに、参加した生徒に協力してもらい登下校時のハザードマップを作成しています。

・新たな標語、横断幕作成



**環境ふれあい委員会**

人と自然のふれあう企画の実現

生徒・会員との  
ふれあい活動  
(地域貢献デー等)

心を癒す花壇整備  
相模原城山校内花壇  
ふれあい花壇

・校内花壇の整備



学校のご協力により季節の花を植えやすい、綺麗な花壇に生まれ変わりました。

・ふれあい花壇の整備

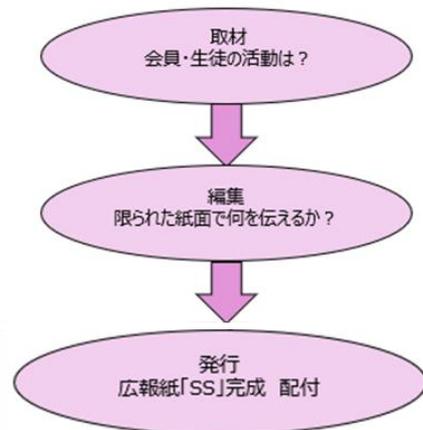
平成17年、当時の学校目標の「ボランティア活動」と「地域交流」の一環である「ふれあい」をテーマに、「ふれあい花壇」として、他校の生徒、地域のロータリークラブや行政の協力のもと、設置されました。



先生方も一緒に色とりどりの200株の花植えを行いました。地域貢献デーには1年次の生徒と花植えを行います。

広報委員会

会報「SS」(エスエス) を媒体とした会員への情報提供

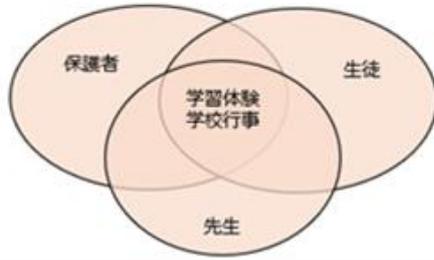


広報紙「SS (エスエス)」

- ・新校開校に伴い、広報紙の名称を「湖城」から「SS (エスエス)」に変更しました。
- ・年2回広報紙の発行  
学校行事、PTA各委員会活動の取材し、新しくなった学校の魅力をたくさんの写真とともに掲載しています。

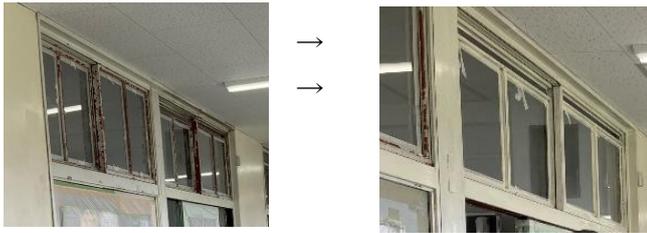
## 成人委員会

会員の心豊かな学習機会の企画・運営



### ・ペンキ塗り

「生徒に綺麗な環境で学校生活を過ごしてもらいたい。」と平成12年頃、当時の校長先生の発案で教員有志による活動から始まりました。のちにPTA事業として定着することとなります。

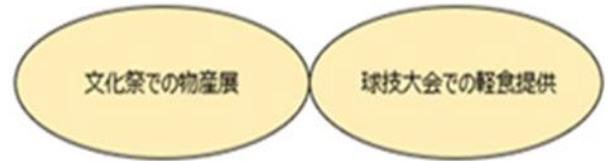


今年度は、9月28日（土）に実施しました。前日準備への参加者を含めると、生徒、保護者、同窓会や教職員を含め、総勢100名を超えました。教室棟5階のワンフロア、教室周りのペンキ塗りを行いました。



## 年次委員会

年次行事に特化



### ・文化祭での物産展

今年度は前例にとらわれることなく、品揃えと数を充実させ、生徒はもちろんのこと、来校者のみなさまにも大好評でした。

開校初年度から3年次生徒による模擬店においてキャッシュレス決済を導入しました。

今年度から新たにPTAの物産展においても導入し、完全キャッシュレスとなりました。



### ・球技大会軽食提供

コロナ禍前は1000人分の豚汁を提供するにあたり、前日、担当委員が食材を持ち帰り、仕込み準備をして当日調理し、提供しておりました。しかし衛生面等が課題となり、昨年度は地元企業（せき麺）さんの協力を得て、ケータリングサービスに切り替えました。

#### 4 まとめ

時代の流れとともに、生徒、保護者、教職員、それぞれの立場で考えに大きな変化が生じていますが、「何のためのPTA活動なのか？」

その答えは、「学校に通う生徒のため！」

「今、何が必要なのか？」「それはなぜ必要なのか？」継承すべきものは継続し、前例にとらわれず事業として見直すべきものは見直す、新たな取組みにもチャレンジしていきたい！保護者の考えを押し付けるのではなく、生徒が望むことを可能な限り実現してあげたい。他校ではすでに実施されている「生徒会とPTAとの懇談会」、相模原城山高校では今年度初めて実施する予定です。

「生徒が望むことは何なのか？」生徒の想いを汲み取り、教職員に大きな負担をかけずにできることをやる！

私たち相模原城山高校PTAは、そのような想いを胸にこれからも挑戦し続けていきます！

## 研究発表Ⅱ

発表者 神奈川県立橋本高等学校 P T A 本部

学校名 神奈川県立橋本高等学校

テーマ 「つなげる つながる つないでいく P T A」



### 1. はじめに

橋本高等学校は1978年（昭和53年）に開校し、2024年（令和6年）に創立46年を迎えました。「誇れる自分に！Be proud of yourself」をかかげています。チャレンジ 無限に広がる未来を切り開く人間、グローバル 国際社会の一員として活躍できる人間、インディペンデンス 自発的に考えて行動できる人間、インクルーシブ 多様な価値観を持った人々と共創できる人間の育成をしています。

本校 P T A は学校との連携、地域社会との連携を意識しながら活動を行っております。

### 2. 本校 P T A の紹介

本校 P T A は P T A 本部と4つの委員会からなっています。学校として「できる人が できる時に できる事を」を基本方針として活動しています。

【広報委員会】年2回の広報誌発行、文化祭でのスライドショーなどの企画運営



【成人委員会】 P T A 会員同士が集うバスツアーやワークショップ、文化祭での出店などの企画運営



【学年委員会】イベントのサポートや文化祭での橋本高校オリジナルグッズの販売、卒業記念品の選定などの企画運営



【交通安全委員会】年2回の自転車点検や文化祭での自転車シミュレーターなどの企画運営



【P T A 本部】学校のイベントのサポート、文化祭での出店等の企画運営、武道大会でのこて麺提供

年に2回生徒会との交流会を行い、生徒達の思いをヒアリングし、前例の無いことでも学校側と交渉し実現させるなど、生徒達の思いを取り入れた活動にしています。

### 3. つなげる つながる つないでいく PTA



約4年前新型コロナウイルス流行に伴い、PTA活動ができなくなりました。全てが中止となり、何も思い出のないまま高校生活を終える子ども達を目の当たりにし、親として何かできないだろうか。子ども達の思いを代弁し、コロナで途切れてしまった活動を新たに始め、形にしたのが打ち上げ花火でした。今年はその想いをつないで3年目。打ち上げ花火は、私たちのPTA活動の象徴です。「学校とつながる」「PTA会員とつながる」「委員会のみなさんとつながる」「地域のみなさんとつながる」今後もさまざまなつながりを大切に活動していきたいと考えています。

## 「講演」

NPO法人 地球のステージ代表理事 桑山 紀彦 氏

講演テーマ「地球のステージ ～今、私たちにできること」

### 1 はじめに

認定NPO法人「地球のステージ」は2002に設立され、現在5カ国で活動を展開している団体です。支援事業と公演事業の2つの事業を行っています。支援事業では、現地のニーズや声に応え、医療・心のケア・教育・災害復興の観点から、支援を行います。また、公演事業では、支援の現場で出会う様々な困難の中で、底抜けの明るさや生きる勇気を持つ、人間の底力を伝えています。

### 2 講演内容

地球のステージ代表で精神科の医師でもある桑山先生のギター演奏から始まりました。

活動されている地域の映像と共に自ら作詞作曲された曲を演奏され、いま世界では何が起きているのかを紹介して頂きました。

最初は、イスラエルとの紛争地域であるガザ地区の現状とそこで避難生活をおくる人々の状況を現地協力者と地球のステージスタッフが捉えた映像が流れ、桑山先生の言葉が続きます。

砲弾の直撃により破壊された建物と瓦礫の山、水や食料を求める人々、被災した人々を治療する医療関係者、桑山先生も医師の一人として治療に加わります。そんな戦火の中でも、地球のステージスタッフが現地の子供たちの為に教育活動とこころのケアを重点的に行ない、絵を描いたり色を塗ったり、いわば幼児教育と同じことから様々な展開がされています。最初は戦火の中「色なんて付けられない、僕たちの街は全てが灰色だ。」と言っていた子供たちが徐々にこころを開いてグレーの下書きにカラフルな色を付ける様になり、時

より笑顔も見られる様になって来ます。しかし、街は瓦礫で溢れかえり無残な状況でしかありません。一人の青年ジャーナリスト、ムハンマドさんは13歳のころから桑山先生たち「地球のステージ」の支援を受けて大学を卒業し、パレスチナの状況を世界に向けて発信する為に現地で危険を顧みず取材活動をされています。戦禍で電力も途絶え、太陽光パネルを使った充電器でスマートフォンを充電しながら映像を発信し、捉えた映像は生まれ育った彼でしか出来ないと思える臨場感に溢れるもので、多くの報道機関に取り上げられました。

ムハンマドさんが言うには「最も恐れていることは世界中の方がこの事実を忘れてしまう事、見えなくなってしまうこと。」だと訴えていました。

続いて、ロシアとの紛争が続いているウクライナの状況を紹介されました。ウクライナは元々広大な農地が広がる田園地帯で農業を中心とした国です。無限に続く小麦畑、ひまわり畑の映像は目を見張るものがありました。ひまわりはウクライナの人々に取って重要な油を採取するための大切な植物資源です。ウクライナの状況は戦闘の激しい地域では、ガザ地区同様に瓦礫の山と被弾した戦車、砲弾が飛び交う街は見るに耐えない状況です。しかし、広い国土を持つ同国は戦闘地域から離れると生活環境が保たれている地域があることも事実です。しかし、人々のこころは疲弊し、子どもたちからは笑顔が消え、いつ戦争に巻き込まれるか分からない不安な面持ちで暮らしています。「地球のステージ」スタッフは地域住民と子どもたちのこころのケアを重点に活動をされています。

最後に桑山氏のオリジナル曲演奏と共に、日本各地の映像が映し出され、平和とは何か、世界で起きている悲しい現実から目をそむけず、普段何気なく生活出来ることを感謝して過ごして欲しいとメッセージをいただきました。

迫力の映像、温かみを感じる詩とギターの音色は、目の当たりにした現実がより深い感動を得て、世界情勢について考えさせられる貴重な機会となりました。

# ◆参考資料◆

---

高P連

教育委員会

## 高P連事業概要

### 令和6年度 高P連組織概要

令和6年12月現在

#### 1 名称と事務所所在地

名称 神奈川県立高等学校PTA連合会  
 所在地 〒231-0023 横浜市中区山下町2番地  
 産業貿易センタービル9F  
 TEL 045-641-0337  
 FAX 045-641-0338  
 E-mail : kana.koupren@kanagawa-koupren.org  
 高P連HP: <https://kanagawa-koupren.jp>

#### 2 組織構成 (10地区)

地区	各校PTA			令和6年度会員数	令和6年度 地区協議会会長校
	全日制	定時制 通信制	合計		
横浜北	17		17	16,623	神奈川総合高等学校
横浜中	15	1	16	13,396	横浜桜陽高等学校
横浜南	7	1	8	6,093	横浜氷取沢高等学校
川崎	14	(1)	14 (1)	12,101	麻生総合高等学校
横三	9	1	10	6,526	逗子葉山高等学校
湘鎌	14	2	16	13,196	茅ヶ崎北陵高等学校
平秦	13	1 (1)	14 (1)	10,701	平塚農商高等学校
県西	8	1 (1)	9 (1)	5,219	小田原東高等学校
県央	17	2	19	15,812	大和西高等学校
相模原	13	(1)	13 (1)	11,505	神奈川総合産業高等学校
合計	127	9 (4)	136 (4)	111,172	

※定時制・通信制の欄にある( )の数は全定同一PTA組織の学校数。

#### 3 役員と理事

1)役員 : 会長 (1) 副会長 (4) 会計 (2) 総務 (3) 監事 (2)

2)理事 : 地区協議会会長(10)

#### 4 賛助会員(団体):50音順

株式会社トキワヤ 全力丸株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 東京工芸大学  
 横浜薬科大学

#### 5 賛助会員(個人)

元役員:1名

## 令和6年度 事業概要

- 1 定期総会  
令和6年6月15日（土）  
会場：パシフィコ横浜会議センター ⇒ 会場開催
  
- 2 大会  
◇ 研修大会 7月28日（日）  
会場：ひらしん平塚文化芸術ホール ⇒ 会場開催  
  
◇ 第62回県大会 12月21日（土）  
会場：寒川町民センター ⇒ 会場参加、オンライン併用開催  
◇ 地区大会 ⇒ 10地区で開催  
◇ 専門教育部会大会  
  
(その他大会)  
◇ 第70回関東地区高P連大会千葉大会 7月23日（火）～24日（水）  
会場：幕張メッセ ⇒ 会場開催  
  
◇ 第73回全国高P連大会茨城大会 8月22日（木）～23日（金）  
会場：アダストリア水戸アリーナ 他 ⇒ 会場参加、オンライン併用開催
  
- 3 広報事業  
◇ 会報発行 第133号（令和7年2月発行予定）  
◇ ホームページの運営  
◇ 第48回広報紙コンクール表彰式 12月21日（土）  
第8回広報紙「表紙」コンクール表彰式  
会場：寒川町民センター
  
- 4 健全育成事業  
◇ 講演会  
(第1回) 11月24日（日）
  
- 5 交通安全事業  
◇ 交通安全対策特別委員会・交通安全運動連絡会 (第1回) 8月3日（土）  
(第2回) 令和7年1月31日（金）  
◇ 地区交通安全大会 ⇒ 10地区（会場やオンラインでの開催等）  
◇ 県立高等学校等交通安全教育推進協議会との連携及び事業提携
  
- 6 その他  
◇ 役員会 ①月例 ②臨時  
◇ 理事会 ①月例 ②臨時  
◇ 委員会 随時  
◇ 理事校・交通担当校予定者説明会 令和7年5月下旬予定

## 令和6年度 地区大会一覧表

主催 神奈川県立高等学校PTA連合会地区協議会  
後援 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

地区 担当校	日時 参加人数	会場	実施内容
横浜北 神奈川総合	10月14日(土) 12:45～15:30	神奈川公会堂	講演:『心理的安全性のある組織(チーム)とは…』 講師:COACH F 代表 中村 ふじ氏 発表:鶴見総合高等学校PTA 発表:神奈川工業高等学校PTA
横浜中 横浜桜陽	10月19日(土) 9:30～12:30 158名	男女共同参画センター 横浜	講演:『現代における子供たちとのコミュニケーションの方法や子育てのヒント』 講師:神奈川工科大学 教授 小池 あゆみ氏 発表:旭高等学校PTA 発表:商工高等学校PTA
横浜南 横浜氷取沢	10月12日(土) 13:30～16:00 73名	あーすぷらざ プラザホール	講演:『戦わないコミュニケーション ～思春期の子育てで大切な3つのポイント～』 講師:山崎 洋実氏 発表:永谷高等学校PTA
川崎 麻生総合	10月24日(木) 13:30～16:00 162名	川崎市総合福祉センター (エポックなかはら)	講演:『少年たちを陥れるインターネットの罠 ～わが子を救うためにはどうすればよいのか～』 講師:弁護士 田中 栄樹氏 発表:川崎工科高等学校PTA 発表:麻生高等学校PTA
横三 逗子葉山	10月17日(木) 13:30～16:40 106名	横須賀市文化会館 中ホール	講演:『ハモる地域や組織とは? ～ハモニケーションから学ぶチームビルディング～』 講師:アカペラグループINSPi リーダー/愛媛大学社会共創学部客員研究員 杉田 篤史氏 発表:海洋科学高等学校PTA 発表:横須賀大津高等学校PTA
湘鎌 茅ヶ崎北陵	10月16日(水) 13:00～16:00 135名	茅ヶ崎市民文化会館 小ホール	講演:『発達障害の理解と行動支援』 講師:横浜国立大学教育学部 准教授 神山 努氏 発表:深沢高等学校PTA 発表:湘南高等学校PTA
平秦 平塚農商	10月1日(火) 13:30～17:00 316名	ひらしん平塚文化芸術ホール 大ホール	講演:『やる気を引き出す言葉かけ ～ペップトーク～』 講師:日本ペップトーク普及協会 松島 斉氏 発表:平塚工科高等学校PTA 発表:大磯高等学校PTA
県西 小田原東	10月5日(土) 12:30～15:30 168名	南足柄市文化会館 大ホール	講演:『共に生きる』 講師:登山家・フォトグラファー 小松 由佳氏 発表:小田原城北工業高等学校PTA
県央 大和西	10月9日(水) 13:00～16:00 180名	やまと芸術文化ホール サブホール	講演:『癒しの音色ソウルサウンドライアーとおはなし』 講師:ソウルサウンドライアー奏者 声優・ナレーター 栗原 康子氏 発表:大和東高等学校PTA 発表:有馬高等学校PTA
相模原 神奈川総合 産業	10月19日(土) 13:00～16:15 172名	相模原南市民ホール	講演:『地球のステージ ～今、私たちにできること～』 講師:NPO法人 地球のステージ 代表理事 桑山 紀彦氏 発表:相模原城山高等学校PTA 発表:橋本高等学校PTA

## 令和6年度 専門教育部会大会

専門 横須賀南	11月9日(日) 9:15～11:30 51名	神奈川県立 神奈川工業高等学校	テーマ:『スペシャリストの卵たち ～触れてみよう、専門高校～』 内容:①開会の言葉 ②主管校会長、校長あいさつ ③来賓あいさつ ④スケジュール紹介 ⑤活動紹介 ⑥体験ブースの紹介 ⑦STEAM EXPO 2024会場体験
------------	-------------------------------	--------------------	---

## 令和6年度 地区交通安全大会 一覧表

主催 神奈川県教育委員会  
 県立高等学校等交通安全教育推進協議会  
 神奈川県立高等学校PTA連合会地区協議会  
 協賛 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会  
 後援 神奈川県立学校長会

(実施内容：大会報告書より掲載)

地区 担当校	日時 参加者数	会場・形式	実施内容
横浜北 城郷	11月22日(金) から 一定期間配信	城郷高等学校 体育館 (オンライン形式)	テーマ：『語り合おう、私達の交通安全』 高校生：岸根高校演劇部による交通安全啓発劇、鶴見高校の取り組み PTA：城郷高校PTA
横浜中 上矢部	11月14日(木) 14:00～16:00  115名	男女共同参画センター 横浜 フォーラム	テーマ：『高校生が考える交通安全対策』 高校生：参加生徒によるグループディスカッション 「歩きスマホ・イヤホンについて」「登下校中の公共交通機関の利用について」 「軽車両の交通意識、マナーについて」 「小中学生が高校生になってから大事にしてほしい交通マナーについて」
横浜南 柏陽	11月22日(金) 13:30～15:30  86名	地球市民かながわプラザ プラザホール	テーマ：『カドは 過度に 注意しろ』 高校生：釜利谷高校、横浜緑ヶ丘高校、横浜国際高校、柏陽高校によるスライド発表
川崎 向の岡工業	11月13日(水) 13:20～16:00  213名	川崎市総合福祉センター (エポックなかはら)	テーマ：『止まらぬスピード 止(とど)まる命』 高校生：生田東高校、川崎高校、川崎北高校、新城高校、大師高校、多摩高校 向の岡工業高校による発表 PTA：多摩高校PTA、向の岡工業高校PTA
横三 追浜	11月12日(火) 14:00～16:00  105名	横須賀市はまゆう会館	テーマ：『ヘルメット 守る頭と その未来』 高校生：各校の発表、「スタートかながわ」推進モデル校活動報告
湘鎌 鎌倉	11月21日(木) 13:30～16:00  227名	茅ヶ崎市民文化会館 小ホール	テーマ：『一本の道 たくさんの命』 高校生：湘南台高校、茅ヶ崎西浜高校、鎌倉高校による発表
平秦 秦野総合	11月20日(水) 13:00～16:00  195名	平塚市中央公民館	テーマ：『ルールを守って命を守ろう！ ～永遠の無事故をめざして！～』 高校生：平塚秦野地区県立高等学校13校交通安全委員会による発表 PTA：伊勢原高校PTA交通安全委員会
県西 西湘	11月14日(木) 13:00～15:45  82名	南足柄市文化会館 小ホール	テーマ：『まあいいか その気の緩みが命取り』 高校生：足柄高校、大井高校、小田原高校、小田原城北工業高校、山北高校、 吉田島高校による発表 PTA：地区内8校 PTA交通安全担当者より活動報告
県央 綾瀬	11月11日(月) 13:30～16:00  162名	海老名市文化会館	テーマ：『「ただいま」を今日も明日も明後日も』 高校生：厚木高校、愛川高校、厚木西高校、大和高校、厚木北高校、海老名高校 厚木王子高校、中央農業高校、綾瀬西高校、座間高校による発表 PTA：有馬高校PTA
相模原 津久井	11月15日(金) 14:00～16:30  128名	杜のホールはしもと	テーマ：『命より大切なものってありますか？ ～私には夢がある～』 高校生：津久井高校、麻溝台高校、相模原中等教育学校による発表 PTA：津久井高校PTA交通安全推進委員会

## 令和6年度 高P連交通安全対策組織図

交通安全運動連絡会	
構 成	(高P連) 会長・担当副会長・健全育成委員会委員長・事務局長 (学校長会議) 県立高等学校等交通安全教育推進協議会会長・副会長・会計・*委員 *委員は原則高P連交通担当校代表 (安全振興会) 理事長・担当常務理事・事務局長 (校長会) 会長 (教育委員会) 保健体育課交通安全担当
活 動 内 容	交通安全運動全般の連絡会・安全振興会からの補助金の用途 各種情報交換・活動の評価

■地区(P)

高P連地区交通安全対策会議 (県下10地区)	
構 成	地区交通安全対策代表者 (地区会長・地区交通安全教育実行委員会委員長) 各校PTAから1名の交通安全対策担当者
活 動 内 容	地区交通安全活動の検討・実践 (地区交通安全大会等) 各校PTAの情報交換

□地区(T)

交通安全教育実行委員会 (各学校の交通安全担当教職員の組織)  地区交通安全大会の指導
--

地域との連携 所轄の警察・交通安全協会・各組織
----------------------------

■学校(P)

各校PTA交通安全の組織 (学校ごと)	
構 成	各校でPTAの交通安全委員会組織 交通安全活動の担当者
活 動 内 容	各校の交通安全活動の検討・実践

□学校(T)

交通安全教育担当教員 生徒支援グループ PTA担当の教員
------------------------------------

地域との連携 所轄の警察・交通安全協会・自治会・他校PTA・各種組織
---------------------------------------

# 県大会講師一覧

敬称略

年度	氏名	職名	演題
平成3	菅原やすのり	都市計画家・歌手	地球に生きる
4	寺田文行	早稲田大学教授	国際化、情報社会に生きるための親の役割と子の生き方
5	内藤健三	大和定住促進センター	外国籍県民と私たち - 心優しく寛大な国際人を目指して-
6	奥村晋	県青少年問題協議委員会	変動する社会の中で、子どもたちとともにどう生きるか
7	小林完吾	アナウンサー	今 親として… 大人として…
8	奥平健一	せりがや病院院長	若者の薬物乱用
9	吉村恭二	横浜YMCA総主事	「今問い直す私たちのあり方」 - いきぬく力と共感する心をはぐくむために-
10	尾木直樹	教育評論家	子どもの心、大人の愛 - アイデンティティの確立求める現代の青年-
11	宇井治郎	東京純心女子大学教授	最近の青少年の傾向と家庭の役割
12	景山秀人	弁護士	子供の人権と子育てや教育
13	汐見稔幸	東京大学大学院助教授	現代の若者の夢と不安をめぐる
14	諸川春樹	多摩美術大学教授	絵画から読みとる創造と発見
15	鈴木共子	造形作家	息子の命、未来につなぐ!
16	町沢静夫	医師	現代青年の心の動き ～子どもをめぐる環境～
17	安藤由紀	PEACE暴力トレーニングセンター代表	子どもと同じ目線に立って
18	朴慶南	作家	私以上でもなく、私以下でもない私
19	藤井輝明	鳥取大学大学院教授	今を生きる
20	広瀬久美子	元NHKエグゼクティブアナウンサー	「天使のことば」～生きた言葉づかい～
21	池田香代子	作家・翻訳家	「100人の村、あなたもここに生きています」
22	鎌田敏	こころ元気研究所所長	「こころ元気に、今日から、ここから」
23	白鳥稔	元県教育庁教育部長	「今、人権を考える」～豊かな人権感覚が育てるもの～
24	新井立夫	文教大学准教授	「今、社会に出ていくために子どもに求められていること、それを育むための保護者の役割と関わり方」
25	ヴァイヤルト千佳こ	臨床心理士	「まだ間に合う、親としてできること」 ～これからの社会を生き抜くために～
26	ピーター・フランクル	数学者・大道芸人	人生を楽しむ方程式 ～高校生を持つ保護者に向けて…～
27	大島武	東京工芸大学教授	コミュニケーション再考～もっと分かり合うために～
28	和田由香	医師	健全育成を考える～スマホ(SNS)の利用を通じて～
29	鈴木寛	文部科学大臣補佐官	変わる高校教育、その中でPTAに期待すること ～家庭教育・地域連携教育の向上を目指して～
30	三浦瑠麗	国際政治学者	グローバル化時代を生き抜く個人と社会
令和元	両角速	東海大学駅伝監督	前に進む力
2	新井紀子	国立情報学研究所 社会共有知研究センター長	人工知能がもたらす人間と社会の未来
3	講演なし		
4	宮澤ミシェル	元サッカー選手	子どもが輝くための子育て ～“ひと”を支える“ひと”になる～
5	パッケンマッケン	タレント	お金にまつわる笑劇的国際交流

## いじめをはじめとする困りごと

### ○24 時間子ども SOS ダイヤル

いじめに関する問題などさまざまな悩みの相談

**TEL:0120-0-78310**

【受付時間】毎日 24 時間 【休み】なし

### ○中高生 SNS 相談@かながわ

LINE による中高生のさまざまな悩みに関する相談

【受付期間】4/3～3/29（月・水・金）18:00～21:00  
（令和 5 年度）

【友だち追加】

**URL:<https://lin.ee/b6YVAFe>**

※友だち追加で相談可能な詳しい日程  
や時間が分かります。



2024  
**相談窓口**

ひとりで悩まず  
まずは相談して  
ください。

## 体罰・セクハラに関すること

### ○体罰に関する相談窓口

体罰に関する相談

**TEL:0466-81-1967**

【受付時間】月～金 8:45～12:00 13:00～16:45  
【休み】土・日・祝休日・年末年始

### ○県立学校におけるセクシュアル・ハラスメント に関する相談窓口

セクシュアル・ハラスメントに関する相談

**TEL:0466-81-1967**

【受付時間】月～金 8:45～12:00 13:00～16:45  
【休み】土・日・祝休日・年末年始

## 不登校・ひきこもりに関すること

### ○不登校ほっとライン

「学校に行けない」、「行きたくない」など不登校・引きこもりの相談

**TEL:0466-81-0185**

【受付時間】毎日 8:45～16:45 【休み】年末年始

### ○かながわ子ども・若者総合相談 LINE

ひきこもり・不登校・非行等の相談

【受付時間】火、木、土 14:00～21:00

【休み】祝休日・年末年始

【友だち追加】アプリを起動してホームの検索窓で

ID「kana-kowaka」と検索して追加。



## いのちをまもる

### ○いのちのほっとライン@かながわ

「生きるのがつらい」「気分が沈む」など、  
こころの健康に関する悩みを LINE で相談

【受付時間】月～金・日 17:00～21:30（令和 5 年度）  
【休み】土・祝休日・年末年始（令和 5 年度）

【友だち追加】**URL:<https://page.line.me/194qtyur>**

※友だち追加で相談可能な詳しい日程や時間が分かります。



### ○横浜いのちの電話 **TEL:045-335-4343**

【受付時間】日～水 8:00～22:00 木金土 8:00～翌 8:00  
【休み】なし

### ○川崎いのちの電話 **TEL:044-733-4343**

【受付時間】毎日 24 時間 【休み】なし  
※共通フリーダイヤル **TEL:0120-783-556**  
【受付時間】毎日 16:00～21:00 毎月 10 日は 8:00～翌 11 日 8:00  
【休み】なし

## 子どもに関するさまざまな相談

### ○神奈川県立総合教育センター（総合教育相談）

学校生活や家庭生活に関するさまざまな悩みの相談

**TEL:0466-81-0185** 【受付時間】毎日 8:45～16:45 【休み】年末年始

## 児童・生徒の発達に関する相談

### ○発達教育相談 TEL:[0466-84-2210](tel:0466-84-2210)

子どもの発達に関するさまざまな悩みの相談

【受付時間】毎日 8:45～16:45 【休み】年末年始

## こころの健康に関する相談

### ○こころの電話相談 TEL:[0120-821-606](tel:0120-821-606)

こころの病気、生活・仕事に関する悩み、対人関係の悩み、性に関する悩み(性的マイノリティ)等の相談

【受付時間】毎日 24 時間 【休み】なし

#### ○横浜市こころの電話相談 TEL:[045-662-3522](tel:045-662-3522)

【受付時間】月～金 17:00～21:30 土・日・祝日 8:45～21:30 【休み】なし

#### ○川崎市こころの電話相談 TEL:[044-246-6742](tel:044-246-6742)

【受付時間】毎日 9:00～21:00 年末年始 9:00～17:00 【休み】なし

#### ○相模原市こころのホットライン TEL:[042-769-9819](tel:042-769-9819)

【受付時間】毎日 17:00～22:00 (受付は 21:30 まで) 【休み】年末年始

#### ○横須賀こころの電話 TEL:[046-830-5407](tel:046-830-5407)

【受付時間】月～金 16:00～23:00 (毎月第 2 水曜日は 16:00～翌 6:00) 土・日・祝日 9:00～23:00 【休み】なし

## 人権(虐待・暴力など)に関する相談、子育ての悩みや非行などに関する相談

### ○子ども・家庭 110 番 TEL:[0466-84-7000](tel:0466-84-7000)

子育ての不安、親子関係や家族の悩みなど、子どもにかかわる相談

【受付時間】毎日 9:00～20:00 【休み】なし

#### ○横浜市電話児童相談室(横浜市在住の方) TEL:[045-260-4152](tel:045-260-4152)

【受付時間】月～金 9:00～17:30 土 9:00～16:30 【休み】日・祝日

#### ○川崎市児童虐待防止センター(川崎市在住の方) TEL:[0120-874-124](tel:0120-874-124)

【受付時間】24 時間 【休み】なし

#### ○相模原市児童相談所(相模原市在住の方) TEL:[042-730-3500](tel:042-730-3500)

【受付時間】月～金 8:30～17:00 【休み】土・日・祝休日・年末年始

#### ○横須賀市児童相談所(横須賀市在住の方) TEL:[046-8202-323](tel:046-8202-323)

【受付時間】月～金 8:30～17:00 【休み】土・日・祝休日・年末年始

### ○かながわ子ども家庭 110 番相談 LINE

【受付時間】月～土 9:00～21:00 【休み】日・年末年始【友だち追加】[URL: https://lin.ee/MrYNyV2](https://lin.ee/MrYNyV2)



### ○ユーステレホンコーナー(神奈川県警察少年相談・保護センター)TEL:[0120-45-7867](tel:0120-45-7867)

少年の非行問題やいじめ、犯罪被害等に関する相談

【受付時間】月～金 8:30～17:15 【休み】土・日・祝休日・年末年始

### ○人権・子どもホットライン TEL:[0466-84-1616](tel:0466-84-1616)

子ども専用の人権に関わるような悩み相談(通報は大人の方からも受け付けます)

【受付時間】9:00～20:00 【休み】なし

## 家族のケアに関する相談

家族などのお世話、介護や看病といったケアのこと。「ケアのことで悩んでいる」、「ケアで忙しく学校生活や進路のことが心配」

「自分の時間が持てない」「だれに相談したらいいかわからない」など、ケアに関するさまざまな相談

### ○かながわヤングケアラー等相談 LINE

【受付時間】月・火・木・土 14:00～21:00【休み】祝休日・年末年始【友だち追加】[URL:https://page.line.me/929qoxco](https://page.line.me/929qoxco)

### ○かながわケアラー電話相談 TEL:[045-212-0581](tel:045-212-0581)

【受付時間】水・金 10:00～20:00 日 10:00～16:00【休み】祝休日・年末年始



# 安全振興会 あらまし



- Q 1. 安全振興会設立の趣旨は何ですか。…………… A-2
- Q 2. 設立後の歩みはどうなっていますか。…………… A-2
- Q 3. 運営組織や役員の構成はどうなっていますか。…………… A-3
- Q 4. どんな事業を行っていますか。…………… A-3
- Q 5. 「学校安全の普及充実」事業とは何ですか。…………… A-3
- Q 6. 加入状況と加入方法を教えてください。…………… A-5
- Q 7. 会費はいくらですか。…………… A-5
- Q 8. 見舞金の給付条件は何ですか。…………… A-6
- Q 9. 中学生の時（安全振興会加入前）に負傷し、治療が続いている場合も、  
見舞金の請求ができますか。…………… A-6
- Q 10. 見舞金の種類や給付金額について教えてください。…………… A-6
- Q 11. 令和4年度の災害統計等について教えてください。…………… A-7
- Q 12. 見舞金請求の手続きを教えてください。…………… A-8
- Q 13. 見舞金等の請求には、期限がありますか。…………… A-8
- Q 14. 見舞金が給付されなかったり、減額されたりすることがありますか。A-8
- Q 15. 負傷等見舞金について補足してください。…………… A-9
- Q 16. 修学奨励制度について教えてください。…………… A-10
- 修学奨励金給付基準**…………… A-10

## 一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会

〒231-0023 横浜市中区山下町1番地 シルクセンター 326号室

電話 (045)274-8189 FAX (045)274-8190

<http://www.kanagawa-hsanzen.or.jp>

## Q1. 安全振興会設立の趣旨は何ですか。

学校管理下の事故による災害に対する共済制度として、日本学校安全会(現在の独立行政法人日本スポーツ振興センター(以下「スポーツ振興センター」))が見舞金や治療費の給付を行っていましたが、その額は社会通念上必ずしも十分とは言えませんでした。死亡や障害などの大きな災害は、本人並びに家族にとって精神的、経済的負担は計り知れないものがあります。また、時には災害をめぐって保護者と学校間あるいは保護者同士で、賠償問題等のトラブルが起きるといった不幸な事態に至ることもありました。そこで、災害を受けた生徒や保護者の早急な救済を図るために、県立高等学校PTA連合会(以下、高P連)と県立高等学校長会(以下、校長会)が神奈川県教育委員会の助言を得て昭和52(1977)年に安全振興会の前身となる神奈川県立高等学校災害共済会を設立しました。昭和56(1981)年の財団法人化を経て平成25(2013)年に一般財団法人となり、以降、スポーツ振興センターの給付金の不足を補って保護者の負担を軽減するなど、災害をめぐる様々な問題の解決を図りながら、共済事業を中心に活動しています。利益団体ではありませんので、保険に比べて少額の掛金で高額の見舞金が給付されます。

- ※ スポーツ振興センター見舞給付金の補充
- ※ スポーツ振興センターと安全振興会を合わせて医療費の6割の見舞金が給付されます。(給付には条件があります。)



## Q2. 設立後の歩みはどうなっていますか。

昭和52年	6月	県教育委員会の指導を受けながら校長会の協力を得て、高P連の内部組織として「神奈川県立高等学校災害共済会」が発足。
昭和56年	4月	公益法人としての設立が許可され「財団法人神奈川県立高等学校安全振興会」として高P連から独立した組織として発足。発足当時の状況は加入校 130校(全日制122校、定時制8校) 会員数 125,520人
平成5年	7月	県立全日制高校全165校の加入を達成。
平成7年	4月	通信制の加入を認める。
平成8年	4月	県立盲・ろう・養護学校の加入を認める。養護学校3校が初めて加入。
平成18年	6月	県立定時制高校19校全校加入を達成。
平成21年	4月	県立中等教育学校の加入を認める。
平成22年	10月	財団創設30周年記念式典挙行。
平成24年	4月	神奈川県教育委員会より「PTA・青少年教育団体共済法」に基づく共済事業が認可される。
平成25年	12月	一般財団法人に移行し、団体名称を一般財団法人神奈川県立高等学校安全振興会に変更した。
令和5年	6月	県立通信制高校2校全校加入を達成。
令和6年	6月	加入校155校(全日制131校、定時制20校、通信制2校、中等教育学校2校) 会員数 113,475人

### Q3. 運営組織や役員の構成はどうなっていますか。

高P連と校長会の現役員とOBが中心となって、評議員会や理事会などを組織して運営しています。  
また、財産管理・役員人事・事業内容・年度末会計等については、神奈川県教育委員会の指導監督の下で行っています。

- (1) 評議員 11名（高P連副会長 3名、校長会副会長 1名、学識経験者として高P連OB 3名、校長会OB 4名）
- (2) 理事 理事長以下8名（高P連会長、校長会会長、学識経験者として高P連OB 3名、校長会OB 3名）
- (3) 監事 3名（高P連副会長、校長会総務、学識経験者として高P連OB）
- (4) 作文コンクール選考委員 6名（学識経験者として校長会OB 6名）

### Q4. どんな事業を行っていますか。

安全振興会は、主に次の3つの事業をしています。

#### 1. 見舞金の給付に関すること

学校管理下の災害に対し、各種の見舞金の給付を行っています。

#### 2. 学校安全の普及充実に関すること

災害を未然に防ぐために、生徒の安全意識の向上、安全な生活環境整備のための各種事業を行っています。

#### 3. 修学奨励金の給付に関すること

学資の支弁が困難な生徒に対し、修学奨励金を給付しています。

### Q5. 「学校安全の普及充実」事業とは何ですか。

被害者を救済するということも大切ですが、なによりも事故に遭わない、事故を起こさないことが大事です。安全振興会では「学校安全の普及充実」事業として、生徒の安全意識の啓発と向上、及び安全な生活環境の整備をめざして、次のような事業を行っています。

#### 1. 広報活動

##### (1) 『安全振興会報』の発行

年2回(8月、2月)『安全振興会報』を発行しています。本会の事業内容の紹介や安全に関する情報提供を行っています。

##### (2) 次年度版『安全振興会のご案内』の発行

毎年12月に最高学年を除く学年の全保護者等と、新入生の保護者向けに次年度版『安全振興会のご案内』を発行し本会の趣旨や事業内容を紹介しています。表紙に高P連の広報紙コンクール安全振興会写真賞に入賞した写真を使用します。

また、この『安全振興会のご案内』は高P連地区大会や県立高等学校等交通安全教育推進協議会と高P連が主催する地区交通安全大会など、さまざまな集会で配付して安全振興会の理解の一助としています。

#### 2. 安全推進月間の実施

11月を安全推進月間に指定し、生徒の安全意識の啓発と向上、及び安全の推進に係る事業を実施しています。

## (1) 作文コンクール

県立の高等学校、中等教育学校及び特別支援学校高等部の生徒から、安全又は健康に関する作文を募集し、最優秀賞の2編については、高P連県大会において本人による朗読と、「安全振興会のご案内」、「安全振興会報」の掲載により広く発表しています。

(参考 1) 直近7年間の応募状況

年 度	平成 30	令和元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6
学 校 数	18	20	17	24	18	14	16
応募編数	940	898	366	1,456	1,223	659	1,154

(参考 2) 令和6年度作文コンクール応募校

二俣川看護福祉、横浜桜陽、柏陽、新城、住吉、生田東、麻生総合、菅、大磯、平塚農商、西湘、吉田島、海老名、津久井、厚木清南、平塚ろう

## (2) ポスターコンクール

県内の高校生から作文コンクール作品募集と安全推進月間キャンペーン用のポスター原画を募集します。

実施を神奈川県高等学校文化連盟美術・工芸専門部会に委託し本会にて審査をしています。最優秀作品をB1版ポスターに作成し、各学校に配付しています。

令和6年度は15校163作品の応募がありました。

(令和6年度作品。左:安全推進週間、右:作文募集 ⇒)



## 3. 補助事業

生徒の安全と健康に関わる次の事業に補助金を交付しています。

令和6年度の補助事業交付金は次の通りです。

No.	名 称	対 象 団 体	交付額
1	高P連交通安全運動等健全育成事業	県立高等学校PTA連合会	265万円
2	高P連安全啓発事業	県立高等学校PTA連合会	81万円
3	交通安全教育推進運動「スタートかながわ」を中心とした交通安全運動の展開と交通安全教育に係る指導方法の研究	県立学校長会	343万円
4	高文連安全対策事業	県高等学校文化連盟	40万円
5	高体連安全対策事業	県高等学校体育連盟	10万円
6	定時制通信制高校における安全・健康のあり方に関する研究	県立高等学校定時制通信制教頭会	20万円
7	保健体育部会研究	県高等学校教科研究会保健体育部会	10万円
8	県立学校養護教諭研修講座・学校保健研究大会	県立高等学校教科研究会養護部会	10万円

## 4. 委託事業

学校安全の普及充実のための事業を令和6年度は次の通り委託しています。

安全振興会ポスター原画募集事業 (ポスターコンクール)

対 象 団 体 神奈川県高等学校文化連盟 美術・工芸専門部会

委 託 金 15万円

## Q6. 加入状況と加入方法を教えてください。

皆さまにご理解をいただきまして、現在、県立高等学校の全校全課程(全日制131校、定時制20校、通信制2校)及び県立中等教育学校全(2校)にご加入いただいております。

安全振興会への加入は、保護者等が個人で加入手続きを行うのではなく、**学校単位で安全振興会に団体加入**の手続きを行っていただきます。

平成25年度から、PTA・青少年教育団体共済法により共済契約者(PTAの代表者(PTAが組織されていない学校等にあつては、当該学校の長。))は前年度に本会へ共済契約申込の手続きを申請していただくことになりました。これにより当該年度当初から共済期間となります。加えて共済契約者は学校を通して、当該年度6月20日までに、加入・更新届の提出及び会費の納入をお願いします。

## Q7. 会費はいくらですか。

会費(年度ごと)は、共済掛金(純掛金+付加共済掛金)と一般会費の合計となります。

学校・課程	会費額		会費内訳		合計
	共済掛金		一般会費		
	純掛金	付加共済掛金			
高等学校 *全日制	708円	372円	120円		1,200円
定時制	354円	186円	60円		600円
通信制	106円	56円	18円		180円
中等教育学校	708円	372円	120円		1,200円

\*「高等学校」には特別支援学校高等部を含みます。

[注] 共済掛金の割合については、見直すこともあります。

(使途)

- ・純掛金：見舞金の給付
- ・付加共済掛金：見舞金給付に係る経費、安全普及啓発事業及びその経費
- ・一般会費：修学奨励事業、供花料及び共済会計以外の管理費

※ 途中加入の場合は、共済契約期間の終期までの月割計算した共済掛金(純掛金+共済掛金)と一般会費(年額)の合計額となります。

※ 途中退会の場合は、当該共済契約期間終期までの月割計算した共済掛金(純掛金+共済掛金)から手数料(500円)を差し引いた額を返還します。ただし返還額が100円未満の場合は返還しません。一般会費については返還できませんので予めご了承ください。

※ **例えば、医療費に10万円掛かったとします。3割負担のご家庭では3万円を医療機関に支払います。請求により、給付条件を満たせばスポーツ振興センターから4万円、安全振興会から2万円の合計6万円が給付されます。**

例えば全日制の生徒さんなら年間1,200円の会費で、種々の見舞金等の給付対象となります。**ひと月分に換算するとなんと100円です!**



## Q8. 見舞金の給付条件は何ですか。

スポーツ振興センター法施行令の規定に準じて、学校管理下で生徒に死亡、障害、負傷等の災害が発生したとき、安全振興会から会員(保護者等)に見舞金を給付します。「学校管理下」とは、次のような場合です。

- (1) 生徒が、法令の規定により学校が編成した教育課程に基づく授業を受けている場合。
- (2) 生徒が、学校の教育課程に基づいて行われる課外指導を受けている場合。
- (3) 生徒が、休憩時間中に学校にある場合。その他校長の指示または承認に基づいて学校にある場合。
- (4) 生徒が、通常の経路および方法により通学する場合。
- (5) (1)から(4)の場合に準ずる場合として、文部科学省令で定める場合。

※ スポーツ振興センターの給付対象であることが必要です。

※ 負傷等見舞金はセンターの給付額の合計が同じ災害につき15,000円(窓口負担なしの場合は3,750円)以上が対象となります。

## Q9. 中学生の時(安全振興会加入前)に負傷し、治療が続いている場合も、見舞金の請求ができますか。

できません。高校入学後(安全振興会加入後)の災害が対象です。スポーツ振興センターの給付が継続していても、高校入学前(入会前)に発生した災害は契約外のため見舞金給付の対象とはなりません。

## Q10. 見舞金の種類や給付金額について教えてください。

スポーツ振興センターの給付額を基準に給付します。見舞金の種類と金額は次の通りです。

- (1) **死亡見舞金** スポーツ振興センター給付額の **5割で、最高額1,500万円**
- (2) **障害見舞金** 治療が終わっても身体に障害が残った場合に支払われる見舞金です。障害の程度により1級から14級まであり、スポーツ振興センター給付額の **5割で、最高額2,000万円(1級2,000万円~14級44万円)**
- (3) **負傷等見舞金** 同一の事由による災害に対するスポーツ振興センターの医療費給付額が **15,000円(窓口負担なしの場合は3,750円)以上となったとき、スポーツ振興センターの給付額の5割**
- (4) **歯牙欠損見舞金** スポーツ振興センターの給付額の **5割(令和4年4月1日以降の災害が対象。令和4年3月31日以前の災害は義歯見舞金で対応します。)**

この他に、スポーツ振興センターとは関係なく**本会独自の給付金**として次のものがあります。

- (1) **供花料** 生徒が死亡した場合、供花料として **10万円**を給付します。上記の死亡見舞金とは異なり、交通事故や病気による死亡など、学校管理下でなくても生徒が死亡した場合に給付します。
- (2) **義歯見舞金** スポーツ振興センターの障害見舞金・歯牙欠損見舞金の対象とならない歯科補綴2歯以下について**1当り5万円**を給付します。
- (3) **特別見舞金** 災害の状況により、スポーツ振興センターの見舞金給付の対象にならない場合がありますが、そのような特別な事情による死亡又は障害に対しては、審査のうえ特別見舞金を給付することがあります。

## Q11. 令和5年度の災害統計について教えてください。

- (1) 新規申請のうち、学校管理下での災害は1,433件です。(令和4年度は1,360件)
- (2) 学校管理下のうち「部活動」が925件で、学校管理下での災害全体の64.5%です。
- (3) 通学時等、学校管理下での自転車事故に起因する災害の申請は107件です。

〔令和5年度災害と給付状況〕

〔負傷等の内訳〕

種 類	合 計		内 訳	新 規	継 続	合 計
	件数	金額				
死亡見舞金 計	0	0	骨 折	686	107	793
障害見舞金 計	2	2,015,000	捻 挫	108	10	118
負傷等見舞金	新規	1,412	脱 臼	86	21	107
	継続	367	打 撲	82	12	94
	合計	1,779	外 傷	43	3	46
歯牙欠損見舞金 計	1	40,000	膝 内 障	11	8	19
義歯見舞金 計	17	1,100,000	歯 牙 破 折	28	6	34
供 花 料 計	14	1,400,000	アキレス腱断裂	3	2	5
総 計	1,813	69,471,200	半 月 板 損 傷	39	23	62
			膝 靭 帯 損 傷	125	127	252
			足 関 節 靭 帯 損 傷	101	17	118
			へ ル ニ ア	60	18	78
			そ の 他	40	13	53
			合 計	1,412	367	1,779

※「負傷等見舞金」の欄の「新規」とは、当該年度に第1回目の請求のあったもの。「継続」とは、同一の災害について2回目以降に給付したもの(前年度以前から継続している負傷等見舞金と、当該年度において2回目以降の負傷等見舞金のこと)です。

(参考) 見舞金等給付 過去10年間の推移

年 度	件数 (件)	給付額 (円)	年 度	件数 (件)	給付額 (円)
26	2,052	83,110,200	R1	2,173	146,974,900
27	2,010	98,014,600	R2	1,768	72,576,800
28	2,161	102,670,300	R3	1,871	81,391,300
29	2,154	131,642,300	R4	1,783	87,698,200
30	2,171	112,333,100	R5	1,813	69,471,200

## Q12. 見舞金請求の手続きを教えてください。(Q15.参照)

学校を通しての請求となります。

- (1) 学校管理下で災害が起きたら、まず学校からスポーツ振興センターに見舞金の請求を行います。
- (2) スポーツ振興センターから見舞金が給付されましたら、書類を整え学校から安全振興会に請求します。
- (3) 負傷等見舞金では、同一災害につきスポーツ振興センターの給付合計が15,000円以上になったとき(窓口負担なしの場合は3,750円以上)、学校から安全振興会に見舞金の支払請求(初回)を行います。
- (4) 学校からの請求を受けて、安全振興会は規定に従って給付額を決定し、会員(保護者等)名義の口座に見舞金を振込みます。振込みを確認した後に「見舞金等支払通知書」を校長宛と保護者(会員)宛の双方を学校に送付します。

## Q13. 見舞金等の請求には、期限がありますか。

見舞金を請求する権利は、その給付事由が生じた日から3年間請求が行われないときは消滅します。

【給付事由が生じた日】

- ・死亡見舞金/障害見舞金/歯牙欠損見舞金  
⇒スポーツ振興センターが死亡見舞金/障害見舞金/歯牙欠損見舞金を給付した日
- ・負傷等見舞金 ⇒スポーツ振興センターの給付額が15,000円(窓口負担なしの場合は3,750円)に達した日
- ・義歯見舞金 ⇒歯科補綴等が完了した日
- ・供花料 ⇒死亡した日

## Q14. 見舞金が給付されなかったり、減額されたりすることがありますか。

1. スポーツ振興センターの基準に準じ、次のようなときは見舞金の給付を行いません。
  - (1) 同一の負傷または疾病に関する給付は、スポーツ振興センターの医療費の給付開始後10年までです。ただし、障害見舞金の給付については、この限りではありません。
  - (2) 他の法令の規定により国又は地方公共団体の負担において療養若しくは療養費の支給を受け、又は補償若しくは給付を受けたときは、その受けた限度において見舞金の支給を行いません。
  - (3) 非常災害(風水害、震災、事変その他の非常災害であって、当該非常災害が発生した地域の多数の住民が被害を受けたものをいう。)の場合。
  - (4) 自己の故意によるときは、障害若しくは死亡に係る場合。(供花料はこの限りではありません。)
2. 次のようなときは、本会は見舞金給付の一部を行わないことがあります。
  - (1) 第三者から損害賠償を受けた場合、その受けた価額の限度において見舞金の支給を行わないことがあります。
  - (2) 自己の重大な過失によるときは障害若しくは死亡に係る見舞金給付の一部を行わないことがあります。
3. 次のようなときは見舞金の削減・分割をすることがあります。
  - (1) 特別な災害その他の事由により共済契約に係る所定の見舞金を支払うことができない場合には、見舞金の削減を行うことがあります。
  - (2) 見舞金を支払うべき資金に不足が生じたため、支給額を支払うことが困難となった場合は、分割して支払うことがあります。

## Q15. 負傷等見舞金について補足してください。(Q12.参照)

負傷等で医療機関に掛かった時、窓口での支払い額(負担額)が**医療費の3割の場合**を説明します。

① まず、学校から書類を受取り、学校を経由してスポーツ振興センターに請求をします。その請求に基づいて、**スポーツ振興センターからは**、窓口負担額である医療費の3割と、スポーツ振興センター付加支給分として医療費の1割が加算され、**合計して医療費の4割が給付されます**。

② 次に**スポーツ振興センターから同じ災害での負傷等に対して給付された額が15,000円以上**になりましたら、学校から書類を受取り、学校経由で安全振興会へ請求をしてください。安全振興会から、**スポーツ振興センター給付額の5割(つまり医療費の2割)**を指定された口座にお振込みいたします。

例えば、医療費が10万円の場合、医療機関に3万円を支払います。この場合、請求によりスポーツ振興センターから4万円、安全振興会から2万円の合計6万円の見舞金が給付されます。

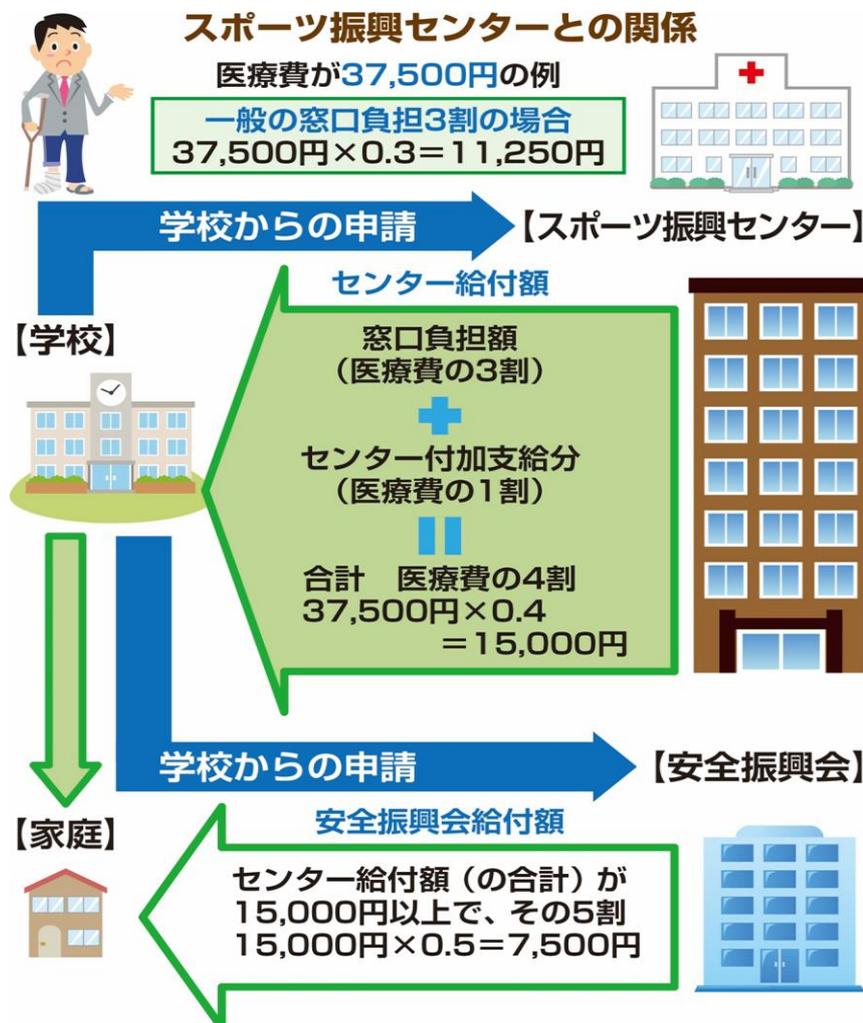
安全振興会の給付対象になるスポーツ振興センターの給付額が15,000円以上とは、医療費が37,500円以上(窓口支払額が11,250円以上)の場合が該当します。医療費が37,500円(窓口支払額が11,250円)未満の場合は安全振興会の給付対象にはなりませんのでご注意ください。

医療費 37,500円 ⇒ 窓口支払額は  $37,500円 \times 0.3$  (3割負担) = 11,250円

【請求】 ⇒ スポーツ振興センターから  $37,500円 \times 0.4 = 15,000円$  …①

【請求】 ⇒ 安全振興会から  $15,000円 \times 0.5 = 7,500円$  …②

【給付】 合計 ①15,000円 + ②7,500円 = 22,500円 が給付されます。

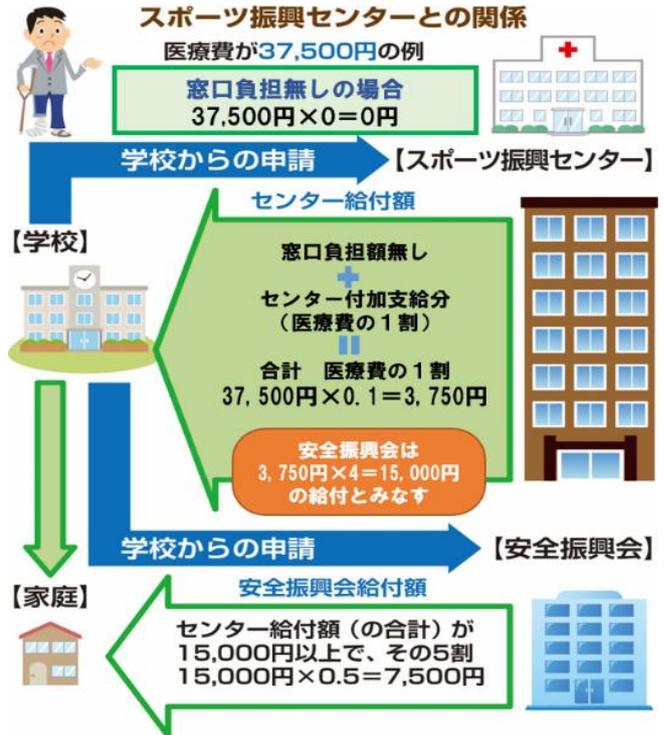


## 医療機関での窓口負担無しの場合

スポーツ振興センター医療費給付額はセンター付加給付分である医療費の1割となります。

この場合安全振興会では、スポーツ振興センター給付額の4倍を給付額とみなし、その額が15,000円以上となった場合、その5割を給付します。

これにより医療機関での窓口負担無しの場合でも、本会から窓口負担3割の場合と同額の見舞金が給付されます。



## Q16. 修学奨励制度について教えてください。

令和6年度の募集要項は次のとおりでした。令和7年度は給付年額80,000円になります。年度当初学校に配付される要項または本会ホームページをご確認ください。学校推薦となりますので、ご注意ください。

(1) 出願資格 保護者等が本会の会員で、次の1)、2)のいずれかに該当する者

1) 「修学奨励金給付基準」第2条に該当する者

2) その他特別の事情で学資の支弁が困難な者

※ 他の奨学金との併給が可能です。(返還の必要はありません)

(2) 給付月額 : 6,000円 (年額72,000円)

(3) 採用定員 : 全県立高校全日制・定時制・通信制各課程につき1名、全中等教育学校各1名

(4) 給付期間 : 令和6年4月から令和7年3月まで

(5) 出願方法 : 校内で奨励生に推薦された者は、修学奨励生願書を学校に提出。

学校は修学奨励生推薦書を添えて本会に出願してください。

※ 同じ生徒に、1学年から卒業学年までの間に複数回給付することも可能です。

### 【参考】修学奨励金給付基準

第2条 運営規則第15条第1項1号に係る対象者は、次の各号に定める者とする。

(1) 生活保護法(平成25年法律第144号)に基づく保護を受けている者

(2) 生活保護法に基づく保護を受けている者に準ずる者で、地方税法の規定により市町村民税の所得割を納付していない者

(3) 児童福祉法に基づく措置を受け、児童福祉施設に入所している者等

